

4 希少な植物群落

持続可能な開発目標（SDGs）の目標の一つに目標 15「陸の豊かさを守ろう」があり、陸域生態系の保護・回復や生物多様性の損失阻止が掲げられている。植物群落は生態系の基本単位であり、生物多様性の拠りどころともいえる。

かつては自然度の高い原生的な自然に注目が集まったが、近年は人と自然とが折り合いをつけて保たれてきた里山などの二次的自然についても、持続的な利用、歴史文化の背景、生物多様性など様々な面から、価値が認められるようになった。開発の前に行なう環境アセスメントにおいても、希少動植物種の保護増殖や野生復帰を検討する際にも、生態系あるいは自然環境の指標として植物群落の調査が用いられている。このような時代に、保護すべき植物群落を明確にしておくことは、ますます重要になっている。

埼玉県内における植物群落の研究は、1960年代後半～1970年代にかけて、埼玉大学の永野巖教授の研究室を中心に盛んになった。初の体系的な把握は1978年、環境庁（当時）からの委託により県が実施した第2回自然環境保全基礎調査である。学術的に重要な群落や保護の必要な群落が特定植物群落に選定され、植物社会学的調査が行われた。1996年には『植物群落レッドデータ・ブック』（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会、1996）が刊行され、日本全国で7,492件、埼玉県からは88件の群落に掲載された。さらに、『埼玉県レッドデータブック 2005 植物編』（埼玉県環境防災部みどり自然課編、2005）では、これらの群落を中心に、消滅のおそれのある植物群落として367件が市町村ごとに掲載された。前回改訂版の『埼玉県レッドデータブック 2011 植物編』（埼玉県環境部自然環境課編、2012）（以下、「前版」という。）では、県内の重要な植物群落がタイプごとに掲載され、暫定的に実施された調査員による現地確認を踏まえて特記すべき事項については各群落の詳細解説の中に盛り込まれた。

今回の改訂では、さらに草本群落も含めて県内に分布する植物群落の整理を行うとともに、希少種調査とあわせて実施できる簡易的な手法によって調査員による植物群落の概要調査を実施し、その結果をもとに各群落の重要度の評価と、保護上重要な群落の選定を行った。

その結果、重要な単一群落として重要度Ⅰが67群落、重要度Ⅱが103群落、重要度Ⅲが40群落、それぞれ選定された。また、主要構成種が絶滅しているなど、県内で消滅していると考えられている単一群落が15群落あった。

保護上重要な具体的な群落としては、ランクS（絶滅危惧ⅠA類相当）が42件、ランクA（絶滅危惧ⅠB類相当）が292件、ランクB（絶滅危惧Ⅱ類相当）が718件、ランクC（準絶滅危惧相当）が822件、合計1,874件が選定された。

これにより、これまでは把握が中心で保全に関する具体的な指標までは示せていなかった植物群落についても、一定の評価を行うことができた。一方で、県全域で見れば依然として把握しきれていない群落も多く、また植物社会学的調査に基づく評価でもないことから、あくまで保護上重要な植物群落の理解と今後の保全管理の目安として、役立てていただければ幸いである。

植物群落を保全することは、植物だけでなく動物や菌類など様々な生きものが暮らす場を維持し、地域の生態系を良い状態に保つことを意味する。同時に、その場所の立地や環境、人の暮らしと自然との関わりあいの歴史や、長い時間かけて成立してきた地域の文化を尊重することにも繋がる。

近年、環境の変化や遷移の進行、外来種による影響、野生動物の食害などにより、面的には群落として残っていても種構成などに大きな変化が生じている場所が多くある。今後は、県内の重要な植物群落を定期的に調査する体制を整えて状態の変化まで把握していくことが必要であり、各種航空写真や環境省が整備・更新を行っている現存植生図などとあわせて、植物群落の質や量の変化を踏まえた効果的な保全を行っていくことが望まれる。

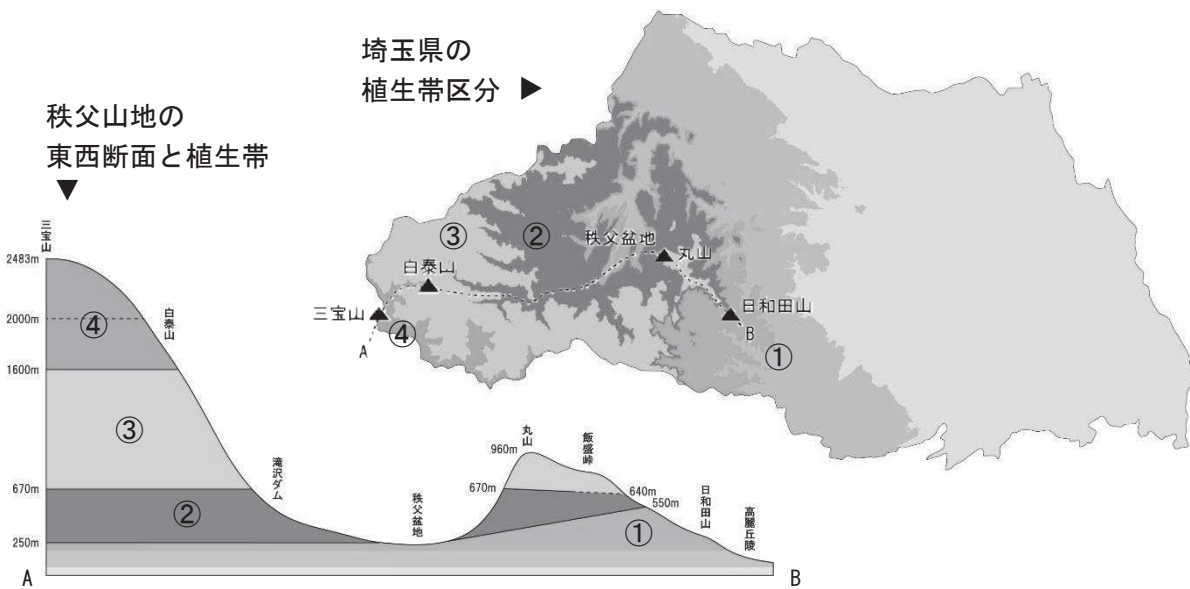
なお、群落の捉え方・名称については、原則として一定の範囲を占めている優占種で群落を捉え、優占種の和名を冠して群落名とした。植物群落を種組成に基づいて分類・命名する植物社会学的な捉え方とは異なるが、相観（植生の外観）で把握でき調査のハードルが低くなること、既存データ等からの把握も容易であることなどから、一般の利用を想定して編集・発行されている都道府県のレッドデータブックなどではよく用いられている方法である。

扱った群落が、種組成に基づいて植物社会学的に分類・命名された群集単位に該当すると考えられる場合や、関連が深い群集がある場合には、群集名を「関連群集」欄に掲載することとした。

(1) 埼玉県の植物群落

埼玉県は日本列島のほぼ中央に位置し、水平的気候区分の冷温帯域と暖温帯域が交錯している地域でもある。したがって低山地では落葉樹も常緑樹も混在しているのが特徴である。埼玉県の地形は埼玉平野の低地から西方の山岳地域に至るまで標高差が大きく、このような垂直的地形の変化に応じて成立する森林は暖温帯林から亜寒帯林（亜高山帯林）まで漸次的に移り変わる。

2021年に整備が完了した環境省1:25,000植生図（計56図幅）（図は10ページ）を見ると、秩父の高標高域には凡例が緑系色の自然林・二次林が分布し、秩父盆地周辺部の低山には茶色の植林が多く、中央部南北に連なる丘陵・台地ではクリーム色の畑や黄色のゴルフ場、赤色のアカマツ林が目立ち、低地部では水色の水田やグレーの市街地が広がっていることが視覚的に概観することができる。



① 暖温帯（低地、台地、丘陵、山地下部） 南部 550m 以下／北部 250m 以下

常緑広葉樹（照葉樹）を中心とした森林が発達する植生帯。

シラカシ林、アカガシ林、スダジイ林、タブノキ林、ムクノキ・エノキ林など。

埼玉県の暖温帯域の範囲は、県南部の山地においては標高約 550m 以下、県北部では標高約 250m 以下の山地と丘陵および台地・低地である。この地域には質的に多様な森林群落が認められる。すなわち、極相としてはスダジイ林・ウラジログシ林・アカガシ林・モミ林（ヒサカキ型）・アラカシ林（ヒサカキ型）・シラカシ林・ケヤキ・ミズキ林があり、二次林としてはアカマツ林（ヒサカキ型）・コナラ林（ヒサカキ型）・アカシデーヌシデ林・ハンノキ林・河川ヤナギ低木林、植林のクヌギ林・スギ・ヒノキ林・竹林があげられる（永野 1986）。しかし、今日ではこれらの森林（照葉樹林）の多くは社寺林を除き消滅し、西部山地や丘陵地に発達していた農用林や武蔵野の雑木林もそのほとんどは失われている。

② 中間温帯（山地下部） 南部 550-640m / 北部 250-670m

暖温帯と冷温帯の「推移帯」にあたり、様々なタイプの森林がみられる。

コナラ・クリ林、モミ・ツガ林、アカマツ林、アラカシ林、ケヤキ林など。

埼玉県は関東地方の内陸部であるため、暖温帯林と冷温帯林の間に内陸性気候下の特異な森林帯として中間温帯林がある。中間温帯林の成立域は県西南部山地では標高約 550m から標高約 640m まで、県西北部山地では標高約 250m から標高約 670m までと分布の幅は南部で狭く北部で広い。したがってこの中間温帯は東京都側では高尾山付近で消え、周辺山地は暖温帯要素と冷温帯要素の混生帯となっている。一方、北関東側では葛生山地で消滅し、以東の山地ではやはり混生帯になる。このように内陸性気候下の特徴をもつ中間温帯の範囲は埼玉県では秩父盆地とそれを取りまく周縁の山々である。中間温帯林の中核はモミ林であるが、構成種に暖温帯要素を欠く一方、冷温帯要素との共通種によって構成されているのが特徴である。すなわち典型的なモミ林はヤマツツジ型で、地形によってその上限は標高約 800m まで上昇し、冷温帯下部まで広く成立している。中間温帯の極相はモミ林のほかアラカシ林（ミツバツツジ型）・ケヤキ・ヤマシバカエデ林・アカマツ林（ミツバツツジ型）・コナラ林（ミツバツツジ型）、二次林はアカマツ林（ヤマツツジ型）・コナラ林（ヤマツツジ型）・オニグルミ林・カラスザンショウ林、ほかに植林のスギ・ヒノキ林がある。

③ 冷温帯（山地上部） 南部 640-1,600m / 北部 670-1,600m

落葉広葉樹を中心とした森林が発達する植生帯。

ブナ・イヌブナ林、ミズナラ・クリ林、ヒノキ林、シオジ・サワグルミ林など。

中間温帯の上部には冷温帯が広がり、その上限は標高約 1,600m 付近である。それに対し下限は県西南部山地で標高約 640m、県西北部山地では標高約 670m とされる。冷温帯に発達する代表的な極相はブナ林であり、その垂直的下限に関して永戸・島井（1998）は飯能市の子の山からイヌブナを含む壮齢なブナ林（標高 605m）を報告し、さらに飯能市の顔振峠において各階層にブナを伴うアカガシ林（標高 520m）を報告した（永戸・島井 1999）。一般的にブナ林は土壤の発達が良い山腹に成立するが、急傾斜で表土の浅い地域にはイヌブナ林が分布している。今日では各地のブナ林は広大な面積にわたって伐採され、その跡地は植林・二次林・ササ草原に変貌した。しかし、奥秩父山地東端に位置する大持山（1,294m）の稜線上には小規模ながら往時を偲ばせる壮齢なブナ林が残存しており、貴重な森林となっている（島井・永戸 2010）。ツガ林も冷温帯の極相林で、分布の上限は標高約 1,600m 付近であるが、下限は秩父市大野原（標高約 250m）にも見られるように分布の幅は大きい。ツガ林の典型的な林分は東京大学秩父演習林内で見ることができる。そのほか極相としてはヒノキ林・シオジ林・サワラ林・ヤマグルマ林があり、二次林にはミズナラ林・フサザクラ林がある。

④ 亜寒帯（亜高山） 1,600m 以上

常緑針葉樹を中心とした森林が発達する植生帯。

シラビソ・オオシラビソ林、コメツガ林、ダケカンバ林など。

奥秩父の原生林とも言われてきた秩父山地亜寒帯針葉樹林のうち、主としてコメツガ林は中津川源流域や豆焼沢、大洞川流域などですでに伐採され、冷温帯域と同様にササ草原や植林に変えられている。亜寒帯針葉樹林の垂直的な広がりには標高約 1,600m から三宝山（2,483m）まで約 880m の標高差がある。この亜寒帯は標高約 2,000m 付近で大別されて下部にコメツガ帯、上部にシラビソ・オオシラビソ帯が広がる。亜寒帯下部に広がるコメツガ林の林床はコケ型・シダ型・ササ型・裸地型の 4 つに類型化され、それぞれコメツガの更新に関係している。そのうちコケ型の林床は地上更新、シダ型やササ型は倒木上更新、裸地型は季節風や積雪の影響から更新が阻害される傾向がある。一方、三宝山（2,483m）や甲武信岳（2,475m）のような亜寒帯上部にはシラビソ・オオシラビソ林が分布するが、とくにオオシラビソを優占種とする林分では天然更新の様式である縞枯現象が認められる。亜寒帯の極相林にはウラジロモミ林・クロベ・ヒメコマツ林・ハコネコメツツジ矮性低木林があり、二次林としてはカラマツ林・ダケカンバ林がある。

⑤ 人の暮らしと関わりの深い植生

水田、畑、雑木林、谷津田、植林、草地など。

これまで挙げた森林群落の代償植生以外にも、県内には古くから人が暮らし、生業とともに形成されてきた多様な植生が成立している。丘陵の小谷には谷津田があり、水田雑草群落や路傍・林縁草本群落が見られる。かつてはモウセンゴケ群落やカキラン群落などの貧栄養湿原や低層湿原・挺水植物群落なども見られたが、農薬の影響や管理放棄などにより失われた群落もある。谷津の奥には溜め池があり、浮葉植物群落や沈水植物群落が残る。台地上には広く畑が分布し路傍・林縁草本群落が、東部の低地には水田が広がり水田雑草群落が多く分布する。かつては農用に管理された草地が広く成立し、ススキやチガヤなどの二次草地が広く成立したと考えられるが、現在はほとんど残されていない。

⑥ 特殊な立地にみられる植生

池沼、氾濫原、礫河原、岩畳、春植物、石灰岩地など。

県内にはこのほかにも様々な立地がある。

下流域では大規模な氾濫原にヨシやオギの群落が発達する。その河川敷にはサクラソウ、チョウジソウ、ノカラマツなどの特徴ある植物群落が見られる。水田地帯では、水路、溜め池、池沼内に多様な水生植物群落が見られる。特に加須市浮野の湿性植物群落にはトキソウ、クサレダマ、カキツバタ、イトハコベなど貴重な植物群落が生育する。

元荒川や古利根川水系の堰部には、キタミソウを代表とする特異な生活形を持つ草本植物群落が見られる。荒川中流域の砂礫地には、カワラナデシコ、カワラニガナ、カワラサイコなどの植物群落が見られる。中流域では、長瀨の岩畳などでユキヤナギ、シラン、タヌキランなどの特徴的な植物群落が成立している。

低山帯から丘陵帯にかけての路傍や林縁には、フクジュソウ、セツブンソウ、カタクリなどの早春植物群落が多く見られ、保護されている生育地もある。また、山麓湿地などにも貴重な植物群落が見られたが、近年減少傾向が顕著で絶滅した群落もある。

亜高山帯の雁坂峠、雁峠、笠取山、将監峠などにはやや発達した風衝草原が見られる。亜高山帯から山地帯の尾根や岩塊地には様々な草本植物群落が見られ、特にチチブイワザクラ、チチブリンドウ、キバナコウリンカなど学術上貴重な群落の多くは石灰岩上に形成されている。

石灰岩地は、暖温帯から亜寒帯までの各地に分布し、埼玉県の植生の多様性をさらに特徴づけている。すなわち、石灰岩という特異な基盤条件を反映して生態的特徴を示す群落や多くの固有種・遺存種が確認されている。埼玉県の石灰岩地帯で認められた極相林としては、アラカシ林（暖温帯）・イワシモツケ矮性低木林（冷温帯～亜寒帯）・チチブミネバリ亜高木林（冷温帯～亜寒帯）・ウラジロガシ林（中間温帯）・イヌブナ林（冷温帯）・ツガ林（冷温帯）・シオジ林（冷温帯）・アサダ林（中間温帯～冷温帯）・ケヤキ林（冷温帯）・アカシデ林（冷温帯）・コメツガ林（亜寒帯）があげられ、二次林にはミズナラ林（冷温帯）・フサザクラ林（冷温帯）・オニグルミ林（中間温帯～冷温帯）・キブシ低木林（中間温帯）などがある。しかし、今日では武甲山（1,304m）をはじめ石灰岩地の多くは採掘が進み、固有の植生は次々失われている。

(2) 現地調査

維管束植物の現地調査の機会などをとらえ、前回レッドデータブックに掲載されている植物群落を中心に、以下の調査票を用いて概要を把握する調査を行った。

記録した主な項目は、以下のとおり。

- ・メッシュコードまたは緯度経度
- ・標高・確認日
- ・斜面方位
- ・斜面傾斜角
- ・各階層の高さ・植被率、主な構成種（数種まで）
- ・消滅危険の主要因

- ・ 所見（環境、手入れ、下刈り、間伐、崩落、食害等）
- ・ 現地の変化（拡大減少、個体数の増減、環境変化等）に関する聞き取り・印象あわせて、以下の図・写真についても、可能な範囲で記録を行った。
- ・ 群落の位置図
- ・ 群落の全景写真
- ・ 調査範囲の相観写真
- ・ 調査地の林冠を見上げた写真
- ・ 調査地の地表を見下ろした写真

植物群落(主に草本)調査票(部外秘) P1

調査番号 (新標は0記入) 整理番号(事務局記入)

郡番号

郡名

郡内番号 **林・林床等**

調査地 **市町村**

メッシュコード

標高 m

現地緯経度 西暦 年 月 日

31 湧水	36 幹木枯物	71 懸崖表土
32 湧水・湧き水	37 幹木枯物	72 森林の表土
33 湧き水	38 湧き水	73 湧き水
34 林内湧水(旱草以外)	39 湧き水	74 湧き水
35 石灰質湧水		75 湧き水

群落の概況

上方位階群用し、異質群が多い。またはP2に該当する

斜面方位 (北・北東・東・南東・南・南西・西・北西)

斜面傾斜角 () 傾斜は() 傾斜は()

群落面積 () m x () m

各層の高さ・樹高、主な構成種(数値まで)	
高木層(高さ) (種数率 %)	
中木層(高さ) (種数率 %)	
低木層(高さ) (種数率 %)	
草花層(高さ) (種数率 %)	
つばき	

内観在樹の主原因

76 樹木の倒壊
77 樹木の枯死
78 樹木の倒壊
79 樹木の倒壊
80 樹木の倒壊
81 樹木の倒壊
82 樹木の倒壊
83 樹木の倒壊
84 樹木の倒壊
85 樹木の倒壊
86 樹木の倒壊
87 樹木の倒壊
88 樹木の倒壊
89 樹木の倒壊
90 樹木の倒壊
91 樹木の倒壊
92 樹木の倒壊
93 樹木の倒壊
94 樹木の倒壊
95 樹木の倒壊
96 樹木の倒壊
97 樹木の倒壊
98 樹木の倒壊
99 樹木の倒壊
100 樹木の倒壊

所見(傾斜、干害、下刈り、間伐、崩落、食害等)

現地の変化(拡大減少、個体数の増減、環境変化等)に関する聞き取り・印象

調査者氏名 協同作業者

調査地図(調査地点をマークする)、写真シート P2

群落番号 (新標は0記入) 整理番号(事務局記入)

群落の位置図(地理院地図にマークを入れる)

群落の全景写真

調査範囲の相観写真

調査地の林冠を見上げた写真

調査地の地表を見下ろした写真

その他(予備)

<注意事項>

①内の斜面方位と傾斜の測定はクイアーターを使用しても良いが、無い場合は、方位は地理院地図に群落の位置をマークして貼り付け、傾斜は目視で10°刻みで記入も可。

②各階層の種数率を記録し、種ごとの被度は省略してよい。

③所見および現地の変化は、現地を見たり画像で良いので、可能な範囲で記入してほしい。

④P2の写真は、大切な情報なので必ず付けてほしい。

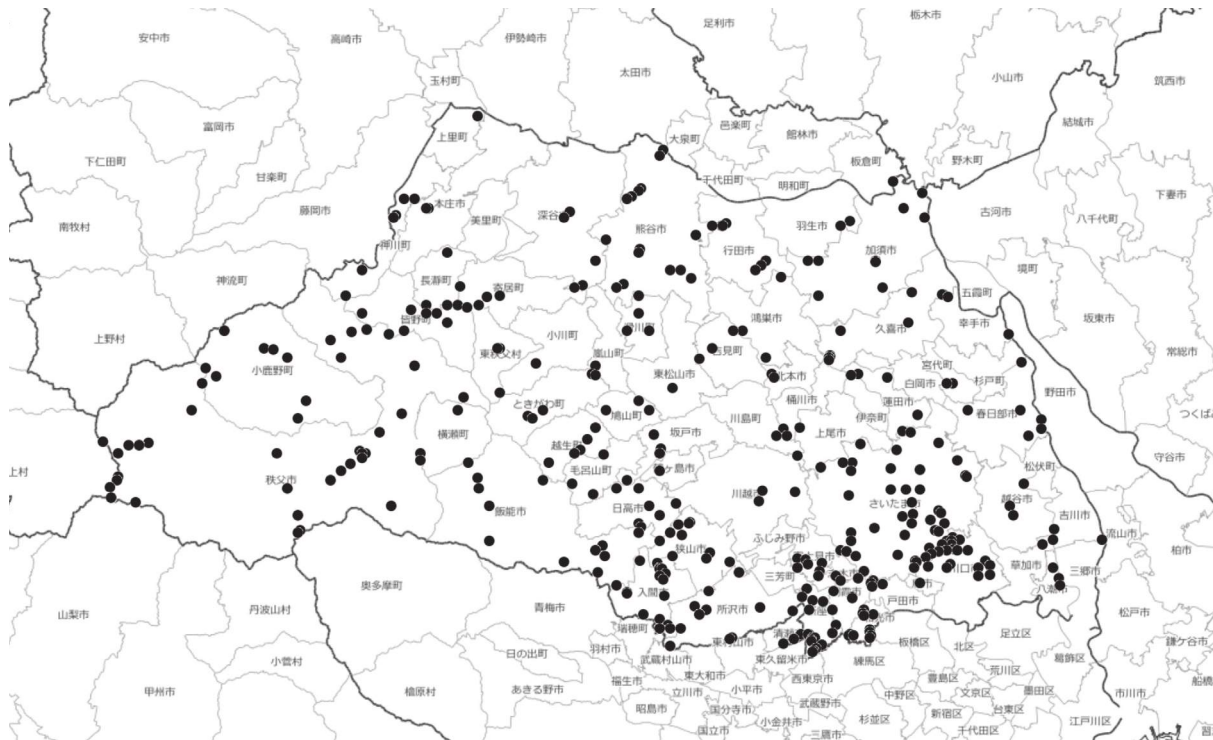
使用した植物群落調査票

その結果、403か所の群落の現状および概要について情報収集することができた。

群落タイプ毎の件数内訳は、以下のとおり。

常緑広葉高木林 (03)	82 件	高山風衝矮性低木群落 (21)	1 件
温帯針葉高木林 (05)	30 件	亜高山高茎草原 (25)	0 件
冷温帯落葉広葉高木林 (06)	108 件	山地高茎草原 (26)	0 件
河畔林 (07)	4 件	中間湿原 (30)	4 件
溪流辺低木林 (08)	1 件	貧栄養湿原 (31)	8 件
沼沢林 (09)	12 件	低層湿原・挺水植物群落 (32)	27 件
亜高山針葉高木林 (11)	5 件	浮葉植物群落 (33)	9 件
温帯性先駆木本群落 (12)	0 件	沈水植物群落 (34)	1 件
暖地性先駆木本群落 (13)	2 件	浮水植物群落 (35)	1 件
ササ草原・竹林 (14)	1 件	岩上・岩隙草本群落 (42) 石灰岩地	3 件
岩角地・風衝低木林 (16)	5 件	岩上・岩隙草本群落 (42) 非石灰岩地	7 件
林縁性低木・つる植物群落 (19)	1 件	溪流辺草本群落 (43)	2 件
高山・亜高山低木林 (20)	1 件	流水岩上着生植物群落 (44)	1 件

河川礫原草本群落 (45)	3件	中間・低層湿原 (複合 11)	16件
路傍・林縁草本群落 (46)	31件	水生植生 (複合 12)	8件
ススキ・シバ草原 (47)	4件	石灰岩植生 (複合 15)	7件
シダ草原 (48)	6件	超塩基性岩植生 (複合 16)	1件
水辺短命草本群落 (49)	6件	岩隙植生 (複合 17)	1件
水田雑草群落 (51)	4件		



現地確認調査実施地点

植物群落調査者一覧

五十嵐勇治、木村和喜夫、島井誠司、志村鋼太、杉田 勝、須田大樹、平 誠、田中 實、牧野彰吾、三上忠仁、三村昌史、森廣信子、矢島民夫、山下 裕

(3) 重要度の評価と保護上重要な群落の選定 (単一群落)

【選定方法】

前版に掲載された植物群落を基本とし、論文などで報告があり重要と考えられる群落も取り上げた。また、今回の改訂から、希少種調査において把握された主な草本植物群落についても、優占種として面的な広がりを持つものは「単一群落」として取り扱うこととした。保全の観点から、自生地の少ない種についてはなるべく網羅的に取り上げ、多い種については群落としてのまとまりのある代表的なものを取り上げることとした。

前版では、県内の重要な植物群落を網羅的に扱っている以下の文献から、埼玉県において保全に留意すべき植物群落を選定した。

1. 『第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』 (環境庁自然保護局編 1978)
2. 『植物群落レッドデータ・ブック』
(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編 1996)
3. 『改訂 埼玉県レッドデータブック 2005 植物編』 (埼玉県環境防災部みどり自然課編 2005)

今回はこれらを中心に、(2)の現地調査の結果と、並行して実施されてきた希少種調査の報告も踏まえ、新たに選定群落の検討を行った。その結果、埼玉県における重要な植物群落として計210件の単一群落抽出され、計1,876か所が保護上重要な群落として選定された。

【評価】

今回の改訂では、新たな取り組みとして群落ごとの重要性の目安となる「群落重要度」と、県内から記録された個別の群落それぞれの重要性および保護対策の必要性の目安となる「総合評価」を判定し、掲載することとした。これにより、どのような植物群落が埼玉県において保全の必要性が高く、また具体的にどの場所の重要性が高いのか、保全上の基礎情報として利用されることが期待される。判定方法の設計に当たっては、植物群落について扱っている以下の文献を参考にした。

- ・兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落)
- ・長野県版レッドリスト (植物群落) 2014
- ・千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－群集・群落編 2020

【掲載項目】

① 群落のタイプ区分

『植物群落レッドデータ・ブック』のタイプ分けに準じて区分し、「単一群落」については『植物群落レッドデータ・ブック』で用いられているコード番号を付した。群落名にコード番号がないものは、『植物群落レッドデータ・ブック』に掲載のない群落である。

② 名称

単一群落では、原則として最上層の優占種名を用いて群落名とした。

③ 県内の分布

分布する気候帯や成立する立地について掲載した。

④ 選定基準

それぞれの群落がどのような面で価値があるのか、該当する選定基準を記入した。選定基準は、「特定植物群落」の選定基準であるA～Hに、さらに地域の状況を加味したIの項目を追加した計9項目とした。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落または個体群

C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、とくにその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群

H：その他、学術上重要な植物群落または個体群

I：歴史、宗教、文化、生業との関わりや伝統的な管理によって成立している植物群落又は個体群

⑤ 群落重要度の採点に用いる4項目と重要度評価の基準

希少種含有性

評価しようとする群落と絶滅危惧種等（国・県レッドリスト掲載種）との結びつき、または絶滅危惧種等の出現の度合いを、次の5段階で評価した。

- 5 その群落に限って出現する絶滅危惧種が多数存在する。
- 4 その群落に限って出現する絶滅危惧種が存在する。
- 3 その群落を中心に出現する絶滅危惧種が存在する、または多くの絶滅危惧種等が出現する。
- 2 その群落と結びつきの強い絶滅危惧種はないが、絶滅危惧種等が出現する。
- 1 絶滅危惧種等はあまり出現しない。

再現可能性

群落の復元に長年月を要すると考えられるものほど保護対象として重要と考え、その群落を再現可能性の程度に応じて以下の5段階で評価した。

- 5 群落の再現に100年以上を要する。群落は100年以上の持続能力を有する。
- 4 20～100年（数十年レベル）で再現され得る。群落の持続力は数十年レベル。
- 3 十数年で再現され得る、十数年程度の持続力を有する。
- 2 数年内に再現し得る。持続力は数年から十数年程度。
- 1 1年以内に再現され得る。群落の持続性は1年から数年以内。

分布域・面積

その群落を、地理的な分布範囲と残存面積により次の5つに区分し評価した。

- 5 1～数地点に見られるのみ、または極めて狭い面積しか残されていない。
- 4 数地点～十数地点に見られるが分布が特定の地域に限られる、または狭い面積しか残されていない。
- 3 数地点～十数地点に見られ広域に分布する、またはやや狭い面積しか残されていない。
- 2 十数地点～数十地点に見られる、またはやや広い面積が残されている。
- 1 数十地点以上に見られる、または広い面積が残されている。

増減動向

近年（概ね1990年代以降）の増減動向や組成・構造の劣化状況を次の5つに区分し評価した。

- 5 消滅寸前まで減少している。
- 4 大きく減少している、または群落の組成・構造が著しく劣化している。
- 3 明らかに減少している、または群落の組成・構造が明らかに劣化している。
- 2 やや減少している、または群落の組成・構造に劣化がみられる。
- 1 ほとんど変化がない、または増加している。

群落重要度

群落の重要性の目安として、上記4項目の合計点をもとに以下の3段階により群落重要度を決定した。

- 重要度Ⅰ 14-20ポイント
重要度Ⅱ 10-13ポイント
重要度Ⅲ 4-9ポイント

⑥ 関連群集

当該群落が所属する、または関連が深いと考えられる既報の群集名を掲載した。なお、全ての群落について種組成の比較検討が行われているわけではなく、あくまで参考情報である。今後、植物社会学的手法により詳細な検討が行われることが望まれる。

⑦ 選定群落の件数と所在地

報告された選定群落の件数および市町村名を示した。

⑧ 選定群落の総合評価

各選定群落の重要性および保護対策の必要性の目安として、その群落タイプの「群落重要度」(⑤)、当該選定群落の「規模・状態」および「保護対策の緊急性」を以下の方法で採点し、それらの合計点によって各選定群落「総合評価」を決定した。各選定群落の現状は、概ね2010年以降に撮影された航空写真判読、または同期間に実施された現地調査を踏まえて判断した。

各群落タイプのページには件数のみ掲載し、後半の「選定群落一覧」のリスト中に詳細な検討結果を掲載した。リストの備考欄には、特定植物群落および国RDBの対応する群落コードや、行政上の保護区域・文化財指定・ナショナルトラストなどにより保護の網がかかっているかについても記入した。

群落重要度

選定群落の群落タイプ自体の重要性を示す項目として、⑤で評価した「群落重要度」を使用した。

- 5 重要度Ⅰ
- 3 重要度Ⅱ
- 1 重要度Ⅲ

規模・状態

選定群落の規模および状態について、以下の5段階で評価した。なお、「状態が良い」とは、種組成や階層構造などが劣化していない、典型性が高く当該群落タイプの性質を良く示している、地域的な特徴を良く示している等を意味する。

- 5 規模が大きく、状態の良い群落である。
- 4 ある程度の規模があり、状態の良い群落である。
- 3 ある程度の規模があり、状態が中程度の群落である。
- 2 規模が小さく、状態も中程度の群落である。
- 1 規模が小さく、状態もあまり良くない群落である。

保護対策の緊急性

選定群落の現状と保護状況、周辺の土地利用等を踏まえ、さらなる保護対策の必要性について以下の5段階で評価した。

- 5 保護対策を講じないと近い将来消滅する可能性が高い。
- 4 保護対策を講じないと消滅／劣化する恐れがある。
- 3 保護対策が講じられているが、一層の保護対策を講じないと消滅／劣化する恐れがある。
- 2 保護対策は講じられていないが、消滅／劣化する可能性はそれほど大きくない。
- 1 必要な保護対策が講じられている。

総合評価

各選定群落の重要性および保護対策の必要性の目安として、上記3項目の合計点をもとに以下の4段階による評価を行った。

なお、希少種を含む場合には原則として件数の集計結果の掲載にとどめ、周知の群落である場合を除いて具体的な名称や場所等の掲載は省略した。

- ランクS 12-15ポイント
- ランクA 10-11ポイント
- ランクB 8-9ポイント
- ランクC 3-7ポイント

⑨ 選定群落の概要

既存の文献や植生調査記録などを参考に、選定群落の相観や種構成について紹介した。ただし、最新の調査データに基づかないものも含まれており、必ずしも現状を示しているわけではない。

⑩ 特記事項

群落の特徴、重要性、保護の必要性、その他参考となる事項について記入した。

⑪ 文献

当該群落について記述のある主な文献について、著者名と発表年を示した。具体的な文献の詳細については、参考文献一覧を参照。

(4) 群落複合・埼玉県植物群落ホットスポットの掲載

群落複合については、前版に掲載された62件を改めて掲載するとともに、上の保護上重要な群落が5件以上集中している場所を「埼玉県植物群落ホットスポット」として選定し、掲載することとした。その結果、重要な植物群落がまとまって存在している植物群落ホットスポットとして、60か所が選定された。

これまでの群落複合の選定は必ずしも統一的な規模感や視点で行われたものではなく、今回はさらに抽出の方法が異なるため一概には比較できないが、今回、前版の群落複合には含まれず新たにホットスポットとして抽出されたと考えられる場所は36件あった。

両者を統合すると、今回の改訂における群落複合・埼玉県植物群落ホットスポットとしての正味掲載件数は98件となった。

(5) 単一群落

各単一群落の重要性の目安となる「群落重要度」について、(3)⑤の方法で評価を行った結果は、以下のとおりである。

・重要度Ⅰ	67 群落 (29.8%)	
・重要度Ⅱ	103 群落 (45.8%)	
・重要度Ⅲ	40 群落 (17.8%)	
・消滅	15 群落 (6.6%)	合計 225 群落

また、選定群落それぞれについて、(3)⑧の方法で重要性および保護対策の必要性の目安となる「総合評価」を検討した結果は、以下のとおりとなった。

・ランクS (ⅠA類相当)	42 件 (2.2%)	
・ランクA (ⅠB類相当)	292 件 (15.6%)	
・ランクB (Ⅱ類相当)	718 件 (38.3%)	
・ランクC (準絶滅危惧相当)	822 件 (43.9%)	合計 1,874 件

植物群落重要度評価（単一群落）

群落タイプ	群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度	
03	常緑広葉樹高木林	03001	アカガシ群落	3	5	5	4	17	I
03	常緑広葉樹高木林	03005	アラカシ群落	2	3	2	2	9	III
03	常緑広葉樹高木林	03011	ウラジログアシ群落	1	5	4	4	14	I
03	常緑広葉樹高木林	03029	シラカシ群落	1	4	2	2	9	III
03	常緑広葉樹高木林	03032	スダジイ群落	1	5	4	4	14	I
03	常緑広葉樹高木林	03033	タブノキ群落	1	5	5	4	15	I
03	常緑広葉樹高木林	03036	ツクバネガシ群落	3	5	5	4	17	I
03	常緑広葉樹高木林	03059	ヤマグルマ群落	2	4	4	2	12	II
05	温帯針葉高木林	05001	アカマツ群落	2	4	2	5	13	II
05	温帯針葉高木林	05005	ウラジロモミ群落	2	5	3	2	12	II
05	温帯針葉高木林	05006	カヤ群落	2	4	4	3	13	II
05	温帯針葉高木林	05008	クロベ群落	2	5	5	2	14	I
05	温帯針葉高木林	05011	サワラ群落	2	5	5	2	14	I
05	温帯針葉高木林	05013	ツガ群落	2	5	3	3	13	II
05	温帯針葉高木林	05019	ヒノキ群落	2	5	4	2	13	II
05	温帯針葉高木林	05021	モミ群落	2	5	2	4	13	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06003	アカシデ群落	1	3	3	2	9	III
06	冷温帯落葉広葉高木林	06004	アサダ群落	1	4	4	2	11	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06009	イヌシデ群落	1	3	3	2	9	III
06	冷温帯落葉広葉高木林	06010	イヌブナ群落	2	5	3	4	14	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06017	オニグルミ群落	1	4	3	3	11	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06020	カシワ群落	1	4	5	4	14	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06023	クスギ群落	1	4	2	3	10	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06024	クマシデ群落	1	4	3	2	10	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06025	クリ群落	2	4	2	3	11	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06026	ケヤキ群落	2	5	2	3	12	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06027	コナラ群落	2	4	1	4	11	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06028	サワグルミ群落	2	5	3	4	14	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06030	シオジ群落	2	5	4	4	15	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06036	チチブミネバリ群落	4	3	4	4	15	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06038	トチノキ群落	2	5	3	4	14	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06041	ナラガシワ群落	3	4	5	4	16	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06047	ブナ群落	2	5	4	4	15	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	06053	ミズナラ群落	2	4	2	3	11	II
06	冷温帯落葉広葉高木林	06056	ヤエガワカンバ群落	2	3	5	4	14	I
06	冷温帯落葉広葉高木林	—	オノオレカンバ群落	2	3	5	2	12	II
07	河畔林	—	アカメヤナギ群落	1	3	2	3	9	III
07	河畔林	07001	イヌコリヤナギ群落	1	3	3	2	9	III
07	河畔林	—	カワヤナギ群落	1	3	2	3	9	III
07	河畔林	07009	タチヤナギ群落	1	3	3	2	9	III
07	河畔林	07012	ネコヤナギ群落	1	3	4	4	12	II
07	河畔林	—	ヤナギ類（未同定）群落	1	3	1	2	7	III
08	溪流辺低木林	—	ユキヤナギ群落	2	3	5	4	14	I

	群落タイプ	群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度
09	沼沢林	09004	ハンノキ群落	2	3	2	2	9	Ⅲ
11	亜高山針葉高木林	11003	オオシラビソ群落	2	5	4	3	14	Ⅰ
11	亜高山針葉高木林	11004	カラマツ群落	2	4	4	2	12	Ⅱ
11	亜高山針葉高木林	11005	コメツガ群落	2	5	3	4	14	Ⅰ
11	亜高山針葉高木林	11006	シラビソ群落	2	5	4	3	14	Ⅰ
11	亜高山針葉高木林	11007	トウヒ群落	2	5	5	3	15	Ⅰ
12	温帯性先駆木本群落	12013	フサザクラ群落	1	3	3	2	9	Ⅲ
13	暖地性先駆木本群落	13006	エノキ群落	1	4	1	1	7	Ⅲ
13	暖地性先駆木本群落	13009	カラスザンショウ群落	1	4	4	2	11	Ⅱ
13	暖地性先駆木本群落	13017	ムクノキ群落	1	5	2	2	10	Ⅱ
14	ササ草原・竹林	14020	ミヤコザサ群落	2	2	5	4	13	Ⅱ
16	岩角地・風衝低木林	—	アカヤシオ群落	3	3	3	3	12	Ⅱ
16	岩角地・風衝低木林	16015	イワシモツケ群落	4	3	4	2	13	Ⅱ
16	岩角地・風衝低木林	—	ウラジロヒカゲツツジ群落	4	3	5	2	14	Ⅰ
16	岩角地・風衝低木林	16031	シロヤシオ群落	3	3	3	3	12	Ⅱ
16	岩角地・風衝低木林	16044	ハコネコメツツジ群落	4	3	4	2	13	Ⅱ
16	岩角地・風衝低木林	—	ヒカゲツツジ群落	2	3	3	2	10	Ⅱ
19	林縁性低木・つる植物群落	19008	カザグルマ群落	2	2	3	3	10	Ⅱ
19	林縁性低木・つる植物群落	—	トリガタハンショウヅル群落	4	2	5	2	13	Ⅱ
19	林縁性低木・つる植物群落	—	ミヤマハンショウヅル群落	4	2	5	2	13	Ⅱ
20	高山・亜高山低木林	—	ウダイカンバ群落	2	3	4	2	11	Ⅱ
20	高山・亜高山低木林	20007	クロウスゴ群落	4	3	5	4	16	Ⅰ
20	高山・亜高山低木林	20009	タカネバラ群落	4	3	4	3	14	Ⅰ
20	高山・亜高山低木林	20010	ダケカンバ群落	2	3	3	1	9	Ⅲ
20	高山・亜高山低木林	—	ジゾウカンバ群落	2	4	4	2	12	Ⅱ
20	高山・亜高山低木林	20012	ハイマツ群落	4	3	5	4	16	Ⅰ
20	高山・亜高山低木林	20019	ミヤマビャクシン群落	4	3	5	3	15	Ⅰ
21	高山風衝矮性低木群落	21004	ガンコウラン群落	4	3	5	4	16	Ⅰ
21	高山風衝矮性低木群落	21006	コケモモ群落	4	3	4	3	14	Ⅰ
25	亜高山高茎草原	25001	アヤメ群落	4	2	4	3	13	Ⅱ
25	亜高山高茎草原	25024	モミジカラマツ群落	4	2	4	3	13	Ⅱ
26	山地高茎草原	26010	カワラナデシコ群落	4	2	4	4	14	Ⅰ
26	山地高茎草原	—	サンリンソウ群落	4	2	4	3	13	Ⅱ
26	山地高茎草原	26021	マツムシソウ群落	4	2	4	3	13	Ⅱ
26	山地高茎草原	26024	ムラサキセンブリ群落	—	—	—	—	—	—
26	山地高茎草原	26025	ヤナギラン群落	4	2	5	5	16	Ⅰ
26	山地高茎草原	26030	レンゲシヨウマ群落	2	2	4	3	11	Ⅱ
27	高層湿原	27015	ヤチスギラン群落	—	—	—	—	—	—
30	中間湿原	—	クリンソウ群落	2	2	4	3	11	Ⅱ
30	中間湿原	30004	トキシソウ群落	4	2	5	4	15	Ⅰ
30	中間湿原	30009	ミズギク群落	—	—	—	—	—	—
30	中間湿原	30010	ヤチカワズスゲ群落	—	—	—	—	—	—

	群落タイプ	群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度
30	中間湿原	30011	ヤマドリゼンマイ群落	4	2	3	4	13	II
31	貧栄養湿原	31010	キタミソウ群落	4	2	2	2	10	II
31	貧栄養湿原	31023	ミミカキグサ群落	—	—	—	—	—	—
31	貧栄養湿原	31024	ムシトリスマレ群落	4	2	4	2	12	II
31	貧栄養湿原	31025	ムラサキミミカキグサ群落	—	—	—	—	—	—
31	貧栄養湿原	31026	モウセンゴケ群落	4	2	5	5	16	I
32	低層湿原・挺水植物群落	32006	イヌセンブリ群落	—	—	—	—	—	—
32	低層湿原・挺水植物群落	32020	オニナルコスゲ群落	4	2	5	3	14	I
32	低層湿原・挺水植物群落	32021	カキツバタ群落	4	2	3	3	12	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32022	カキラン群落	—	—	—	—	—	—
32	低層湿原・挺水植物群落	—	コキツネノボタン群落	2	2	3	3	10	II
32	低層湿原・挺水植物群落	—	コツブヌマハリイ群落	4	2	4	3	13	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32034	サクラソウ群落	4	2	5	2	13	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32036	サワギキョウ群落	4	2	5	4	15	I
32	低層湿原・挺水植物群落	32039	ザゼンソウ群落	4	2	4	4	14	I
32	低層湿原・挺水植物群落	32044	タコノアシ群落	2	2	3	3	10	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32051	チョウジソウ群落	4	2	2	3	11	II
32	低層湿原・挺水植物群落	—	トネハナヤスリ群落	4	2	4	3	13	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32060	ヌマトラノオ群落	2	2	2	3	9	III
32	低層湿原・挺水植物群落	—	ノカラマツ群落	2	2	2	3	9	III
32	低層湿原・挺水植物群落	32065	ハナムグラ群落	4	2	3	3	12	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32069	ヒメゴウソ群落	4	2	5	4	15	I
32	低層湿原・挺水植物群落	—	ヒメシオン群落	4	2	5	3	14	I
32	低層湿原・挺水植物群落	—	ヘラオモダカ群落	2	2	2	3	9	III
32	低層湿原・挺水植物群落	32083	ミクリ群落	2	2	3	3	10	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32084	ミズオトギリ群落	4	2	4	3	13	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32092	ヤマアゼスゲ群落	4	2	4	3	13	II
32	低層湿原・挺水植物群落	32094	ヨシ群落	3	2	1	2	8	III
33	浮葉植物群落	33001	アサザ群落	2	2	2	3	9	III
33	浮葉植物群落	33003	オニバス群落	4	2	5	4	15	I
33	浮葉植物群落	33005	ガガブタ群落	4	2	4	3	13	II
33	浮葉植物群落	33006	コウホネ群落	2	2	2	3	9	III
33	浮葉植物群落	33008	ジュンサイ群落	—	—	—	—	—	—
33	浮葉植物群落	33009	デンジソウ群落	4	2	5	3	14	I
33	浮葉植物群落	33010	ヒシ群落	2	1	2	3	8	III
33	浮葉植物群落	33011	ヒツジグサ群落	—	—	—	—	—	—
33	浮葉植物群落	33013	ヒメシロアサザ群落	2	2	2	3	9	III
33	浮葉植物群落	33014	ヒルムシロ群落	4	2	5	3	14	I
33	浮葉植物群落	33017	マルバオモダカ群落	—	—	—	—	—	—
34	沈水植物群落	34004	エビモ群落	2	2	2	3	9	III
34	沈水植物群落	34004	ササバモ群落	2	2	2	3	9	III
34	沈水植物群落	—	コウガイモ群落	2	2	3	3	10	II
34	沈水植物群落	34008	スギナモ群落	—	—	—	—	—	—
34	沈水植物群落	34009	セキショウモ群落	2	2	3	3	10	II

群落タイプ	群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度
沈水植物群落	34011	バイカモ群落	4	2	4	2	12	Ⅱ
沈水植物群落	34017	ミズオオバコ群落	4	1	2	3	10	Ⅱ
沈水植物群落	34018	ミズニラ群落	2	2	2	3	9	Ⅲ
浮水植物群落	—	イヌタヌキモ群落	4	2	5	3	14	Ⅰ
浮水植物群落	35001	サンショウモ群落	2	1	3	3	9	Ⅲ
浮水植物群落	35002	タヌキモ群落	4	2	5	4	15	Ⅰ
浮水植物群落	35003	ノタヌキモ群落	—	—	—	—	—	—
浮水植物群落	35004	ヒンジモ群落	—	—	—	—	—	—
浮水植物群落	—	ムジナモ群落	4	2	5	4	15	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42007	イチョウシダ群落	4	2	2	2	10	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42008	イワウラジロ群落	4	2	5	3	14	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ウスユキソウ群落	2	2	2	3	9	Ⅲ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42025	オオビランジ群落	4	2	3	4	13	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42033	キバナコウリンカ群落	4	2	4	4	14	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	キンモウワラビ群落	2	2	2	2	8	Ⅲ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42036	クモノスシダ群落	2	2	2	3	9	Ⅲ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	シラヒゲソウ群落	3	2	4	4	13	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	タカネコウリンカ群落	4	2	5	4	15	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	チチブイワザクラ群落	4	2	5	5	16	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	チチブリンドウ群落	4	2	4	4	14	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	トガクシデンダ群落	2	2	3	3	10	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42074	ヒメシャガ群落	4	2	4	3	13	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ホソバトリカブト群落	4	2	3	4	13	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ホソバノツルリンドウ群落	4	2	3	3	12	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ホタルサイコ群落	4	2	3	4	13	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	42091	ミヤマウラジロ群落	4	2	2	4	12	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ミヤマスカシユリ群落	4	2	5	5	16	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ミヨウギシャジン群落	4	2	3	3	12	Ⅱ
岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地)	—	ヤツガタケナズナ群落	4	2	5	4	15	Ⅰ
岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42002	アオガネシダ群落	—	—	—	—	—	—

群落タイプ		群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	—	アオネカズラ群落	4	2	5	5	16	I
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42015	イワヒバ群落	2	2	2	2	8	III
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42018	ウチョウラン群落	4	2	4	2	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42019	ウラハグサ群落	2	2	1	2	7	III
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42035	クモイコザクラ群落	4	2	4	2	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42038	コイワザクラ群落	4	2	5	4	15	I
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42043	コタヌキラン群落	4	2	5	4	15	I
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	—	ジンジソウ群落	4	2	2	4	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42058	ダイモンジソウ群落 (ウラベニダイモンジソウの 多い石灰岩地の群落)	2	2	4	2	10	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42058	ダイモンジソウ群落 (通常のダイモンジソウが中 心の非石灰岩地の群落)	2	2	2	2	8	III
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42063	ツメレンゲ群落	2	2	4	2	10	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	—	ノコギリシダ群落	4	2	4	2	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	—	ヒメシャジン群落	4	2	4	2	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42076	ヒモカズラ群落	4	2	4	2	12	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42087	マツバラン群落	4	2	2	2	10	II
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42092	ミヤマウラボシ群落	2	2	3	2	9	III
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42096	ミョウギシダ群落	4	2	5	4	15	I
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42097	ムカデラン群落	4	2	5	4	15	I
42	岩上・岩隙草本群落 (非石灰岩地)	42098	ムギラン群落	4	2	5	4	15	I
43	溪流辺草本群落	43005	タヌキラン群落	4	2	5	3	14	I
43	溪流辺草本群落	43012	ヤシャゼンマイ群落	2	2	4	2	10	II
44	流水岩上着生植物群落	44004	カワノリ群落	4	1	5	4	14	I
44	流水岩上着生植物群落	—	カワモズク類群落 (カワモズク・ミョウテンジ カワモズク・イシカワモズ ク・タニガワカワモズクを 含む群落)	4	2	5	3	14	I
44	流水岩上着生植物群落	—	カワモズク類群落 (上の種を含まずアオカワモ ズク・チャイロカワモズク のみからなる群落)	4	2	4	2	12	II
45	河川礫原草本群落	—	イヌハギ群落	2	2	4	4	12	II
45	河川礫原草本群落	—	カワラアカザ群落	4	1	5	4	14	I

群落タイプ	群落番号	群落名	希少種含有性	再現可能性	分布域・面積	増減動向	ポイント	群落重要度	
45	河川礫原草本群落	—	カワラケツメイ群落	2	1	5	4	12	II
45	河川礫原草本群落	—	カワラサイコ群落	2	2	4	4	12	II
45	河川礫原草本群落	—	カワラナデシコ群落	4	2	5	4	15	I
45	河川礫原草本群落	—	カワラニガナ群落	4	2	5	4	15	I
45	河川礫原草本群落	45003	カワラヨモギ群落	4	2	5	4	15	I
46	路傍・林縁草本群落	—	アズマイチゲ群落	2	2	2	4	10	II
46	路傍・林縁草本群落	46001	アマナ群落	2	2	2	4	10	II
46	路傍・林縁草本群落	—	イカリソウ群落	2	2	2	4	10	II
46	路傍・林縁草本群落	46002	イチリンソウ群落	4	2	2	4	12	II
46	路傍・林縁草本群落	—	カタクリ群落	2	2	1	4	9	III
46	路傍・林縁草本群落	—	キツネノカミソリ群落	2	2	1	4	9	III
46	路傍・林縁草本群落	—	キバナノアマナ群落	2	2	2	4	10	II
46	路傍・林縁草本群落	—	タマガイソウ群落	4	2	5	4	15	I
46	路傍・林縁草本群落	—	サイハイラン群落	2	2	2	4	10	II
46	路傍・林縁草本群落	46009	シラン群落	4	2	5	2	13	II
46	路傍・林縁草本群落	—	ステゴビル群落	4	2	4	3	13	II
46	路傍・林縁草本群落	—	セツブンソウ群落	2	2	3	3	10	II
46	路傍・林縁草本群落	—	ヒロハノアマナ群落	4	2	3	4	13	II
46	路傍・林縁草本群落	—	ヒガンバナ群落	1	2	1	1	5	III
46	路傍・林縁草本群落	46015	ヒメザゼンソウ群落	4	2	5	4	15	I
46	路傍・林縁草本群落	46016	フクジュソウ群落	2	2	3	3	10	II
46	路傍・林縁草本群落	46021	ヤマブキソウ群落	2	2	2	2	8	III
47	ススキ・シバ草原	—	クチナシグサ群落	4	1	3	3	11	II
47	ススキ・シバ草原	—	スズサイコ群落	4	2	5	3	14	I
47	ススキ・シバ草原	47007	ススキ群落	5	2	2	4	13	II
47	ススキ・シバ草原	—	セイタカヨシ群落	2	2	5	2	11	II
48	シダ草原	48001	ウラジロ群落	2	2	2	2	8	III
48	シダ草原	—	オオバノハチジョウシダ群落	4	2	5	2	13	II
48	シダ草原	—	コシダ群落	2	2	3	2	9	III
48	シダ草原	—	コモチシダ群落	2	2	5	2	11	II
48	シダ草原	—	ナチクジャク群落	4	2	5	2	13	II
49	水辺短命草本群落	—	コギシギシ群落	2	2	3	3	10	II
49	水辺短命草本群落	—	シロガヤツリ群落	2	1	4	3	10	II
49	水辺短命草本群落	—	ヌカボタデ群落	4	1	5	3	13	II
49	水辺短命草本群落	49003	ノウルシ群落	2	2	2	3	9	III
49	水辺短命草本群落	—	ホソバイスタデ群落	2	1	4	3	10	II
51	水田雑草群落	—	アギナシ群落	4	2	4	3	13	II
51	水田雑草群落	—	コイヌガラシ群落	2	1	2	3	8	III
51	水田雑草群落	—	サワトウガラシ群落	4	1	5	5	15	I
51	水田雑草群落	—	ハタケテンツキ群落	4	1	5	3	13	II

① 木本群落

埼玉県において保護上重要な木本群落として、重要度Ⅰが28群落、重要度Ⅱが31群落、重要度Ⅲが13群落、合計72群落が記録された。

選定群落が生計1,098件と多いため、件数が多い群落については総合評価のランクA（絶滅危惧Ⅰ類相当）以上、あるいはB（絶滅危惧Ⅱ類相当）以上の群落を掲載した。低木群落で、採取のおそれのある種が含まれる群落については、保全の観点から詳細は非掲載とした。

常緑広葉樹高木林 (03)



アカガシ群落 (03001)

【県内の分布】 西南部山地の暖温帯上部などに限定的に分布し、暖温帯域の極相の一つ。

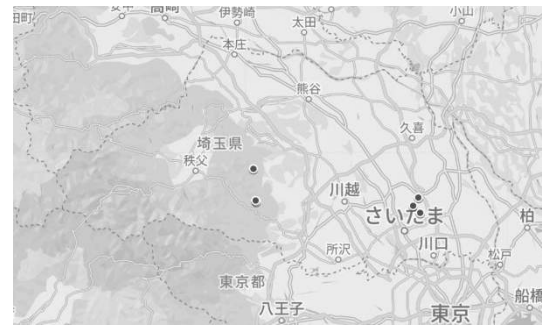
【選定基準】 C・E・G・H・I

【群落重要度】 I

【関連群集】 ミヤマシキミーアカガシ群集 *Skimmio-Quercetum acutae* Suz.-Tok. et Sumata 1964

【選定群落の件数】 5件（さいたま市3、飯能市1、ときがわ町1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件、B：3件



1	飯能市	長沢	顔振峠のアカガシ林	S
2	さいたま市	見沼区片柳	熊野神社の社寺林	A
3	さいたま市	見沼区東宮下	東宮下水川神社の社寺林	B
4	さいたま市	見沼区南中野	十王尊のアカガシ・シラカシ林	B
5	ときがわ町	西平	萩日吉神社社叢	B

【選定群落の概要】 飯能市顔振峠の群落では高木層は高さ17m、植被率90%でアカガシが優占し、ウラジログシ・ヒノキなどをともなう。亜高木層は高さ8.5m、植被率35%でアセビが優占し、アカガシ・ウラジログシ・イヌツゲ・ヒサカキなどをともなう。第1低木層は高さ4.5m、植被率30%でアカガシが優占し、モミ・ウラジログシ・アオハダ・リョウブなどをともない、第2低木層は植被率60%でシラキ・コアジサイ・アカガシ・ウラジログシ・ヒサカキ・ミヤマシキミなどをともなう。草本層は植被率10%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・ヒメカンスゲなどがみられる。

【特記事項】 埼玉県では重要な森林の一つであり、安定した群落として維持させるためには、周囲の植林地も含めて広域的に保護する必要がある。その後、顔振峠の群落ではブナの混生が確認され（永戸・島井1999）、暖温帯と冷温帯の推移帯の群落として注目される。今回の調査で、さいたま市において新たに小規模な群落が見いだされた。

【文献】 永戸（1978）、永野（1986）、永戸・島井・他（1988）

アラカシ群落 (03005)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布し、表土の浅い岩場などで見られる。

【選定基準】 A・E

【群落重要度】 III

【関連群集】 シラカシ群集 *Quercetum myrsinaefoliae* Miyawaki et Ohba 1965；オオバジャノヒゲ-アラカシ群集 *Ophiopogono-Quercetum glaucae* K.Fujiwara 1981；ナンテン-アラカシ群集 *Nandino-Quercetum glaucae* Yamanaka 1965（石灰岩地）

【選定群落の件数】 46件*（秩父市8、越生町5、皆野町5、滑川町4、長瀬町3、飯能市3、鳩山町3、嵐山町2、ときがわ町2、神川町2、日高市2、小鹿野町2、本庄市2、川越市1、吉見町1、小川町1、東秩父村1）

*複数自治体にまたがる場所が含まれる場合、選定群落の件数と括弧内の内訳合計は一致しない。

【選定群落の評価】 B：2件、C：44件



6	秩父市	荒川小野原	小野原のアラカシ林	B
7	嵐山町	遠山・千手堂	武蔵嵐山溪谷周辺樹林	B

【選定群落の概要】 鳩山町の群落では高木層は高さ12m、植被率80%でアラカシが優占し、スダジイなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率40%でアラカシが優占し、ウリカエデ・アオダモなどをともなう。第1低木層は高さ3.5m、植被率95%でアラカシが優占し、コバノガマズミ・オトコヨウゾメ・モミ・ツクバネガシなどをともない、第2低木層は植被率45%でアラカシ・ヒサカキ・オトコヨウゾメ・ムラサキシキブなどをともなう。草本層は植被率1%でジャノヒゲがみられる。長瀬町・皆野町の群落では高木層は高さ15m、植被率40%でアラカシが優占し、コナラ・ネムノキなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率60%でアラカシが優占し、リョウブ・エゴノキ・コナラなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率40%でアラカシが優占し、ツクバネウツギ・ネジキ・エゴノキ・リョウブなどをともない、第2低木層は植被率10%でミツバツツジ・シモツケ・アラカシなどをともなう。草本層は植被率5%でジャノヒゲ・ヤマイタチシダ・ヤブランなどがみられる。

【特記事項】 暖温帯のアラカシ林の構成種はモミ林との共通種が多いことが特徴である。前回調査から大きな変化はない。

【文献】 永戸・永野（1978）、永野（1986）、永戸・島井・他（1989）、須田（2017）

ウラジロガシ群落 (03011)

【県内の分布】 暖温帯に分布し、西南部山地の急傾斜地などで見られる。

【選定基準】 A・C・D・E・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 コカンスゲ-ウラジロガシ群集 *Carici reini-Quercetum salicinae* Sasaki et Suganuma 1965

【選定群落の件数】 8件（飯能市3、ときがわ町1、美里町1、東松山市1、秩父市1、小川町1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：5件、B：2件



52	飯能市	上直竹下分	富士浅間神社の社寺林	S
53	飯能市	南川	大坐祇神社の社寺林（南川のウラジロガシ林）	A
54	飯能市	下名栗	龍泉寺の社寺林	A
55	ときがわ町	西平	多武峯神社のツクバネガシ・ウラジロガシ林	A

56	美里町	猪俣	二柱神社の社叢	A
57	東松山市	岩殿	岩殿観音の社寺林	A
58	秩父市	上影森	橋立鍾乳洞のウラジログシ林	B
59	小川町	腰越	瀧森神社のウラジログシ林	B

【選定群落の概要】 飯能市の群落では高木層は高さ17m、植被率90%でウラジログシが優占し、イロハモミジなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率20%でウラジログシが優占し、ヤブツバキ・シキミなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率60%でヤブツバキが優占し、アオキ・ウラジログシ・シキミ・コバノガマズミ・ダンコウバイなどをともない、第2低木層は植被率30%でヤブツバキ・ヒサカキ・ヤブコウジ・シキミ・アオキなどをともなう。草本層は植被率7%でベニシダ・マメヅタなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ18m、植被率75%でウラジログシが優占している。亜高木層は高さ11m、植被率35%でサワシバが優占し、ウラジログシ・フサザクラなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率45%でヤブムラサキが優占し、ウラジログシ・ツクバネウツギ・サワシバ・ニシキギ・キブシなどをともない、第2低木層は植被率30%でヤブムラサキ・ウラジログシ・ヤブコウジ・スズタケ・ヤマブキなどをともなう。草本層は植被率60%でジャノヒゲ・ヤマイタチシダ・クマワラビ・イノモトソウ・ツルデンダなどがみられる。

【特記事項】「橋立鍾乳洞のウラジログシ林」は、県内では最も内陸部に位置し、中間温帯域に成立する林分であって極めて重要な存在である。基盤は石灰岩であり表土をほとんどともなっていない。調査区外にはアラカシ・アサダ・カヤなどが多い。今回の調査で、新たに美里町で小規模な群落が見いだされた。

【文献】永野・大垣・他（1974・1976）、永野（1986）

シラカシ群落 (03029)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布し、平野部の段丘崖や社寺林、低山の岩場など幅広く見られる。

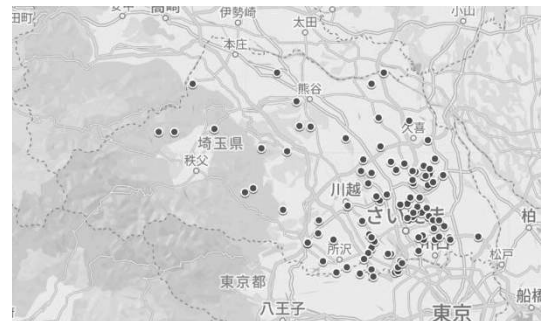
【選定基準】 E・H

【群落重要度】 III

【関連群集】 シラカシ群集 *Quercetum myrsinaefoliae* Miyawaki et Ohba 1965

【選定群落の件数】 98件（さいたま市24、川口市8、所沢市5、和光市5、狭山市3、上尾市3、富士見市3、蓮田市3、新座市3、久喜市3、入間市2、羽生市2、三芳町2、朝霞市2、白岡市2、皆野町2、伊奈町2、春日部市2、鴻巣市2、神川町1、川越市1、秩父市1、ふじみ野市1、加須市1、滑川町1、熊谷市1、小川町1、杉戸町1、日高市1、飯能市1、八潮市1、越生町1、桶川市1、宮代町1、戸田市1、深谷市1、東松山市1、北本市1、嵐山町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：97件



60	神川町	二ノ宮	金鑽神社の社寺林	B
----	-----	-----	----------	---

【選定群落の概要】 さいたま市の群落では高木層は高さ23m、植被率50%でシラカシが優占し、亜高木層は高さ15m、植被率60%でヤブツバキが優占し、ムクノキ・シラカシ・ヒサカキなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率50%でシロダモが優占し、シラカシ・アオキ・ムクノキ・ヤブツバキ・ムラサキシキブなどをともない、第2低木層は植被率16%でシラカシ・アオキ・ウコギ・マダケ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率17%でジャノヒゲ・ミズヒキなどがみられる。神川町の群落では高木層は高さ12m、植被率70%でシラカシが優占し、亜高木層は高さ8m、植被率23%でシラカシが優占し、ヤブツバキ・アラカシ・イロハモミジなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率13%でヒサカキが優占し、ヤブツバキ・アオ

キなどをとめない、第2低木層は植被率20%でアオキ・シラカシ・アラカシ・ヤブツバキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率8%でヤブラン・ヒメヤブラン・ベニシダなどがみられる。

【特記事項】 成立域の立地条件によって山地および丘陵の乾性立地型と、埼玉平野に広域的に分布している湿性立地型に分けられる。都市域では消失した群落もある。

【文献】 永野 (1986)、永戸・島井・他 (1989)、島井・永戸 (1997・1999)

スタジイ群落 (03032)

【県内の分布】 西南部山地、丘陵・台地の斜面などに分布し、暖温帯域の極相の一つ。

【選定基準】 A・C・E・I

【群落重要度】 I

【関連群集】 ヤブコウジースタジイ群集 *Ardisio-Castanopsietum sieboldii* Suz.-Tok. et Hatiya 1952

【選定群落の件数】 34件 (川口市7、さいたま市6、越生町4、毛呂山町3、ときがわ町3、小川町2、吉見町2、嵐山町1、川越市1、日高市1、鳩山町1、蓮田市1、蕨市1、越谷市1)

【選定群落の評価】 S: 2件、A: 17件、B: 15件



158	さいたま市	緑区大崎	大崎のスタジイ林	S
159	嵐山町	遠山	遠山のスタジイ林	S
160	越生町	上野	虚空蔵菩薩の社寺林	A
161	小川町	下里	寺山のスタジイ林	A
162	毛呂山町	宿谷	宿谷の滝のスタジイ林	A
163	川越市	小仙波	仙波東照宮の社寺林	A
164	小川町	下里	下里のスタジイ林	A
165	さいたま市	大宮区高鼻町	氷川神社のスタジイ林	A
166	ときがわ町	五明	圓通寺のスタジイ林	A
167	ときがわ町	別所	堂山のスタジイ林	A
168	毛呂山町	権現堂	権現堂のスタジイ林	A
169	越生町	上野	山路のスタジイ林	A
170	越生町	越生	高取城跡のスタジイ林	A
171	川口市	柳崎	柳崎氷川神社の社叢	A
172	日高市	横手	瀧泉寺のスタジイ林	A
173	鳩山町	竹本	黒石神社の社寺林	A
174	毛呂山町	大谷木	鎌北湖のスタジイ林	A
175	川口市	東内野	東内野のスタジイ林	A
176	さいたま市	緑区山崎	西山崎稲荷神社の社寺林	A
177	越生町	小杉・津久根	梅園神社のスタジイ林	B
178	蓮田市	上平野	上平野八幡神社のスタジイ林	B
179	さいたま市	岩槻区宮町	久伊豆神社のスタジイ林	B
180	さいたま市	南区大谷口	明花公園のスタジイ林	B
181	ときがわ町	日影	真光寺のスタジイ林	B
182	吉見町	御所	吉見観音のスタジイ林	B
183	吉見町	黒岩	伊波比神社のスタジイ林	B
184	川口市	安行	興禅院のスタジイ林	B
185	川口市	安行領根岸	妙蔵寺保全緑地の森林	B
186	川口市	安行領根岸	見沼代用水沿いの斜面林	B

187	川口市	峯	峯ヶ岡八幡神社の社叢	B
188	川口市	木曾呂	薬王寺のスダジイ林	B
189	蕨市	中央	蕨城跡公園のスダジイ林	B
190	さいたま市	大宮区三橋	稲荷塚古墳のスダジイ林	B
191	越谷市	越ヶ谷	久伊豆神社の社寺林	B

【選定群落の概要】 越谷市の群落では高木層は高さ13m、植被率70%でスダジイが優占している。亜高木層は高さ8m、植被率20%でスダジイが優占し、サワラなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率10%でシロダモが優占し、アオキ・スダジイ・ヤブツバキ・タブノキなどをともない、第2低木層は植被率20%でアオキ・シロダモ・スダジイ・シュロなどをともなう。草本層は植被率20%でジャノヒゲがみられる。越生町の群落では高木層は高さ16m、植被率90%でスダジイが優占している。亜高木層は高さ10m、植被率30%でスダジイが優占し、モチノキ・アラカシなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率40%でスダジイが優占し、ヒサカキ・アラカシ・ヒイラギ・サカキ・タブノキ・アオダモ・クロモジ・オトコヨウゾメなどをともない、第2低木層は植被率5%でアラカシ・モチノキ・スダジイ・ヤブツバキ・ヒイラギ・タブノキ・モミ・ヤマツツジ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率15%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・シュンラン・ベニシダ・ヤマイトチシダなどがみられる。

【特記事項】 山地や丘陵に成立するスダジイ林はヤマツツジ・オトコヨウゾメ・クロモジ・アオダモ・モミなどの中間温帯要素をともなっていることが特徴である。都市域では縮小傾向の群落も確認された。

【文献】 永野（1973・1986）、永戸・島井（1995・2000）、埼玉県文化財保護協会編（1996）

タブノキ群落 (03033)

【県内の分布】 西南部山地の山腹に限定的に分布する、暖温帯域の極相の一つ。

【選定基準】 A・C・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 イノデ・タブノキ群集 *Polysticho-Perseetum thunbergii* Suz.-Tok. et Wada 194

【選定群落の件数】 3件（毛呂山町1、越生町1、さいたま市1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件、B：1件

192	毛呂山町	滝ノ入	桂木のタブノキ林	S
193	越生町	上谷	麦原のタブノキ林	A
194	さいたま市	緑区宮本	氷川女體神社のタブノキ・ムクノキ・シラカシ林	B

【選定群落の概要】 毛呂山町の群落では高木層は高さ20m、植被率95%でタブノキが優占し、スダジイ・アラカシ・モチノキ・エノキなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率60%でモチノキが優占し、カヤ・ヤブツバキ・サカキ・シロダモなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率70%でヤブツバキが優占し、スダジイ・シュロ・タブノキ・アラカシ・モチノキなどをともない、第2低木層は植被率20%でタブノキ・アラカシ・ヤブツバキ・チャノキ・ナンテン・マンリョウ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率65%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・ヤマイトチシダなどがみられる。越生町の群落では高木層は高さ25m、植被率98%でタブノキが優占し、コナラ・ヤマザクラ・アラカシ・ケヤキ・ウラゲエンコウカエデなどをともなう。亜高木層は高さ9m、植被率70%でタブノキが優占し、ウラゲエンコウカエデ・ヤマボウシなどをともなう。第1低木層は高さ6m、植被率80%でヤブツバキが優占し、アオキ・アラカシ・ヒサカキ・シロダモなどをともない、第2低木層は植被率45%でアオキ・ヤブツバキ・アラカシ・タブノキ・マルバウツギなどをともなう。草本層は植被率25%でオオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・ヤマイトチシダ・ヤブランなどがみられる。

【特記事項】 毛呂山町の群落では、周囲の伐開による環境変化が生じている。

【文献】 埼玉県文化財保護協会編（1991）、島井・永戸（1996）

ツクバネガシ群落 (03036)

【県内の分布】 暖温帯に分布し、西南部山地の急傾斜地や社寺などで見られる。

【選定基準】 C・E・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 5件（ときがわ町2、飯能市2、入間市1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：3件、B：1件

195	ときがわ町	西平	多武峯神社のツクバネガシ・ウラジログシ林	S
196	飯能市	上名栗	新館のツクバネガシ林	A
197	飯能市	下名栗	龍泉寺の社寺林	A
198	ときがわ町	西平	萩日吉神社社叢	A
199	入間市	寺竹	白鬚神社のツクバネガシ林	B

【選定群落の概要】 ときがわ町の群落では高木層は高さ20m、植被率90%でツクバネガシが優占し、タブノキ・アラカシなどをともなう。亜高木層は高さ10m、植被率30%でツクバネガシが優占し、アラカシ・ヤブツバキ・モチノキ・タブノキなどをともなう。第1低木層は高さ2m、植被率40%でアラカシが優占し、ツクバネガシ・ヒサカキ・ヤブツバキ・モチノキ・イロハモミジ・アズマネザサ・ウラジログシなどをともない、第2低木層は植被率25%でモミ・ウラジログシ・ツクバネガシ・アラカシ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率1%でベニシダ・ジャノヒゲ・シュンラン・カシワバハグマなどがみられる。飯能市の群落では高木層は高さ12m、植被率95%でツクバネガシが優占し、アラカシ・ムクロジ・マルバアオダモ・ウラジログシなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率70%でアラカシが優占し、ウラジログシ・ケヤキ・イロハモミジ・リョウブ・アカメガシワなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率60%でアラカシが優占し、ヒサカキ・ウラジログシ・アセビ・アオキ・ヤブムラサキ・カヤ・ミツバツツジ・ヤマシバカエデなどをともない、第2低木層は植被率10%でアラカシ・ヒサカキ・ヤブコウジ・アオキ・アセビ・カヤ・ウラジログシなどをともなう。草本層は植被率3%でヤマイタチシダ・ベニシダ・ジャノヒゲ・オオバノイノモトソウ・フクロシダなどがみられる。

【特記事項】 ツクバネガシは他のカシ類と混生することが多く、単独で優占群落を形成することは少ない。前回調査から大きな変化はない。

【文献】 島井・永戸（2004）

ヤマグルマ群落 (03059)

【県内の分布】 冷温帯から亜寒帯下部に分布し、北向きの岩壁や溪谷沿いの岩角地などで見られる。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【関連群集】 ヒカゲツツジ-ヤマグルマ群集 *Rhododendro keiskei-Trochodendretum aralioidis* Nakamura in Miyawaki 1981

【選定群落の件数】 1件（秩父市1、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：1件

200	秩父市中津川・小鹿野町両神薄	両神山のヤマグルマ林	B
-----	----------------	------------	---

【選定群落の概要】 小鹿野町の群落では高木層は高さ12m、植被率70%でヤマグルマ・ツガが優占し、ミズメ・ヒノキ・コミネカエデなどをともなう。低木層は高さ5m、植被率50%でアズマシャクナゲ・アセビ・ミツバツツジ・アカヤシオなどが生育する。

【特記事項】 急峻な立地を反映して、ツツジ科植物が構成種の中核をなしている。前回調査から大きな変化はない。各地に分布するが、報告があまり行われていない。

【文献】 永野（1986）

温帯針葉高木林 (05)



アカマツ群落 (05001)

【県内の分布】 暖温帯から亜寒帯まで広く分布し、平地から岩峰まで様々な立地で見られる。

【選定基準】 E・G・H・I

【群落重要度】 II

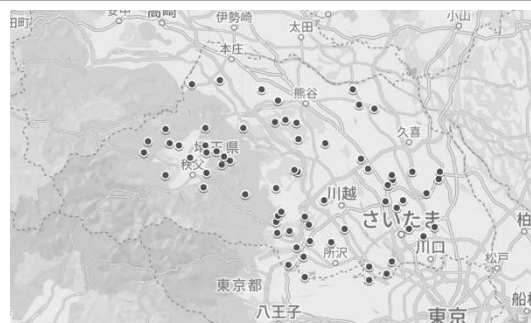
【関連群集】 ヤマツツジ-アカマツ群集

Rhododendro-Pinetum densiflorae Suz.-Tok. et Usui 1952

【選定群落の件数】 65件（秩父市6、さいたま市6、皆野町4、熊谷市4、日高市4、入間市4、

小鹿野町3、狭山市3、伊奈町2、新座市2、横瀬町2、東秩父村2、飯能市2、越生町2、春日部市2、川越市2、和光市2、羽生市2、加須市1、滑川町1、寄居町1、深谷市1、長瀨町1、本庄市1、美里町1、嵐山町1、東松山市1、鳩山町1、桶川市1、吉見町1、上尾市1、神川町1、北本市1、蓮田市1、所沢市1、川口市1）

【選定群落の評価】 A：26件、B：39件



201	伊奈町	小室	がんセンターのアカマツ林	A
202	小鹿野町	般若	御船岩・亀ヶ岳・兎岩のアカマツ林	A
203	新座市	野火止	平林寺境内林	A
204	横瀬町	横瀬	林道丸山線沿いのアカマツ・コナラ林	A
205	横瀬町	横瀬	古御嶽城跡のアカマツ林	A
206	加須市	馬内・志多見	志多見砂丘のアカマツ林	A
207	皆野町	三沢	粥仁田峠西のアカマツ林	A
208	皆野町三沢・秩父市黒谷		蓑山のアカマツ林	A
209	滑川町山田・熊谷市楊井		武蔵丘陵森林公園のアカマツ林	A
210	寄居町	三ヶ山	三ヶ山のアカマツ林	A
211	小鹿野町	飯田	観音院のアカマツ林	A
212	深谷市	人見	仙元山のアカマツ・コナラ林	A
213	秩父市	吉田阿熊	金岳のアカマツ林	A
214	秩父市	吉田久長	白砂公園のアカマツ林	A
215	秩父市	上吉田	御高金山のアカマツ林	A
216	秩父市	定峰	定峰峠北のアカマツ・コナラ林	A
217	長瀨町井戸・皆野町下田野		井戸山の森林	A
218	東秩父村	白石	笠山のアカマツ林	A
219	日高市	高麗本郷	日和田山のアカマツ林	A

220	日高市	新堀	ジェイゴルフ鶴ヶ島のアカマツ林	A
221	日高市	北平沢	高麗川 CC のアカマツ林	A
222	入間市	宮寺・上藤沢ほか	武蔵 CC 豊岡コース周辺のアカマツ林	A
223	入間市	南峯	狭山 GC 周辺のコナラ・アカマツ林	A
224	飯能市	小久保	久邇 CC 周辺のアカマツ林	A
225	本庄市児玉町入浅見・蛭川・美里町下児玉		こだま GC のアカマツ林	A
226	嵐山町	古里	嵐山郷のアカマツ林	A
227	さいたま市	浦和区駒場	駒場緑地のアカマツ林	B
228	さいたま市	岩槻区太田	岩槻城址公園のアカマツ・コナラ林	B
229	さいたま市	見沼区大和田町	松の子の森のアカマツ・コナラ林	B
230	さいたま市	見沼区日進町	上加自然の森のアカマツ・コナラ林	B
231	さいたま市	大宮区高鼻町	大宮公園のアカマツ林	B
232	さいたま市	緑区大門	武蔵野学院のアカマツ林	B
233	狭山市	稲荷山	稲荷山公園の雑木林	B
234	狭山市	柏原	智光山公園の雑木林	B
235	秩父市蒔田・田村・小鹿野町長留ほか		長尾根の中間温帯林	B
236	東松山市岩殿・鳩山町石坂		物見山周辺のアカマツ林	B
237	伊奈町	小室	薬科大の雑木林	B
238	越生町	如意	如意輪観音のアカマツ林	B
239	越生町	龍ヶ谷	高山不動奥の院東のアカマツ林	B
240	桶川市	上日出谷	上日出谷産業団地のアカマツ林	B
241	皆野町	上日野沢	城峰山のアカマツ林	B
242	吉見町	黒岩	八丁湖北のアカマツ林	B
243	熊谷市	三ヶ尻	三尻観音山のアカマツ林	B
244	熊谷市	須賀広・野原ほか	江南台地のアカマツ林（文殊寺ふるさとの森ほか）	B
245	春日部市	粕壁	春日部八幡神社のアカマツ・コナラ林	B
246	上尾市	日の出	上尾運動公園のアカマツ林	B
247	神川町	二ノ宮	神川げんきプラザのアカマツ林	B
248	川越市	鯨井	東洋大のアカマツ林	B
249	川越市	砂新田・上松原・下松原	（仮称）川越森林公園周辺のアカマツ林	B
250	東秩父村	皆谷	朝日根のアカマツ林	B
251	日高市	高萩	日高総合公園の雑木林	B
252	入間市	仏子	加治丘陵のアカマツ・コナラ林	B
253	飯能市	飯能	天覧山・多峯主山の雑木林	B
254	北本市	緑	緑一丁目のアカマツ林	B
255	蓮田市	黒浜	黒浜公園のアカマツ林	B
256	和光市	新倉	新倉氷川八幡神社のアカマツ林	B
257	入間市宮寺・所沢市堀ノ内		狭山丘陵の雑木林	B
258	狭山市	堀兼	堀兼・上赤坂ふるさとの緑の景観地	B
259	羽生市	桑崎	桑崎三神社のアカマツ林	B
260	羽生市	砂山	砂山のアカマツ林	B
261	熊谷市	小江川	大沼自然環境保全地域のアカマツ林	B
262	春日部市	小淵	小淵砂丘のアカマツ林	B
263	新座市	野寺	武野神社のアカマツ・イヌシデ林	B
264	川口市	柳崎	柳崎氷川神社の社叢	B
265	和光市	広沢	樹林公園のアカマツ林	B

【選定群落の概要】 加須市の群落では高木層は高さ 25m、植被率 55%でアカマツが優占し、イヌシデをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 25%でアカシデが優占し、イヌシデ・ムクノキ・

アカメガシワなどをともなう。第1低木層は高さ5m、植被率75%でシラカシが優占し、エノキ・ネズミモチ・ムクノキなどをともない、第2低木層は植被率10%でシラカシ・シュロ・ネズミモチなどをともなう。草本層は植被率5%でジャノヒゲ・ナガバジャノヒゲ・オオバジャノヒゲなどがみられる。東松山市の群落では高木層は高さ10m、植被率90%でアカマツが優占し、ヤマザクラをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率30%でアカマツが優占し、クリをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率80%でヒサカキが優占し、コナラ・ヤマザクラ・ヤマウルシ・ヤマツツジ・ナツハゼ・アオダモ・クリ・ゴンズイ・アセビ・リョウブなどをともない、第2低木層は植被率95%でヒサカキ・ヤマツツジ・アセビ・ヤマウルシ・ナツハゼ・コウヤボウキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率が25%でチゴユリ・シュンラン・ヒカゲスゲ・ジャノヒゲ・ノガリヤスなどがみられる。

【特記事項】 暖温帯ではヒサカキ優占型、中間温帯ではヤマツツジ優占型のアカマツ林が二次林として成立している。一方、中間温帯から冷温帯の急峻な山稜や岩峰には土地的極相林としてのアカマツ-ミツバツツジ林がみられる。松枯れや伐採による減少が続いている。

【文献】 永戸・永野・他 (1978)、永戸 (1976・1988)、永野 (1986)

ウラジロモミ群落 (05005)

【県内の分布】 冷温帯上部から亜寒帯下部にかけて局所的に分布する。

【選定基準】 A・H

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件 (秩父市4、小鹿野町1)

【選定群落の評価】 B：1件、C：3件

266	小鹿野町両神薄・秩父市大滝		両神山の亜高山性植物群落	B
267	秩父市	大滝	白泰山のウラジロモミ林	C
268	秩父市	大滝	惣小屋谷のウラジロモミ林	C
269	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	C

【選定群落の概要】 秩父市の群落では高木層は高さ22～25m、ウラジロモミが優占し、コメツガ・ヒメバラモミ・カラマツ・シナノキなどをともなう。亜高木層は出現せず、低木層はスズタケ・ミヤコザサが出現し、草本層はシラネワラビ・マイヅルソウ・オシダ・タケシマランなどがみられる。

【特記事項】 樹皮や林床にシカの影響を受けている可能性がある。

【文献】 前田・島崎 (1951)、埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

カヤ群落 (05006)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯下部に分布し、石灰岩地などの岩角地に見られる。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件 (飯能市2、秩父市1、横瀬町1、越生町1)

【選定群落の評価】 B：3件、C：1件

270	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	B
271	飯能市	上名栗	蟬指石灰岩地の森林	B
272	飯能市	下名栗	河又石灰岩地のカヤ林	B
273	越生町	龍ヶ谷	龍ヶ谷石灰岩地のカヤ林	C

【選定群落の概要】 この群落の高木層は高さ12m、植被率20%でカヤが優占し、亜高木層は高さ6m、植被率95%でカヤが優占し、アサダ・フサザクラ・クマシデなどをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率60%でクマシデ・ダンコウバイ・コクサギ・アサダ・カヤなどをともない、第2低木層は植被率25%でヤマブキ・カヤ・コクサギ・アサダ・マルバウツギなどをともなう。草本層は植被率15%でコバノギボウシ・ヤブレガサ・ジャノヒゲ・シロヨメナなどがみられる。

【特記事項】 特定植物群落「蟬指石灰岩地の森林」では、コクサギーアサダ群落として記載されている。前回調査から大きな変化はない。

【文献】 永野・立石・他（1980）

クロベ群落 (05008)

【県内の分布】 冷温帯上部から亜寒帯に分布し、表土の極めて浅い風衝尾根や岩峰に見られる。

【選定基準】 A・D

【群落重要度】 I

【関連群集】 シノブカグマーヒノキ群集 *Arachniodo muticae-Chamaecyparidetum obtusae* Maeda 1951

【選定群落の件数】 3件（秩父市3）

【選定群落の評価】 A：3件

274	秩父市	大滝	孫四郎峠のクロベ林	A
275	秩父市	大滝	白岩山のクロベ林	A
276	秩父市	中津川	十文字山のクロベ林	A

【選定群落の概要】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 20m でクロベが優占し、コメツガ・ヒノキをともなう。亜高木層はアセビが優占し、サラサドウダンをともなう。低木層はコヨウラクツツジが優占し、草本層はみられない。

【特記事項】 前回調査から大きな変化はない。

【文献】 前田・島崎（1951）、永野（1986）

サワラ群落 (05011)

【県内の分布】 冷温帯から亜寒帯下部に分布し、沢に近い湿性の岩壁地に見られる。

【選定基準】 D

【群落重要度】 I

【関連群集】 フジシダ－サワラ群集 *Ptilopterido-Chamaecyparidetum piciferae* (Maeda 1958) Yokouchi 1971

【選定群落の件数】 3件（秩父市）

【選定群落の評価】 A：2件、B：1件

277	秩父市	大滝	真の沢・木賊沢出合のサワラ林	A
278	秩父市	大滝	真の沢のサワラ林	A
279	秩父市	大滝	水晶谷のサワグルミ・サワラ林	B

【選定群落の概要】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 18m でサワラが優占し、サワグルミ・シオジをともなう。亜高木層でリョウブ、低木層でミツバツツジが優占し、草本層はフジシダが優占し、コカンスゲ・ミヤマクマワラビなどがみられる。

【特記事項】 前回調査から大きな変化はない。

【文献】 前田・吉岡（1952）、永野（1986）、埼玉県編（1987）

ツガ群落 (05013)

【県内の分布】 中間温帯から冷温帯に分布し、表土の薄い尾根などに見られる。

【選定基準】 A・D・E

【群落重要度】 II

【関連群集】 コカンスゲ－ツガ群集 *Carici-Tsugetum sieboldii* Suz.-Tok. 1952

【選定群落の件数】 15件（秩父市 12、東秩父村 1、小鹿野町 1、飯能市 1）



【選定群落の評価】 A：1件、B：7件、C：7件

280	秩父市	大滝	大久保谷のツガ林	A
281	秩父市	大滝	惣小屋谷のツガ林	B
282	秩父市	大滝	滝川流域のツガ林	B
283	秩父市	大滝	入川流域のツガ林	B
284	秩父市	大滝	川浦谷のツガ林	B
285	秩父市	中津川	中双里の森林	B
286	秩父市	浦山	小持山のツガ林	B
287	東秩父村	御堂	観音山のツガ林	B
288	小鹿野町	両神小森	両神山滝前植物群落	C
289	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	C
290	秩父市	荒川日野	弟富士山のツガ林	C
291	秩父市	上吉田	土坂峠南のツガ林	C
292	飯能市	下名栗	長尾丸山のツガ林	C
293	秩父市	荒川日野	熊倉山のツガ林	C
294	秩父市	大滝	演習林 22 林班のツガ林	C

【選定群落の概要】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 20m、植被率 65%でツガが優占し、リョウブをともなう。亜高木層は高さ 7m、植被率 65%でアオダモが優占し、タカノツメ・リョウブ・コミネカエデなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3.5m、植被率 85%でオオカメノキとリョウブが優占し、コミネカエデ・タカノツメ・ベニドウダン・アオハダ・ミヤマガマズミ・バイカツツジ・トウゴクミツバツツジ・コシアブラなどをともない、第 2 低木層は植被率 15%でオオカメノキ・コアジサイ・バイカツツジ・ベニドウダン・トウゴクミツバツツジなどをともなう。草本層は植被率が 20%でチゴユリ・ハリガネワラビなどがみられる。

【特記事項】 林床にシカの影響を受けている。

【文献】 前田・吉岡 (1952)、永野・永戸・他 (1975)、埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

ヒノキ群落 (05019)

【県内の分布】 主に冷温帯に分布し、空中湿度の高い北向きの尾根や北斜面の岩角地などに見られる。

【選定基準】 A・C・D・H

【群落重要度】 II

【関連群集】 シノブカグマ-ヒノキ群集 *Arachniodo muticae-Chamaecyparidetum obtusae* Maeda 1951

【選定群落の件数】 14 件 (秩父市 12、小鹿野町 2、横瀬町 1)

【選定群落の評価】 B：7件、C：7件



295	小鹿野町	河原沢	尾の内沢のヒノキ林	B
296	小鹿野町両神薄・秩父市大滝		両神山のヒノキ林	B
297	横瀬町	横瀬	横瀬のヒノキ林	B
298	秩父市	上吉田	女形のヒノキ林	B
299	秩父市	大滝	ヒダナ沢・中小屋沢のヒノキ林	B
300	秩父市	中津川	日室鉱山鉱化地帯のヒノキ林	B
301	秩父市	中津川	中双里の森林	B
302	秩父市	大滝	柳小屋付近のヒノキ林	C
303	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	C
304	秩父市	中津川	大若沢周辺尾根のヒノキ林	C
305	秩父市	中津川	南天山のヒノキ林	C

306	秩父市	三峰	妙法岳石灰岩地の森林	C
307	秩父市	大滝	演習林 22 林班のヒノキ林	C
308	秩父市	中津川	中津峡の岩壁植物群落	C

【選定群落の概要】 小鹿野町の群落では高木層は高さ 15m、植被率 90% でヒノキが優占している。亜高木層は高さ 7m、植被率 15% でナガバノヤマグルマ・ハウチワカエデ・ミネカエデ・アラゲアオダモなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 80% でアズマシャクナゲが優占し、コヨウラクツツジ・アセビ・タカノツメなどをともなう。第 2 低木層は植被率 50% でアズマシャクナゲ・コヨウラクツツジ・アカヤシオ・チチブドウダンなどをともなう。草本層は植被率が 5% でヘビノネゴザがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 98% でヒノキが優占し、ツガ・ヒメコマツなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 60% でネジキが優占し、タカノツメ・ツガ・アカマツなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 70% でアセビが優占し)、ツガ・タカノツメ・シロヤシオなどをともない、第 2 低木層は植被率 95% でツガ・アセビ・ヒカゲツツジ・ヒノキ・トウゴクミツバツツジなどをともなう。草本層はみられない。

【特記事項】「日笠鉦下地帯のヒノキ林」は、鉦化地帯という特殊な基岩上に成立するヒノキ林として重要である。前回調査から大きな変化はない。

【文献】 永戸・永野 (1971)、永野・永戸・他 (1975)、永野 (1986)

モミ群落 (05021)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯下部に分布し、尾根を中心に見られる。

【選定基準】 A・E・H

【群落重要度】 II

【関連群集】 シキミ - モミ群集 *Illicio-Abietetum firmae* Suz.-Tok. 1961

【選定群落の件数】 25 件 (秩父市 6、鳩山町 3、皆野町 3、ときがわ町 3、飯能市 2、横瀬町 2、日高市 2、小鹿野町 2、長瀬町 1、越生町 1、川越市 1、伊奈町 1、)

【選定群落の評価】 S: 2 件、A: 1 件、B: 8 件、C: 14 件



309	秩父市	大野原	広見寺の社寺林	S
310	飯能市	下直竹	申測のモミ林	S
311	鳩山町	熊井	熊井南のモミ林	A
312	横瀬町	芦ヶ久保	姥神のモミ林	B
313	飯能市	下名栗	龍泉寺の社寺林	B
314	長瀬町長瀬・皆野町国神		宝登山のモミ林	B
315	越生町	小杉	黒山のモミ林	B
316	皆野町	皆野	蓑山のモミ林	B
317	秩父市	久那	野々上のモミ林	B
318	秩父市	贅川	贅川のモミ林	B
319	日高市	横手	山下のモミ林	B
320	ときがわ町	西平	萩日吉神社社叢	C
321	川越市	小堤	小堤湧水地のモミ・ケヤキ林	C
322	秩父市	大滝	落合のモミ・ツガ林	C
323	秩父市	中津川	中双里の森林	C
324	秩父市別所・小鹿野町長留ほか		長尾根 (尾田蒔丘陵) の中間温帯林	C
325	ときがわ町	玉川	春日神社ふるさとの森	C
326	ときがわ町	桐平	日向根のモミ林	C

327	伊奈町	羽貫	小針神社のモミ林	C
328	横瀬町	横瀬	宇根のモミ林	C
329	皆野町	国神	金崎神社奥宮のモミ林	C
330	小鹿野町	飯田	飯田のモミ林	C
331	日高市	横手	坂下のモミ林	C
332	鳩山町	熊井	熊井のモミ林	C
333	鳩山町	高野倉	高野倉のモミ林	C

【選定群落の概要】 鳩山町の群落では高木層は高さ 23m、植被率 85% でモミが優占し、亜高木層は欠いている。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 90% でアラカシが優占し、スダジイ・ヒサカキ・ヤブムラサキ・イヌシデ・タブノキなどをともない、第 2 低木層は植被率 30% でアラカシ・ヒイラギ・シラカシ・ヒサカキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率 5% でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・シュンラン・ヤマイタチシダなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ 12m、植被率 90% でモミが優占し、アカマツ・アラカシなどをともなう。亜高木層は高さ 7m、植被率 20% でアラカシが優占しヤマウルシなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 30% でアラカシが優占し、ヤダケ・アオハダ・ネジキ・コバノガマズミ・ヤマウルシなどをともない、第 2 低木層は植被率 45% でアラカシ・ヤダケ・ヤブコウジ・コバノガマズミ・ヤマツツジ・アカシデ・アズキナシ・モミなどをともなう。草本層は植被率 20% でヒメカンスゲ・ヤブラン・シュンラン・カシワバハグマ・ヌスビトハギなどがみられる。

【特記事項】 「熊井のモミ林」は丘陵に成立しており、地形はなだらかで土壌の発達が良い。高木層は壮齢なモミが多く、相観的にも壮麗である。低木層は過去に人為的な干渉はあるものの、その後の放置によりかなり発達して、良好な群落である。秩父地域では林床にシカの影響を受けている。

【文献】 永野・田地野（1973）、永野（1986）、島井・永戸（2011）

冷温帯落葉広葉高木林 (06)



アカシデ群落 (06003)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯下部まで、台地の斜面や山地の急傾斜地などで見られる。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 Ⅲ

【選定群落の件数】 15 件（さいたま市 8、川口市 2、三芳町 1、上尾市 1、久喜市 1、富士見市 1、宮代町 1）

【選定群落の評価】 B：1 件、C：14 件

334	さいたま市	緑区三室	北宿の斜面林	B
-----	-------	------	--------	---

【選定群落の概要】 さいたま市の群落では高木層はアカシデが優占し、コナラ・イヌシデなどをともなう。亜高木層はアカシデが優占し、アオハダ・エゴノキ・イヌシデなどをともなう。第1低木層はアカシデが優占し、ヒサカキ・シラカシ・エゴノキ・アオハダ・イヌシデなどをともない、第2低木層はアズマネザサ・シラカシ・ヒサカキ・アオキ・コウヤボウキ・シロダモ・ヤマツツジなどをともなう。草本層はチヂミザサ・ジャノヒゲ・ノガリヤス・シュンランなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ15m、植被率70%でアカシデが優占し、イヌシデ・サワシバ・ヨグソミネバリなどをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率40%でリョウブが優占し、アカシデ・ツガ・モミ・クマシデ・ネジキなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率30%でミツバツツジが優占し、アカシデ・ツガ・ヤマツツジなどをともない、第2低木層は植被率10%でミツバツツジ・ヤマツツジ・メツクバネウツギ・コアジサイ・アオダモなどをともなう。草本層は植被率20%でヒカゲスゲ・フクロシダなどがみられる。

【特記事項】 相観的にはアカシデ-イヌシデ林として、主として台地から低地にかけての傾斜面に分布している。分布上限にあたる冷温帯の石灰岩地域（二子山）では立地的に劣悪な絶壁面に群落を形成しており、二次林としてよりもむしろ立地的に安定した土地的極相林として維持されている。平野部では消滅・縮小した群落もある。

【文献】 埼玉県編（1980）、永野・加藤・他（1982）、永野・佐々木・他（1984）、永野（1986）

アサダ群落 (06004)

【県内の分布】 中間温帯から冷温帯に分布し、石灰岩地帯の岩塊斜面などに見られる。

【選定基準】 B・D・H

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件（秩父市2、横瀬町1、飯能市1）

【選定群落の評価】 C：3件

349	秩父市上影森・横瀬町横瀬	武甲山石灰岩地の森林	C
350	飯能市 上名栗	蟬指石灰岩地の森林	C
351	秩父市 中津川	石灰沢のアサダ林	C

【選定群落の概要】 武甲山の群落では、高木層は高さ13m、植被率80%でアサダが優占し、ケンポナシをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率10%でアカシデ・ヤマガキなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率15%でコクサギ・ウツギ・アサダ・ヤマモミジ・ヒメウツギなどをともない、第2低木層は植被率10%でコクサギ・カヤ・スズタケ・ナガバノコウヤボウキなどをともなう。草本層は植被率30%でジャノヒゲ・ヤブレガサ・クマワラビ・ヤブランなどがみられる。コケ層はタチヒラゴケが優占している。

【特記事項】 アサダは孤立木、または数本まとまっているのが普通であって、集団をつくるのは極めて希である。林床にシカの影響を受けている。

【文献】 永野・大垣（1975）

イヌシデ群落 (06009)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布し、台地や山地の斜面などで見られる。

【選定基準】 E

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 20件（川口市6、さいたま市5、和光市3、朝霞市2、三芳町1、北本市1、川越市1、久喜市1、富士見市1）

【選定群落の評価】 C：20件

【選定群落の概要】 さいたま市の群落では高木層は高さ10m、植被率85%でイヌシデが優占し、アカシデ・コナラ・エゴノキ・ネムノキなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率65%でアカシデが優占し、エゴノキ・イヌシデ・リョウブ・コナラなどをともなう。第1低木層は高さ1.5m、植被率60%でアオハダ・エゴノキ・コナラが優占し、ヤマツツジ・リョウブ・アカシデ・

ガマズミなどをとめない、第2低木層は植被率20%でシラカシ・ヤマツツジ・アズマネザサ・コウヤボウキ・アオハダ・ヒサカキなどをともなう。草本層は植被率10%でジャノヒゲ・ミサキカグマ・チヂミザサ・ノガリヤス・シュンランなどがみられる。

【特記事項】相観的にはアカシデ-イヌシデ林として、主として台地から低地にかけての傾斜面に分布している。平野部では消滅・縮小した群落もある。

【文献】永野・佐々木・他(1984)、永野(1986)

イヌブナ群落 (06010)

【県内の分布】冷温帯域を代表する極相の一つで、山腹のやや急で表土の薄い斜面などに見られる。

【選定基準】A・E・H

【群落重要度】I

【関連群集】コカンスゲ-ツガ群集 *Carici-Tsugetum sieboldii* Suz.-Tok. 1952; ブナ-イヌブナ群集 *Fagetum crenato-japonicae* Sasaki 1970

【選定群落の件数】15件(秩父市13、本庄市1、小鹿野町1、横瀬町1)

【選定群落の評価】A: 8件、B: 7件



372	本庄市	児玉町小平	岩谷洞のイヌブナ林	A
373	秩父市	大滝	荒川源流域の森林(股の沢のイヌブナ林)	A
374	秩父市	大滝	演習林24林班のイヌブナ林	A
375	秩父市	大滝	入川流域のイヌブナ林	A
376	秩父市	大滝	妙法岳石灰岩地の森林	A
377	秩父市	荒川日野	熊倉山のイヌブナ林	A
378	秩父市	大滝	霧藻ヶ峰のイヌブナ林	A
379	秩父市	中津川	中双里の森林	A
380	小鹿野町	両神小森	両神山滝前植物群落	B
381	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	B
382	秩父市	大滝	演習林19林班のイヌブナ林	B
383	秩父市	大滝	惣小屋谷周辺のイヌブナ林	B
384	秩父市	中津川	大若沢流域のイヌブナ林	B
385	秩父市	中津川	大山沢流域のイヌブナ林	B
386	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	B

【選定群落の概要】小鹿野町の群落では高木層は高さ10m、植被率90%でイヌブナが優占し、クマシデ・ヤマザクラ・ミズナラなどをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率40%でクマシデが優占し、イヌブナ・ヤマボウシ・ナツツバキ・リョウブ・サワシバなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率50%でイヌブナ・ミツバツツジ・アラゲアオダモ・ウラゲエンコウカエデ・ヤマツツジ・ヤマボウシなどが優占し、第2低木層は植被率30%でアブラツツジ・コアジサイ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・イヌブナなどをともなう。草本層は植被率30%でキヌタソウ・オクモミジハグマ・タガネソウ・イカリソウ・オオバシヨウマなどがみられる。秩父市の群落では亜高木層は高さ8m、植被率95%でイヌブナが優占し、クマシデ・リョウブ・ウリハダカエデ・ブナなどをともなう。第1低木層は高さ3.5m、植被率60%でキブシが優占し、ベニドウダン・リョウブ・ナンキンナナカマド・ヤマボウシ・キハギなどをとめない、第2低木層は植被率20%でナガバノコウヤボウキ・ヤマボウシ・メツクバネウツギ・バイカツツジなどをともなう。草本層は植被率60%でタガネソウ・ウラハグサ・ヤグルマソウ・キヌタソウ・ツルデンダ・トリアシシヨウマなどがみられる。

【特記事項】林床にシカの影響を受けている。

【文献】永野（1986）、埼玉県編（1987）、永戸・島井（1998）

オニグルミ群落 (06017)

【県内の分布】暖温帯から冷温帯まで広く分布し、沢沿い、山腹、尾根まで広く見られる。

【選定基準】F・I

【群落重要度】II

【関連群集】ムクノキ-エノキ群集 *Aphananthe-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

【選定群落の件数】9件（小鹿野町2、越谷市1、草加市1、八潮市1、春日部市1、東松山市1、加須市1、坂戸市1、東秩父村1、嵐山町1）

【選定群落の評価】B：4件、C：5件

387	小鹿野町	河原沢	尾の内沢のオニグルミ林	B
388	越谷市東町、草加市柿木町、八潮市八條ほか		中川沿いの河畔林	B
389	春日部市	永沼・水角	新堀悪水路沿いのオニグルミ・ケヤキ林	B
390	東松山市	下青島・神戸	都幾川の河畔林	B
391	小鹿野町	河原沢	二子山石灰岩地の森林	C
392	加須市	小野袋	谷田川の河畔林	C
393	坂戸市	森戸	高麗川沿いのオニグルミ林	C
394	東秩父村	安戸	槻川沿いのオニグルミ林	C
395	嵐山町	遠山	嵐山溪谷のオニグルミ林	C

【選定群落の概要】小鹿野町の群落では高木層は高さ10m、植被率70%でオニグルミが優占している。亜高木層は高さ6m、植被率15%でアオダモとオニグルミが出現している。第1低木層は高さ3.5m、植被率98%でアブラチャンが優占し、ミツバウツギ・サンショウなどをとまない、第2低木層は植被率10%でアブラチャン・ミツバウツギ・ヤマブキなどをとまなう。草本層は植被率50%でマネキグサ・シロヨメナ・ミヤマタニワタシ・ヒロハノハネガヤ・コチヂミザサなどがみられる。

【特記事項】秩父地域では林床にシカの影響を受けている。

【文献】永野・永戸・他（1975）、永野・大垣・他（1976）、永野（1986）

カシワ群落 (06020)

【県内の分布】外秩父山地・上武山地に局所的に分布する。

【選定基準】B・F・I

【群落重要度】I

【選定群落の件数】3件（ときがわ町2、横瀬町1）

【選定群落の評価】S：1件、A：2件

396	横瀬町	芦ヶ久保	丸山のカシワ林	S
397	ときがわ町	大野	勝負平のカシワ林	A
398	ときがわ町	大野	陣場平のカシワ林	A

【選定群落の概要】横瀬町の群落では高木層は高さ12m、植被率80%でカシワ・コナラが優占し、ミズキ・イロハモミジをとまなう。低木層は高さ1.5m、植被率25%でヤマツツジが優占し、モミジイチゴ・コゴメウツギ・ツクバネウツギなどをとまなう。草本層は植被率65%でコアジサイ・ミヤコザサ・ナガバノコウヤボウキ・チゴユリなどがみられる。

【特記事項】かつての土地利用の名残とも考えられ、遷移により消滅する可能性がある。

クヌギ群落 (06023)

【県内の分布】暖温帯と中間温帯の川沿いに分布し、台地などには薪炭林由来の群落も見られる。

【選定基準】E・F・I

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】

クヌギ-コナラ群集 *Quercetum acutissimo-serratae* Miyawaki 1967；ムクノキ-エノキ群集 *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

【選定群落の件数】56件（さいたま市14、東松山市5、川越市4、富士見市4、川口市3、桶川市2、川島町2、日高市2、坂戸市2、深谷市2、加須市2、杉戸町2、入間市2、長瀬町1、滑川町1、上尾市1、狭山市1、熊谷市1、寄居町1、横瀬町1、越谷市1、宮代町1、戸田市1、所沢市1、新座市1、草加市1、八潮市1、毛呂山町1、嵐山町1）

【選定群落の評価】A：1件、B：17件、C：38件

399	長瀬町	長瀬	荒川河畔のクヌギ林	A
400	滑川町	羽尾	市野川沿いのクヌギ・コナラ林	B
401	上尾市領家・桶川市川田谷		江川下流湿地の沼沢林	B
402	川島町	出丸下郷	太郎衛門地区のクヌギ林	B
403	日高市	高麗本郷	巾着田のクヌギ・コナラ林	B
404	さいたま市	見沼区南中丸	南中丸緑地公園のクヌギ・コナラ林	B
405	さいたま市	見沼区南中野	猿花キャンプ場のクヌギ・コナラ林	B
406	狭山市	広瀬	鶉ノ木のクヌギ・ケヤキ林	B
407	熊谷市	広瀬	荒川大麻生公園のクヌギ林	B
408	坂戸市	浅羽	浅羽ビオトープのクヌギ・ハンノキ・エノキ林	B
409	川越市福田・下老袋・川島町角泉上井草ほか		入間川沿いの河畔林	B
410	東松山市	下青鳥・神戸	都幾川の河畔林	B
411	東松山市	市ノ川	城恩寺北の斜面林	B
412	東松山市	松山・野田	滑川沿いの斜面林	B
413	東松山市早俣・田木・坂戸市小沼ほか		越辺川の河畔林	B
414	日高市	北平沢ほか	高麗川沿いのクヌギ林	B
415	富士見市	諏訪	諏訪氷川神社の森のクヌギ林	B
416	富士見市東大久保・川越市萱沼・さいたま市西区湯木町ほか		びん沼の河畔林	B

【選定群落の概要】さいたま市の群落では高木層は高さ10.5m、植被率85%でクヌギが優占し、コナラ・ハンノキなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率30%でクヌギが優占し、コナラ・エゴノキなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率40%でコナラ・ガマズミが優占し、ハンノキ・カマツカなどをともない、第2低木層は植被率100%でアズマネザサが優占し、ウコギ・コナラ・ハンノキ・ムクノキ・シロダモなどをともなう。草本層はみられない。

【特記事項】遷移や開発により縮小した群落もある。

【文献】埼玉県編（1980）、永野（1986）

クマシデ群落 (06024)

【県内の分布】中間温帯から冷温帯に分布し、石灰岩地帯の岩場などに見られる。

【選定基準】D

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】3件（秩父市1、横瀬町1、越生町1、飯能市1）

【選定群落の評価】A：1件、B：1件、C：1件

455	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	A
456	越生町	龍ヶ谷	龍ヶ谷石灰岩地のクマシデ・サワシバ林	B
457	飯能市	上名栗	蟬指石灰岩地の森林	C

【選定群落の概要】飯能市の群落では亜高木層は高さ8m、植被率75%でクマシデが優占し、クマノミズキ・キブシ・イヌシデ・フサザクラなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率

60%でクマシデが優占し、コクサギ・サワシバ・フサザクラ・ニシキギ・キブシなどをともない、第2低木層は植被率40%でヤマブキ・コクサギ・ムラサキシキブ・カヤなどをともなう。草本層は植被率45%でジャノヒゲ・シロヨメナ・ヤブレガサなどがみられる。

【特記事項】 前回調査から大きな変化はない。

【文献】 永野・大垣・他(1976)、永野・立石・他(1980)

クリ群落 (06025)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯に分布し、中間温帯で優占度の高い群落が見られる。

【選定基準】 A・E・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 クリーコナラ群集 *Castaneo-Quercetum serratae* Okutomi, Tsuiji et Kodaira 1976；
クリーミズナラ群集 *Castaneo-Quercetum crispulae* Horikawa et Sasaki 1959

【選定群落の件数】 10件（横瀬町3、飯能市2、秩父市2、東秩父村1、美里町1、ときがわ町1、小鹿野町1、長瀨町1、皆野町1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：6件、C：2件

458	横瀬町横瀬・飯能市上名栗	大持山のクリ林	A
459	東秩父村 白石	堂平山～剣ヶ峰のクリ・コナラ林	A
460	横瀬町 芦ヶ久保	丸山のクリ・コナラ林	B
461	秩父市山田・横瀬町横瀬	県民の森北のクリ・コナラ林	B
462	飯能市 上名栗	ウノタワ周辺のクリ林	B
463	美里町 矢納	城峰山のクリ・コナラ林	B
464	秩父市 中津川	中双里の森林	B
465	ときがわ町 櫛平	ぶな峠の森林	B
466	小鹿野町 両神小森	両神山滝前植物群落	C
467	長瀨町井戸・皆野町下田野	井戸山の森林	C

【選定群落の概要】 ときがわ町の群落では高木層は高さ12m、植被率80%でクリが優占している。亜高木層は高さ9m、植被率30%でクリ・ズミが出現している。第1低木層は高さ4.5m、植被率60%でサワフタギが優占し、アブラチャン・ズミ・ツノハシバミなどをともない、第2低木層は植被率30%でコゴメウツギ・ミヤコザサ・アオハダなどをともなう。草本層は植被率1%でキヌタソウ・エイザンスミレ・シロヨメナなどがみられる。

【特記事項】 秩父地域では林床にシカの影響を受けている。

【文献】 永戸・永野・他(1978)

ケヤキ群落 (06026)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯に分布し、主に川沿いに成立し岩場などでも見られる。

【選定基準】 A・D・E・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 シラカシ群集 *Quercetum myrsinaefoliae* Miyawaki et Ohba 1965；イロハモミジ-ケヤキ群集 *Aceri-Zelkovetum serratae* Miyawaki et K. Fujiwara 1970；コクサギ-ケヤキ群集 *Orixo-Zelkovetum serratae* Miyawaki et H. Tohma 1975；オオモミジ-ケヤキ群集 *Aceri amoeni-Zelkovetum serratae* Miyawaki et al. 1979

【選定群落の件数】 113件（さいたま市15、川口市9、飯能市8、秩父市6、朝霞市5、熊谷市4、狭山市4、春日部市4、富士見市4、小鹿野町3、入間市3、新座市3、桶川市3、川越市3、北本市3、毛呂山町3、日高市2、ふじみ野市2、和光市2、越生町2、横瀬町2、皆野町2、



寄居町 2、行田市 2、鴻巣市 2、志木市 2、深谷市 2、嵐山町 2、久喜市 2、所沢市 1、長瀨町 1、ときがわ町 1、小川町 1、川島町 1、東松山市 1、本庄市 1、幸手市 1、吉見町 1、坂戸市 1、杉戸町 1、草加市 1、八潮市 1)

【選定群落の評価】 A：3 件、B：71 件、C：39 件

468	小鹿野町	両神小森	堂上のケヤキ林	A
469	秩父市	吉田太田部	築場のケヤキ林	A
470	飯能市	大河原・永田・飯能	吾妻峡のケヤキ林	A

【選定群落の概要】 飯能市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 95% でケヤキが優占し、アラカシ・ヤマザクラなどをともなう。亜高木層は高さ 9m、植被率 70% でアラカシが優占し、ケヤキ・シラカシなどをともなう。第 1 低木層は高さ 5m、植被率 60% でアラカシが優占し、ヤブツバキなどをとまない、第 2 低木層は植被率 15% でケヤキ・アラカシ・ヤブツバキ・マルバウツギ・アオキなどをともなう。草本層は植被率+で、ヤマイタチシダ・ナガバジャノヒゲ・オオバノイノモトソウ・オオバジャノヒゲがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ 12m、植被率 90% でケヤキが優占し、フサザクラ・オニイタヤ・ヌルデなどをともなう。亜高木層は高さ 7m、植被率 20% でヌルデが優占し、ケヤキ・アブラチャン・メグスリノキなどをともなう。第 1 低木層はイロハモミジ・アブラチャン・ヒノキが優占し、ウラゲエンコウカエデ・ケヤキ・メグスリノキ・ヒメウツギなどをとまない、第 2 低木層はヤマブキ・ヒメウツギ・ミツバウツギ・アズマネザサ・サンショウなどをともなう。草本層は植被率 5% でカノツメソウ・ヒロハノハネガヤ・オオイトスゲ・ヤマカモジグサ・ミヤマタニワタシなどがみられる。

【特記事項】 秩父地域では林床にシカの影響を受けている。

【文献】 永野・永戸・他 (1975)、永野・加藤・他 (1978)、永野 (1986)、永戸・島井 (2001)

コナラ群落 (06027)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布し、台地・丘陵では薪炭林由来の群落が多い。

【選定基準】 A・E・F・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 クリーコナラ群集 *Castaneo-Quercetum serratae* Okutomi, Tsuiji et Kodaira 1976；クヌギコナラ群集 *Quercetum acutissimo-serratae* Miyawaki 1967



【選定群落の件数】 211 件 (新座市 17、さいたま市

17、所沢市 15、狭山市 13、川越市 12、入間市 10、小川町 7、深谷市 7、東松山市 7、北本市 7、三芳町 6、上尾市 6、川口市 6、朝霞市 6、本庄市 5、ふじみ野市 5、桶川市 5、秩父市 4、皆野町 4、長瀨町 4、毛呂山町 4、嵐山町 4、鶴ヶ島市 4、日高市 4、美里町 4、小鹿野町 3、越生町 3、寄居町 3、飯能市 3、鳩山町 3、熊谷市 3、吉見町 3、春日部市 3、神川町 3、ときがわ町 2、坂戸市 2、蓮田市 2、和光市 2、久喜市 2、富士見市 2、東秩父村 1、伊奈町 1、横瀬町 1、加須市 1、滑川町 1、宮代町 1、志木市 1、白岡市 1)

【選定群落の評価】 A：5 件、B：142 件、C：64 件

581	秩父市	山田	旧野活のコナラ林	A
582	ときがわ町	大野	ぶな峠北のコナラ林	A
583	皆野町三沢・秩父市黒谷・栃谷		蓑山のコナラ林	A
584	長瀨町本野上・中野上・皆野町金沢		長瀨アルプスのコナラ林	A
585	東秩父村	坂本・大内沢	二本木峠～皇鈴山のコナラ林	A

【選定群落の概要】 さいたま市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 65% でコナラが優占している。亜高木層は高さ 8m、植被率 65% でシラカシが優占し、コナラ・イヌシデ・アカシデなど

をともなう。第1低木層は高さ3m、植被率75%でヒサカキが優占し、アカシデ・シラカシ・イヌシデ・コナラなどをとめない、第2低木層は植被率70%でヒサカキ・シラカシ・コウヤボウキ・アズマネザサなどをともなう。草本層は植被率10%でジャノヒゲ・イヌワラビ・ヤマイトチシダなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ13m、植被率70%でコナラが優占し、クリ・アカシデ・モミなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率70%でアオハダが優占し、リョウブ・アカシデ・ウリカエデ・コナラ・ナツツバキなどをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率40%でヤマツツジ・ミツバツツジが優占し、ナツツバキ・アオハダ・リョウブ・ヤマウルシ・ウリカエデなどをとめない、第2低木層は、植被率60%でコアジサイ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・コウヤボウキ・オトコヨウゾメ・アカシデ・コナラなどをともなう。草本層は植被率10%でチゴユリ・フクオウソウ・アキノキリンソウ・シラヤマギクなどがみられる。

【特記事項】平野部ではナラ枯れが急速に広がっている。

【文献】埼玉県編(1980)、永野・加藤(1982)、永野・佐々木・他(1984)、永野(1986)、永戸・島井(2002)

サワグルミ群落 (06028)

【県内の分布】山地の沢沿いに見られ、冷温帯域の湿性の極相の一つ。

【選定基準】A・D・E

【群落重要度】I

【関連群集】ヤマタイミンガサ-サワグルミ群集
Cacalio yatabei-Pterocaryetum rhoifoliae
 (Miyawaki et al. 1979) Ohno in Miyawaki 1985

【選定群落の件数】12件(秩父市5、飯能市3、小鹿野町1、ときがわ町1、寄居町1、小川町1)

【選定群落の評価】A：8件、B：4件



792	秩父市	中津川	信濃沢源流の溪谷林	A
793	秩父市	大滝	真の沢のサワグルミ林	A
794	秩父市	中津川	中津川のサワグルミ林	A
795	小鹿野町	両神小森	小森川のサワグルミ林	A
796	秩父市	浦山	大久保谷の溪畔林	A
797	秩父市	中津川	中双里の森林	A
798	飯能市	上名栗	入間川源流のサワグルミ林	A
799	飯能市	下名栗	有間川源流のサワグルミ林	A
800	ときがわ町	大野	大羽根川源流のサワグルミ林	B
801	寄居町	風布	釜伏山のサワグルミ林	B
802	小川町	腰越	笠山のサワグルミ林	B
803	飯能市	上名栗	白岩石灰岩地のサワグルミ林	B

【選定群落の概要】秩父市大滝の群落では高木層はサワグルミが優占している。亜高木層はヤマシバカエデ・フサザクラが優占し、ケヤキ・オオバアサガラ・サワグルミ・ミツデカエデなどをともなう。第1低木層はヤマシバカエデが優占し、オニイタヤ・サワグルミ・ケヤキ・ミツデカエデ・シオジなどをとめない、第2低木層はヤマシバカエデ・シオジ・ウリノキ・ヤマアジサイ・ヒメウツギなどをともなう。草本層はミヤマイラクサ・ビロードシダ・ミヤマクマワラビ・ギンバイソウ・イワガネゼンマイなどがみられる。

【特記事項】荒川源流域の溪畔林のなかでは、もっとも高い海拔域に成立している。林床にシカの影響を受けている。

【文献】永野・永戸・他(1975)、埼玉県編(1987)

シオジ群落 (06030)

【**県内の分布**】 山地の沢沿いに見られ、太平洋側の冷温帯域を代表する湿性の極相の一つ。

【**選定基準**】 A・B・D・E・H

【**群落重要度**】 I

【**関連群集**】 ミヤマクマワラビ-シオジ群集

Dryopterido-Fraxinetum commemoralis Suz.-Tok.
1949

【**選定群落の件数**】 18件（秩父市14、小鹿野町4）

【**選定群落の評価**】 A：12件、B：6件



804	秩父市	大滝	赤沢谷のシオジ林	A
805	秩父市	大滝	滝川源流のシオジ林	A
806	秩父市	中津川	信濃沢源流の溪谷林	A
807	秩父市	中津川	大山沢のシオジ林	A
808	小鹿野町	両神薄	薄川のシオジ林	A
809	秩父市	浦山	細久保谷のシオジ林	A
810	秩父市	中津川	中双里の森林	A
811	秩父市	大滝	中小屋沢のシオジ林	A
812	秩父市	大滝	惣小屋谷のシオジ林	A
813	秩父市	大滝	ヒダナ沢のシオジ林	A
814	秩父市	中津川	ムジナ沢のシオジ林	A
815	秩父市	浦山	大久保谷の溪畔林	A
816	小鹿野町	河原沢	尾の内沢のシオジ林	B
817	小鹿野町	両神小森	両神山滝前植物群落	B
818	秩父市	大滝	演習林 11 林班のシオジ林	B
819	秩父市	大滝	演習林 21 林班のシオジ林	B
820	秩父市	大滝	大血川東谷のシオジ林	B
821	小鹿野町	両神小森	挽板沢のシオジ・サワグルミ林	B

【**選定群落の概要**】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 15m、植被率 90%でシオジが優占し、オニイタヤ・ハルニレなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 50%でシオジが優占し、ハルニレ・オニイタヤなどをともなう。第1低木層は高さ 3m、植被率 30%でイロハモミジが優占し、オニイタヤ・ハルニレ・サワシバ・ヤマシバカエデ・ヒナウチワカエデなどをともない、第2低木層は植被率 10%でイロハモミジ・ヤマシバカエデ・ウリノキ・サワシバ・ヤマアジサイ・シオジなどをともなう。草本層は植被率 20%でミヤマクマワラビ・ギンバイソウ・イワガネゼンマイ・ウワバミソウ・ウマノミツバなどがみられる。

【**特記事項**】 秩父山地を代表する典型的な湿性の極相林であり、積極的な保護が必要である。林床にシカの影響を受けている。

【**文献**】 埼玉県編 (1980・1987)、永野・永戸・他 (1975)、永野 (1986)、愛川・牧野・他 (2003)

チチブミネバリ群落 (06036)

【**県内の分布**】 冷温帯から亜寒帯下部の石灰岩地に限定的に分布する。

【**選定基準**】 B・C・D・G・H

【**群落重要度**】 I

【**選定群落の件数**】 12件（秩父市9、小鹿野町2、横瀬町1）

【**選定群落の評価**】 S：1件、A：6件、B：5件

822	小鹿野町	河原沢	二子山石灰岩地の森林	S
823	秩父市	大滝・中津川	赤沢岳石灰岩地のチチブミネバリ群落	A

824	秩父市	中津川	梓白岩石灰岩地のチチブミネバリ群落	A
825	秩父市	大滝	四季萩石灰岩地のチチブミネバリ群落	A
826	小鹿野町	三山	白石山石灰岩地の森林	A
827	横瀬町	横瀬	武甲山石灰岩地の森林	A
828	秩父市	浦山	冠岩石灰岩地のチチブミネバリ群落	A
829	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のチチブミネバリ群落	B
830	秩父市	中津川	六助沢左岸尾根のチチブミネバリ群落	B
831	秩父市	中津川	石灰沢石灰岩地のチチブミネバリ群落	B
832	秩父市	大滝	前白岩山石灰岩地の植物群落	B
833	秩父市	大滝	豆焼沢石灰岩地のチチブミネバリ群落	B

【選定群落の概要】 秩父市の群落では亜高木層は高さ7m、植被率60%でチチブミネバリが優占し、ミヤマザクラをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率60%でチチブミネバリが優占し、ウリハダカエデ・トウゴクミツバツツジ・ミヤマザクラなどをとめない、第2低木層は植被率25%でホツツジ・アイズシモツケ・シモツケ・ミヤマガマズミ・ナガバノコウヤボウキ・チチブヤナギなどをともなう。草本層は植被率60%でヒメカンスゲ・イヌヨモギ・キヌタソウ・タガネソウ・マイヅルソウなどがみられる。小鹿野町の群落では亜高木層は高さ5.5m、植被率25%でチチブミネバリが優占している。第1低木層は高さ3.3m、植被率70%でチチブミネバリが優占し、マルバアオダモ・ダンコウバイ・チチブヤナギ・クマシデ・リョウブ・ヤマウルシなどをとめない、第2低木層は植被率40%でヤマツツジ・ナガバノコウヤボウキ・ウリハダカエデ・キハギ・チチブミネバリ・チチブヤナギなどをともなう。草本層は植被率80%でウラハグサが優占し、キヌタソウ・ヒメカンスゲ・ハコネギク・シオガマギク・リュウノウギクなどがみられる。

【特記事項】 石灰岩地帯に発達する森林のなかでは基盤条件を最もよく反映している。林床にシカやクライミングの影響が心配される群落がある。

【文献】 永野（1986）

トチノキ群落 (06038)

【県内の分布】 冷温帯に分布し、緩斜面や沢沿いの湿性の立地に見られる。

【選定基準】 D・E・I

【群落重要度】 I

【関連群集】 ヤマタイミンガサーサワグルミ群集 *Cacalia yatabei*-*Pterocaryetum rhoifoliae* (Miyawaki et al. 1979) Ohno in Miyawaki 1985; ミヤマクマワラビ-シオジ群集 *Dryopterido-Fraxinetum commemoralis* Suz.-Tok. 1949

【選定群落の件数】 4件（秩父市3、神川町1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：3件

834	神川町	矢納	城峰山のトチノキ林	S
835	秩父市	三峰	三峰神社表参道のトチノキ林	A
836	秩父市	大滝	大除沢のトチノキ林	A
837	秩父市	吉田太田部	大久保沢のトチノキ林	A

【選定群落の概要】 神川町の群落では高木層は高さ25m、植被率80%でトチノキが優占し、亜高木層は高さ10m、植被率5%でトチノキにカジカエデをともなう。低木層は高さ4m、植被率6%でアブラチャン・カジカエデが優占し、チドリノキ・ウリハダカエデをともなう。草本層は植被率80%でキンキエンゴサク・ヤマブキノソウが優占し、ヤマエンゴサク・カタクリ・ヒトリシズカ・ホソバナアマナなどをともなう。

【特記事項】 林床にシカやイノシシの影響を受けている。

ナラガシワ群落 (06041)

【**県内の分布**】 暖温帯から中間温帯に分布し、川ぞいの平地や斜面に稀に見られる。

【**選定基準**】 B・C・D・G・H

【**群落重要度**】 I

【**関連群集**】 ムクノキ-エノキ群集 *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

【**選定群落の件数**】 2件（秩父市、毛呂山町）

【**選定群落の評価**】 S：1件、A：1件

838	秩父市	別所	別所のナラガシワ林	S
839	毛呂山町	平山	毛呂川沿いのナラガシワ林	A

【**選定群落の概要**】 秩父市の群落では高木層は高さ18m、植被率90%でナラガシワ・ケヤキが優占し、ハルニレ・オニグルミをともなう。亜高木層は高さ9m、植被率40%でイタヤカエデが優占し、ミズキ・シュロなどをともなう。低木層は高さ1.5m、植被率20%でアオキ・シュロなどからなる。草本層は植被率30%でミズヒキ・イヌタデ・ヒガンバナなどからなる。

【**特記事項**】 関東平野において、縄文時代には各地にナラガシワが分布したことが遺物から分かっており、河畔林の一形態としての遺存的な群落である可能性がある。近隣都県でも、八王子市・相模原市などわずかな分布しか知られていない。近年伐採された群落があり、遷移による消滅も危惧される。

ブナ群落 (06047)

【**県内の分布**】 冷温帯域を代表する極相の一つで、山腹のやや傾斜が緩く表土の厚い斜面などに見られる。

【**選定基準**】 A・E・H

【**群落重要度**】 I

【**関連群集**】 ツクバネウツギ-ブナ群集 *Abelio-Fagetum crenatae* (Suz.-Tok. 1949) Sasaki 1970；ヤマボウシ-ブナ群集 *Corno-Fagetum crenatae* Miyawaki, Ohba et Murase 1964



【**選定群落の件数**】 27件（秩父市24、小鹿野町3、飯能市2、ときがわ町1、横瀬町1）

【**選定群落の評価**】 A：25件、B：2件

840	秩父市	大滝	荒川源流域の森林	A
841	秩父市	大滝	演習林25林班のブナ林	A
842	秩父市	大滝	長沢山のブナ林	A
843	秩父市	大滝	黒岩尾根のブナ林	A
844	秩父市	荒川日野	熊倉山のブナ林	A
845	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	A
846	小鹿野町両神小森・秩父市中津川		両神山のブナ・イヌブナ林	A
847	秩父市	浦山	大平山のブナ林	A
848	秩父市	浦山	仙元峠～棒杭ノ頭のブナ林	A
849	秩父市	大滝	お清平のブナ林	A
850	ときがわ町	大野	ぶな峠周辺のブナ・ミズナラ林	A
851	飯能市	子の権現	子の山の森林	A
852	秩父市	大滝	演習林24林班のブナ林	A
853	秩父市	大滝	演習林24林班のブナ・イヌブナ林	A
854	秩父市	中津川	大山沢のブナ林	A
855	秩父市	大滝	白泰尾根のブナ林	A
856	秩父市	大滝	柳小屋周辺のブナ林	A

857	秩父市	中津川	三国尾根のブナ林	A
858	秩父市	中津川	三国峠下のブナ林	A
859	秩父市	大滝	見返地蔵石灰岩地のブナ林	A
860	横瀬町横瀬・秩父市浦山		大持山のブナ林	A
861	小鹿野町	両神薄	天理岳のブナ・イヌブナ林	A
862	小鹿野町両神小森・秩父市大滝		梵天尾根のブナ・イヌブナ林	A
863	秩父市	大滝	水松山のブナ林	A
864	飯能市上名栗・秩父市浦山		仁田山のブナ林	A
865	秩父市	大滝	演習林 24 林班のブナ・ツガ林	B
866	秩父市	大滝	白泰山南のブナ林	B

【選定群落の概要】 秩父市の群落では高木層は高さ 14m、植被率 85% でブナが優占し、イヌブナ・ミズナラ・クマシデなどをともなう。亜高木層は高さ 5.5m、植被率 40% でサラサドウダンが優占し、クマシデ・ブナ・オオカメノキ・アズキナシ・コハウチワカエデなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3.5m、植被率 60% でオオカメノキ・トウゴクミツバツツジが優占し、ミヤマガマズミ・サラサドウダン・アラゲアオダモ・ホツツジ・アイズシモツケなどをともない、第 2 低木層は植被率 20% でトウゴクミツバツツジ・アズキナシ・ツクバネウツギ・アラゲアオダモ・ナガバノコウヤボウキ・ヒロハノヘビノボラズなどをともなう。草本層は植被率 15% でキヌタソウ・ツルデンダ・タガネソウなどがみられる。飯能市の群落では高木層は高さ 20m、植被率 90% でブナが優占し、アカシデをともなう。亜高木層は高さ 9m、植被率 80% でコハウチワカエデ・アカシデをともなう。第 1 低木層は高さ 6m、植被率 40% でアセビが優占し、モミ・ミツバツツジ・ヤマツツジ・コハウチワカエデ・ネジキなどをともない、第 2 低木層は植被率 95% でミヤコザサ・スズタケ・バイカツツジ・コハウチワカエデなどをともなう。草本層は植被率が+でオクモミジハグマ・カシワバハグマなどがみられる。

【特記事項】 かつて冷温帯に広く分布していたブナ林は各地で伐採され、その跡地は植林・二次林・ササ草原に変貌している。林床にシカの影響を受けている。

【文献】 埼玉県編 (1980・1987)、永野 (1986)、村上・宮脇 (1988)、永戸・鳥井 (1998)、鳥井・永戸 (2010)

ミズナラ群落 (06053)

【県内の分布】 冷温帯から亜寒帯に分布し、斜面上部や急傾斜地などに見られる。

【選定基準】 A・E

【群落重要度】 II

【関連群集】 ミヤコザサ - ミズナラ 群集 *Sas nipponicae-Quercetum grosseserratae* A. Yamazaki in Miyawaki 1979; クリーミズナラ 群集 *Castaneo-Quercetum crispulae* Horikawa et Sasaki 1959; フクオウソウ - ミズナラ 群集 *Plenantho acerifoliae-Quercetum crispulae* Maeda 1952

【選定群落の件数】 36 件 (秩父市 22、飯能市 6、小鹿野町 6、横瀬町 4、ときがわ町 2、東秩父村 1、小川町 1、神川町 1、長瀬町 1、本庄市 1)

【選定群落の評価】 B: 30 件、C: 6 件



867	横瀬町横瀬・飯能市上名栗		武川岳のミズナラ林	B
868	小鹿野町	両神薄	天理岳のミズナラ林	B
869	小鹿野町両神小森・秩父市大滝		梵天尾根のミズナラ林	B
870	秩父市	浦山	日向沢ノ峰～蕎麦粒山のミズナラ林	B

871	秩父市	浦山	大平山のミズナラ林	B
872	秩父市	荒川上田野	矢岳のミズナラ林	B
873	秩父市	上影森	小持山のミズナラ林	B
874	飯能市	下名栗	黒山～日向沢ノ峰一帯のミズナラ林	B
875	飯能市上名栗・秩父市浦山		有間山のミズナラ林	B
876	小鹿野町	両神小森	両神山滝前植物群落	B
877	秩父市	大滝	荒川源流域の森林	B
878	秩父市	大滝	黒岩尾根のミズナラ林	B
879	秩父市	大滝	白泰尾根のミズナラ林	B
880	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	B
881	秩父市	大滝	大除沢流域のミズナラ林	B
882	秩父市	大滝	入川流域のミズナラ林	B
883	秩父市	中津川	南天山のミズナラ林	B
884	秩父市	中津川	相原沢流域のミズナラ林	B
885	秩父市	中津川	大若沢流域のミズナラ林	B
886	秩父市	中津川	六助沢流域のミズナラ林	B
887	小鹿野町	河原沢	二子山石灰岩地の森林	B
888	小鹿野町	三山	白石山石灰岩地の森林	B
889	秩父市	大滝	妙法岳石灰岩地の森林	B
890	横瀬町芦ヶ久保・ときがわ町大野・東秩父村 白石・小川町腰越		堂平山・丸山周辺のミズナラ林	B
891	横瀬町	芦ヶ久保	二子山のミズナラ林	B
892	小川町	腰越	笠山のミズナラ林	B
893	神川町矢納・秩父市吉田石間		城峰山のミズナラ林	B
894	長瀬町	野上下郷	不動山のミズナラ林	B
895	飯能市	上名栗・南川	伊豆ヶ岳のミズナラ林	B
896	本庄市	児玉町河内	不動山のミズナラ林	B

【選定群落の概要】 ときがわ町の群落では高木層は高さ8m、植被率65%でミズナラが優占し、コナラ・ハクウンボク・カスミザクラなどをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率90%でリョウブが優占し、ネジキ・ハクウンボク・ミズナラ・カスミザクラなどをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率50%でアセビが優占し、アブラツツジ・ミツバツツジ・リョウブ・ネジキなどをともない、第2低木層は植被率30%でアズマネザサ・アセビ・アブラツツジ・ミツバツツジ・ヤマツツジ・ガマズミ・クロモジなどをともなう。草本層は植被率40%でミゾシダ・ヒカゲスゲなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ12m、植被率35%でミズナラが優占し、ツガ・イタヤカエデなどをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率60%でミズナラが優占し、クマシデ・ダンコウバイ・ツリバナ・アオハダ・リョウブなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率35%でミズナラ・サラサドウダン・ヤマボウシ・ダンコウバイ・アセビなどをともない、第2低木層は植被率20%でミツバツツジ・バイカツツジ・アセビ・ナガバノコウヤボウキ・ヒナウチワカエデ・ミズナラなどをともなう。草本層は植被率15%でチゴユリ・ウラハグサ・キヌタソウ・タガネソウなどがみられる。

【特記事項】 林床にシカの影響を受けている。

【文献】 永野（1986）、埼玉県編（1987）、牧野・金子・他（2003）

ヤエガワカンバ群落 (06056)

【県内の分布】 冷温帯下部に局所的に分布する。地すべりの跡地などに見られる。

【選定基準】 B・C・D・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 ハシバミ - ヤエガワカンバ群集 *Corylo heterophyllae thunbergii*-*Betuletum*

davuricae Hoshi 2000

【選定群落の件数】 5件（秩父市2、横瀬町1、飯能市1、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：2件、B：2件

903	秩父市	山田	旧野外活動センターのヤエガワカンバ林	S
904	横瀬町	芦ヶ久保	丸山のヤエガワカンバ林	A
905	飯能市	上名栗	蕨山のヤエガワカンバ林	A
906	小鹿野町	河原沢	両神山東岳のヤエガワカンバ林	B
907	秩父市	大滝	三国尾根のヤエガワカンバ林	B

【選定群落の概要】 横瀬町の群落では高木層は高さ12m、植被率80%でヤエガワカンバが優占し、クリ・コナラなどをともなう。亜高木層は高さ9m、植被率35%でエゴノキが優占し、ヤエガワカンバ・コナラなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率15%でエゴノキ・ヤマコウバシをともない、第2低木層は植被率23%でコゴメウツギ・ヤマコウバシ・コナラ・カマツカ・ウワミズザクラ・クロモジ・ガマズミなどをともなう。草本層は植被率6%で、コブナグサ・チゴユリなどがみられる。

【特記事項】 地すべり地などに成立した先駆的な群落と考えられ、遷移による消滅が危惧される。

オノオレカンバ群落（一）

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯に隔離的に分布する。チャートなどの岩角地に見られる。

【選定基準】 B・D・H

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（神川町2、秩父市1）

【選定群落の評価】 B：2件

908	秩父市吉田石間・神川町矢納	城峰山天狗岩のオノオレカンバ群落	B
909	神川町 渡瀬	御嶽山のオノオレカンバ群落	B

【選定群落の概要】 秩父市の群落では高木層は高さ12m、オノオレカンバ・コナラが優占し、ヤシャブシ・リョウブ・アオハダ・タカノツメ・アセビなどをともなう。

【文献】 小川（2022）

河畔林（07）・溪流辺低木林（08）・沼沢林（09）



アカメヤナギ群落（一）

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布する。池沼や湿地、河川敷などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 ジャヤナギーアカメヤナギ群集 *Salicetum eriocarpo-chaenomeloidis* Okuda 1978

【選定群落の件数】 3件（川島町2、上尾市1）

【選定群落の評価】 C：3件

910	上尾市	平方	三ツ又沼のアカメヤナギ林	C
911	川島町	芝沼	荒川ビオトープのアカメヤナギ林	C
912	川島町	芝沼	市野川のアカメヤナギ林	C

【選定群落の概要】 この群落は主に荒川の中流域から下流域に発達する。低木層は植被率60%～90%で、アカメヤナギが優占し、ノイバラ・カワヤナギ・タチヤナギ・オノエヤナギなどをともなう。草本層はウシハコベ・スギナ・ヒナタイノコヅチ・オオアレチノギク・カワラニンジンなどがみられる。

【文献】 内藤（1979）、永野（1986）

イヌコリヤナギ群落 (07001)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 イヌコリヤナギ群集 *Salicetum integræ* Miyawaki et Okuda 1972

【選定群落の件数】 0件（今回の調査で具体的な群落の報告はないが、暖温帯域を中心に広く分布する。「ヤナギ類（未同定）群落」参照。）

【群落の概要】 荒川では上流から中流域にかけ広く分布する。低木層は良く発達しており植被率は70～80%、イヌコリヤナギが優占するが、林分によってはノイバラとテリハノイバラが高い被度を示す。草本層はスギナ・ヨモギ・ヤブジラミ・イヌドクサ・カキドオシ・ヘビイチゴなどがみられる。

【文献】 内藤（1979）、埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

カワヤナギ群落（一）

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 ジャヤナギーアカメヤナギ群集 *Salicetum eriocarpo-chaenomeloidis* Okuda 1978

【選定群落の件数】 0件（今回の調査で具体的な群落の報告はないが、暖温帯域を中心に広く分布する。「ヤナギ類（未同定）群落」参照。）

【群落の概要】 荒川では下流域で良く発達する。低木層はカワヤナギが優占し、ノイバラ・ムクノキ・イヌコリヤナギなどをともない、草本層は全般的に良く発達しており、オギ・スギナ・ヨシ・ヤワラスゲ・ネズミムギ・ヤブジラミなどがみられる。

【文献】 内藤（1979）、永野（1986）

タチヤナギ群落 (07009)

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 タチヤナギ群集 *Salicetum subfragilis* Okuda 1978

【選定群落の件数】 0件（今回の調査で具体的な群落の報告はないが、暖温帯域を中心に広く分布する。「ヤナギ類（未同定）群落」参照。）

【群落の概要】 荒川では中流から下流域で良く発達する。低木層はタチヤナギが圧倒的に優占し、オノエヤナギ・イヌコリヤナギ・ノイバラなどをともない、カワヤナギとアカメヤナギは局所的に優占する。草本層はアメリカセンダングサの出現度が高く、ヨシ・ヒナタイノコヅチ・ヤブジ

ラミ・スギナ・ツユクサなどがみられる。

【文献】内藤（1979）、埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

ネコヤナギ群落 (07012)

【県内の分布】暖温帯から冷温帯に分布する。池沼や湿地、河川敷、溪谷などに成立する。

【選定基準】D・E

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】ネコヤナギ群集 *Salicetum gracilistylae* Minamikawa 1963

【選定群落の件数】2件（神川町1、長瀬町1、皆野町1）

【選定群落の評価】C：2件

913	神川町	矢納	三波石峡の溪畔岩上植物群落	C
914	長瀬町長瀬・井戸、皆野町下田野		長瀬の溪畔岩上植物群落	C

【選定群落の概要】荒川や神流川などの川沿いでみられる。ネコヤナギ1種が優占する群落で、他のヤナギ類や低木類はほとんど混生することがない。草本層はヨモギ・ヤブカンゾウ・ナルコスゲ・クサヨシ・イヌムギなどがみられる。

【文献】埼玉県編（1987）

ヤナギ類（未同定）群落（一）

【県内の分布】暖温帯域の荒川、利根川などの河川敷には、アカメヤナギ、イヌコリヤナギ、カワヤナギ、タチヤナギなど様々なヤナギ類からなる群落が成立する。流路変遷や遷移により群落の変化も激しいことから、樹種の特定までは行わず、ヤナギ類（未同定）低木林として大まかな分布の把握を行った。

【選定基準】D

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】18件（さいたま市6、

川越市3、越谷市3、八潮市2、東松山市1、加須市1、朝霞市1、富士見市1、熊谷市1、行田市1、草加市1、和光市1、戸田市1、幸手市1、上尾市1、桶川市1、北本市1、鴻巣市1、三郷市1、吉川市1、松伏町1）

【選定群落の評価】C：18件

915	さいたま市	桜区下大久保	荒川沿いの河畔林	C
916	戸田市内谷・さいたま市西区堤外・和光市下新倉ほか		彩湖周辺のヤナギ類低木林	C
917	三郷市新和・吉川市八子新田・松伏町築比地・幸手市花島ほか		江戸川沿いのヤナギ類低木林	C
918	上尾市平方・桶川市川田谷・北本市荒井・鴻巣市原馬室ほか		荒川沿いのヤナギ類低木林	C
919	川越市	福田・菅間・下老袋ほか	入間川沿いの河畔林	C
920	草加市柿木町・越谷市東町・八潮市南川崎ほか		中川沿いの河畔林	C
921	東松山市	早俣～田木	越辺川の河畔林	C
922	さいたま市	見沼区春野	深作川遊水地のヤナギ類低木林	C
923	さいたま市	西区三橋	鴨川第一調節池のヤナギ類低木林	C
924	さいたま市	大宮区天沼町	合併記念見沼公園のヤナギ類低木林	C
925	越谷市	西新井	県民健康福祉村のヤナギ類低木林	C
926	越谷市	東越谷	瓦曾根堰のヤナギ類低木林	C
927	加須市	柏戸	渡良瀬遊水地のヤナギ類低木林	C
928	熊谷市妻沼・大野・葛和田・行田市酒巻ほか		利根川河川敷のヤナギ類低木林	C
929	川越市	古谷上・古谷本郷	江遠島緑地の河畔林	C

930	朝霞市	下内間木	朝霞調節池のヤナギ類低木林	C
931	八潮市	大曽根	大曽根ビオトープのヤナギ類低木林	C
932	富士見市東大久保・川越市萱沼・さいたま市西区湯木町ほか		びん沼の河畔林	C

ユキヤナギ群落 (一)

【**県内の分布**】 暖温帯から中間温帯に分布する。河川中流域の冠水の影響を受ける岩場に成立する。

【**選定基準**】 B・C・D・E・G・H

【**群落重要度**】 I

【**関連群集**】 ユキヤナギ群集 *Spiraeetum thunbergii*

Ya. Sasaki & Oota 1986

【**選定群落の件数**】 6件（長瀬町1、皆野町1、小川町1、嵐山町1、ときがわ町1、寄居町1、神川町1、深谷市1、飯能市1）

【**選定群落の評価**】 A：2件、B：4件

933	長瀬町長瀬・井戸、皆野町下田野		長瀬の溪畔岩上植物群落	A
934	小川町下里・嵐山町遠山・鎌形・ときがわ町田黒		嵐山溪谷のユキヤナギ群落	A
935	寄居町末野・藤田・折原・鉢形		玉淀のユキヤナギ群落	B
936	神川町	矢納	三波石峡の溪畔岩上植物群落	B
937	深谷市	荒川	越畑凝灰岩露頭のユキヤナギ群落	B
938	飯能市	飯能・大河原	吾妻峡のユキヤナギ群落	B

ハンノキ群落 (09004)

【**県内の分布**】 暖温帯に分布する。池沼や湿地、河川敷、休耕田などに成立する。

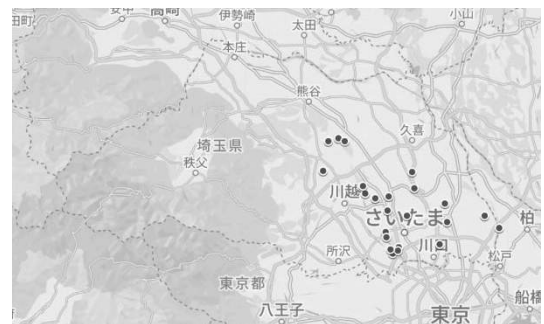
【**選定基準**】 D・E・H・I

【**群落重要度**】 I

【**関連群集**】 ゴマギーハンノキ群集 *Viburno sieboldii-Alnetum japonicae* Okuba 1978；オニスゲーハンノキ群集 *Carici dickinsii-Alnetum japonicae* Okuda 1978

【**選定群落の件数**】 11件（さいたま市7、戸田市3、川島町2、吉見町2、吉川市2、朝霞市2、越谷市2、東松山市1、鴻巣市1、上尾市1、川口市1、蓮田市1）

【**選定群落の評価**】 B：1件、C：10件



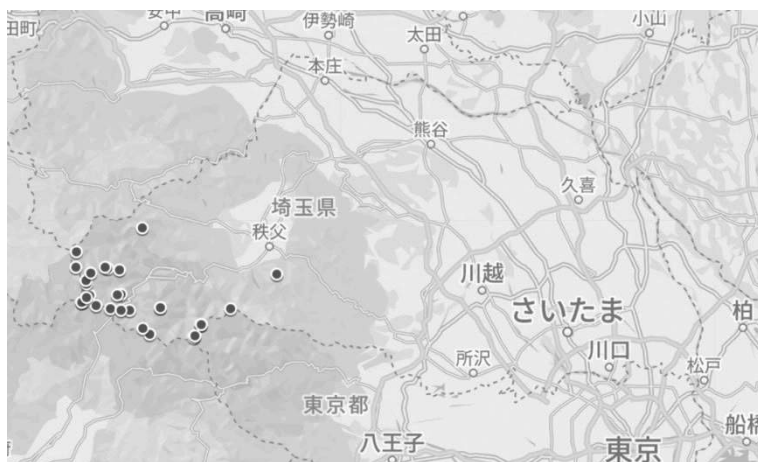
939	さいたま市	桜区下大久保ほか	秋ヶ瀬公園のハンノキ林	B
-----	-------	----------	-------------	---

【**選定群落の概要**】 さいたま市の群落では高木層は高さ15m、植被率70%でハンノキが優占している。亜高木層は出現せず、第1低木層は高さ2m、植被率8%でノイバラ・エノキ・イボタノキ・ゴマギなどをとめない、第2低木層は植被率5%でゴマギ・ノイバラ・エノキ・ムクノキ・イボタノキなどをとみなう。草本層は植被率100%でヤワラスゲ・ドクダミ・ツユクサ・ヒナタイノコズチ・カモジグサなどがみられる。

【**特記事項**】 河川敷の公園化など、人の利用の高まりとともに林床の攪乱や伐採による消滅が心配される。

【**文献**】 埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

亜高山針葉高木林 (11)



オオシラビソ群落 (11003)

【県内の分布】 標高約 2,000m 以上の亜寒帯（亜高山帯）上部に分布し、長野・山梨・東京との県境尾根に沿ってベルト状に成立している。

【選定基準】 A・E

【群落重要度】 I

【関連群集】 シラビソ-オオシラビソ群集

Abietetum veitchio-mariesii Maeda 1958

【選定群落の件数】 4 件（秩父市）

【選定群落の評価】 A：1 件、B：3 件



963	秩父市	大滝	木賊山・甲武信岳・三宝山の原生林	A
964	秩父市	大滝	雲取山のシラビソ・オオシラビソ林	B
965	秩父市	大滝	和名倉山のシラビソ・オオシラビソ林	B
966	秩父市	大滝	芋ノ木ドッケのシラビソ・オオシラビソ林	B

【選定群落の概要】 この群落の高木層は高さ 10m、植被率 95% でオオシラビソ・シラビソが優占し、ダケカンバ・トウヒなどをともなう。亜高木層は高さ 5m、植被率 15% でナナカマドが出現する。第 1 低木層は出現せず、第 2 低木層は植被率が+で、わずかにウスノキが出現する。草本層は植被率 1% でコミヤマカタバミ・タケシマラン・バイカオウレン・シラネワラビ・キバナノコマノツメなどがみられる。コケ層は植被率 100% でタチハイゴケが優占し、イワダレゴケ・カモジゴケ・セイタカスギゴケなどをともなう。

【特記事項】 秩父山地ではシラビソとオオシラビソが強く結びついてシラビソ-オオシラビソ林を形成する。高標高域ではオオシラビソが、低標高域ではシラビソの密度が高い。三宝山南面や破風山に発達するオオシラビソ優占林では、縮枯れ現象が認められる。

【文献】 前田・島崎 (1951)、埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

カラマツ群落 (11004)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。岩場や尾根などに成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 7 件（秩父市 7、横瀬町 1）

【選定群落の評価】 B：2 件、C：5 件

967	秩父市	大滝	黒岩尾根のカラマツ林	B
968	秩父市	大滝	真の沢のカラマツ林	B
969	秩父市	大滝	赤沢岳石灰岩地のカラマツ林	C
970	秩父市	大滝	牛王院平のカラマツ林	C
971	秩父市	大滝	大山のカラマツ林	C
972	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	C
973	秩父市	中津川	梓白岩石灰岩地のカラマツ林	C

【選定群落の概要】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 24.5m、植被率 60%でカラマツが優占し、コメツガをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 20%でコメツガが出現している。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 10%でコメツガ・サビバナナカマド・コヨウラクツツジなどをとめない、第 2 低木層は植被率 15%でコメツガ・サビバナナカマド・コヨウラクツツジ・ミネカエデなどをとまなう。草本層は植被率 3%でマイヅルソウ・コミヤマカタバミ・シラネワラビなどがみられる。コケ層は植被率 75%でイワダレゴケが優占し、タチハイゴケをともなう。

【文献】 埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

コメツガ群落 (11005)

【県内の分布】 亜寒帯 (亜高山帯) 下部に分布する。標高 1,600 ~ 2,000m の山腹や尾根筋に広く発達しており、尾根筋では 2,300m 付近まで上る。

【選定基準】 A・D・E・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 マイヅルソウ-コメツガ群集 *Maiantho-Tsugetum diversifoliae* Suz.-Tok. 1949 em. Nakamura 1986

【選定群落の件数】 16 件 (秩父市 16、小鹿野町 1)

【選定群落の評価】 A : 10 件、B : 6 件



974	秩父市	大滝	木賊山・甲武信岳・三宝山の原生林	A
975	秩父市	大滝	古礼山・唐松尾山・大洞山の原生林	A
976	秩父市	中津川	十文字峠のコメツガ林	A
977	小鹿野町両神薄・秩父市大滝		両神山の亜高山性植物群落	A
978	秩父市	大滝	破風山のコメツガ群落	A
979	秩父市	大滝	突出尾根のコメツガ林	A
980	秩父市	大滝	雲取山のコメツガ林	A
981	秩父市	大滝	雁坂峠のコメツガ林	A
982	秩父市	大滝	黒岩尾根のコメツガ林	A
983	秩父市	大滝・中津川	赤沢岳石灰岩地のコメツガ林	A
984	秩父市	大滝	白泰山のコメツガ林	B
985	秩父市	大滝	西谷山のコメツガ林	B
986	秩父市	大滝	演習林 22 林班のコメツガ林	B
987	秩父市	中津川	三国山のコメツガ林	B
988	秩父市	大滝	芋ノ木ドッケ石灰岩地のコメツガ林	B
989	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のコメツガ林	B

【選定群落の概要】 小鹿野町の群落では高木層は高さ 22m、植被率 92%でコメツガが優占し、ヒノキをともなう。亜高木層は高さ 11m、植被率 35%でコメツガが優占し、ベニサラサドウダンをともなう。第 1 低木層は高さ 6m、植被率 53%でアカヤシオ・ベニサラサドウダンが優占し、アセビ・リョウブ・オオカメノキなどをとめない、第 2 低木層は植被率 72%でトウゴクミツバ

ツツジ・コヨウラクツツジ・コメツガ・ミネカエデ・タカノツメなどをともなう。草本層は植被率 15%でマイヅルソウが優占し、ツクバネソウ・ツバメオモト・イワセントウソウ・ユキザサなどがみられる。コケ層は植被率 95%でイワダレゴケが優占し、チシマシッポゴケをともなう。秩父市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 70%でコメツガが優占し、トウヒをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 25%でシラビソが出現する。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 20%でシラビソが優占し、オオシラビソ・トウヒなどをともない、第 2 低木層は植被率 45%でコヨウラクツツジ・サビバナナカマド・シラビソ・ミネカエデなどをともなう。草本層は植被率 80%でシラネワビが優占し、マイヅルソウ・ミヤマカタバミ・ゴゼンタチバナ・カニコウモリなどがみられる。コケ層は植被率 70%でフジノマンネングサが優占し、セイタカスギゴケなどをともなう。

【特記事項】 コメツガ林の林床型はイワダレゴケ・タチハイゴケを優占種とするコケ型、シノブカグマ・シラネワラビ・ミヤマシダに代表されるシダ型、ミヤコザサやスズタケによって被覆されたササ型、329 および林床群落を欠いた裸地型の 4 つの林床型に類型化される。

【文献】 永野・永戸 (1971)、永野・栗原・他 (1977)、埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

シラビソ群落 (11006)

【県内の分布】 標高 2,000m 以上の亜寒帯 (亜高山帯) 上部に分布し、長野・山梨・東京との県境尾根に沿ってベルト状に成立している。

【選定基準】 A・E

【群落重要度】 I

【関連群集】 シラビソ-オオシラビソ群集 *Abietetum veitchio-mariesii* Maeda 1958

【選定群落の件数】 4 件 (秩父市 4)

【選定群落の評価】 A: 1 件、B: 3 件

990	秩父市	大滝	木賊山・甲武信岳・三宝山の原生林	A
991	秩父市	大滝	芋ノ木ドッケのシラビソ・オオシラビソ林	B
992	秩父市	大滝	雲取山のシラビソ・オオシラビソ林	B
993	秩父市	大滝	和名倉山のシラビソ・オオシラビソ林	B

【選定群落の概要】 秩父市大滝の群落では高木層は高さ 22m、植被率 80%でシラビソが優占し、ヨグソミネバリ・トウヒなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 30%でコメツガ・ヨグソミネバリ・ダケカンバ・シラビソをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 40%でシラビソ・コメツガ・コヨウラクツツジをともない、第 2 低木層は植被率 20%でコメツガ・コヨウラクツツジ・シラビソ・アズマシャクナゲなどをともなう。草本層は出現せず、コケ層は植被率 70%でイワダレゴケが優占し、タチハイゴケ・エゾチョウチンゴケなどをともなう。

【特記事項】 秩父山地ではシラビソとオオシラビソが強く結びついてシラビソ-オオシラビソ林を形成する。高標高域ではオオシラビソが、低標高域ではシラビソの密度が高い。

【文献】 前田・島崎 (1951)、埼玉県編 (1980)、永野 (1986)

トウヒ群落 (11007)

【県内の分布】 亜寒帯 (亜高山帯) に分布する。岩礫地などに成立する。

【選定基準】 A

【群落重要度】 I

【関連群集】 マイヅルソウ-コメツガ群集 *Maiantho-Tsugetum diversifoliae* Suz.-Tok. 1949 em. Nakamura 1986

【選定群落の件数】 0 件 (植物群落レッドデータ・ブック (1996) に雁坂峠のトウヒ林が掲載されているが、具体的な場所が不明で現状を確認できなかった。)

温帯性先駆木本群落 (12)・暖地性先駆木本群落 (13)



フサザクラ群落 (12013)

【県内の分布】 暖温帯から冷温帯にかけて分布する。分布域の中心は冷温帯で、中間温帯から暖温帯に下降するにつれて減少する。土地条件に対する適応性が強く、渓谷の湿性立地に限らず北向き斜面、石灰岩地域、伐採跡地などにもみられる。

【選定基準】 D

【群落重要度】 Ⅲ

【関連群集】 タマアジサイ－フサザクラ群集 *Hydrangeo involucratae-Eupteleetum polyandrae* Miyawaki, Ohba et Murase 1964

【選定群落の件数】 13 件（小鹿野町 4、秩父市 4、横瀬町 2、飯能市 2、神川町 1、東秩父村 1）

【選定群落の評価】 C：13 件

994	小鹿野町	河原沢	二子山石灰岩地の森林	C
995	小鹿野町	三山	白石山石灰岩地の森林	C
996	小鹿野町	藤倉	藤倉川源流のフサザクラ群落	C
997	小鹿野町	両神小森	両神山滝前植物群落	C
998	秩父市	浦山	細久保谷のフサザクラ群落	C
999	秩父市	中津川	中双里の森林	C
1000	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	C
1001	横瀬町	横瀬	生川のフサザクラ林	C
1002	神川町	矢納	城峰山のフサザクラ群落	C
1003	秩父市	吉田太田部	大久保沢のフサザクラ群落	C
1004	東秩父村	白石	白石峠下のフサザクラ群落	C
1005	飯能市	下名栗	有間川のフサザクラ群落	C
1006	飯能市	中津川	秩父鉾山周辺のフサザクラ群落	C

【選定群落の概要】 小鹿野町の群落では高木層は高さ 12m、植被率 90% でフサザクラが優占し、ミズキをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 60% でフサザクラが優占し、サワシバ・ミズキ・イヌブナなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 40% でオオモミジが優占し、サワシバ・フサザクラ・リョウブ・イヌブナなどをとめない、第 2 低木層は植被率 5% でヤマアジサイ・ナガバノコウヤボウキ・バイカウツギ・ヤマシバカエデ・サワシバなどをともなう。草本層は植被率が 85% でミヤマクマワラビ・オウレンシダ・アカショウマ・オオバショウマ・ヌリワラビなどがみられる。

【文献】 永野・大垣 (1975)、永野・永戸・他 (1975)、永野・加藤・他 (1978)、永野 (1986)

エノキ群落 (13006)

【県内の分布】 暖温帯に分布する。河川沿いのやや安定した場所に、ケヤキ、ムクノキ、クヌギ、アカメガシワなどとともに関河川沿岸林として成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 ムクノキ-エノキ群集 *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

【選定群落の件数】 19件（川越市3、吉見町2、鴻巣市2、東松山市2、八潮市2、川島町1、熊谷市1、戸田市1、上尾市1、上里町1、本庄市1、加須市1、久喜市1、越谷市1）

【選定群落の評価】 C：19件



1007	川島町	出丸中郷	太郎衛門地区のエノキ林	C
1008	吉見町	大串・荒子・前河内	市野川沿いのエノキ林	C
1009	吉見町	本沢	総合運動公園北のエノキ林	C
1010	熊谷市	広瀬	荒川大麻生公園のエノキ・ムクノキ・ケヤキ林	C
1011	戸田市	重瀬ほか	彩湖周辺のエノキ・ムクノキ林	C
1012	鴻巣市	小谷	荒川河川敷のエノキ林	C
1013	上尾市	瓦葺	綾瀬川沿いのエノキ林	C
1014	上里町	忍保	烏川河川敷のエノキ林	C
1015	川越市	古谷上・古谷本郷	江遠島緑地の河畔林	C
1016	川越市	朝比奈新田・的場	朝比奈親水公園周辺河畔林	C
1017	川越市	福田・菅間・下老袋ほか	入間川沿いの河畔林	C
1018	東松山市	下青鳥・神戸	都幾川の河畔林	C
1019	東松山市	早俣～田木	越辺川の河畔林	C
1020	八潮市八條・越谷市東町ほか		中川沿いの河畔林	C
1021	本庄市	西五十子・東五十子	小山川沿いの河畔林	C
1022	加須市	小野袋	谷田川の河畔林	C
1023	久喜市	狐塚	狐塚のエノキ林	C
1024	鴻巣市	糠田	明秋川筋のエノキ林	C
1025	八潮市	二丁目	水辺の楽校のエノキ林	C

カラスザンショウ群落 (13009)

【県内の分布】 暖温帯に分布する。攪乱の跡地などに成立する。

【選定基準】 D・H

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 1件（越生町1）

【選定群落の評価】 C：1件

1026	越生町	龍ヶ谷	梅本のカラスザンショウ群落	C
------	-----	-----	---------------	---

【選定群落の概要】 中津川流域から報告された群落では、高木層は高さ22m、植被率80%でカラスザンショウが優占し、サワグルミをともなう。亜高木層は高さ10m、植被率70%でサワシバが優占し、ウワミズザクラ・アカメガシワ・ウラゲエンコウカエデ・カラスザンショウ・ヤマシバカエデなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率50%でサワシバが優占し、ヤマツツジ・アワブキ・アオハダ・ツリバナ・アカメガシワなどをともない、第2低木層は植被率15%でヤマブキ・ムラサキシキブ・アオダモ・メグスリノキなどをともなう。草本層は植被率5%でチゴユリ・チヂミザサ・カシワバハグマ・ヤブレガサ・ヤマユリなどがみられる。

【文献】 永野・永戸・他 (1975)

ムクノキ群落 (13017)

【県内の分布】 暖温帯に分布する。ケヤキ・シラカシ・エノキなどとともに、斜面林や河畔林を形成し、時に優占することもある。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【関連群集】 ムクノキ-エノキ群集 *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

【選定群落の件数】 9件（さいたま市2、八潮市2、和光市1、志木市1、入間市1、久喜市1、朝霞市1）

【選定群落の評価】 B：4件、C：5件

1027	和光市	白子	大坂ふれあいの森のムクノキ林	B
1028	さいたま市	桜区道場	秋ヶ瀬公園こどもの森のムクノキ・エノキ林	B
1029	志木市	本町	新河岸川斜面林	B
1030	入間市	宮寺	風の森聖地周辺の斜面林	B
1031	さいたま市	見沼区南中野	十王尊のムクノキ・シラカシ林	C
1032	久喜市	鷲宮	鷲宮神社の社叢	C
1033	朝霞市	膝折町	子の神氷川神社のムクノキ林	C
1034	八潮市	大曾根	大曾根八幡神社のムクノキ林	C
1035	八潮市	八條	八条親水公園のムクノキ・シラカシ林	C

【選定群落の概要】 和光市の群落では高さ16m、植被率95%でムクノキが優占し、イヌシデ・コナラをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率10%でシラカシ・ムクノキからなる。低木層は高さ5m、植被率60%でシロダモが優占し、ムラサキシキブ・クサギ・ヤツデ・シュロ・トウネズミモチ・イロハモミジなどをともなう。草本層は植被率40%で、ベニシダ・クマザサ・ヤブミョウガ・ジャノヒゲなどからなる。

ササ草原・竹林 (14)

ミヤコザサ群落 (14020)

【県内の分布】 冷温帯から亜寒帯にかけて分布する。尾根や風衝地に成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 II

【関連群集】 シモツケ-ミヤコザサ群集 *Spiraeo japonicae-Sasetum nipponicae* Okutomi 1975

【選定群落の件数】 6件（秩父市）

【選定群落の評価】 B：6件

1036	秩父市	大滝	東仙波のミヤコザサ群落	B
1037	秩父市	大滝	雁坂峠のミヤコザサ群落	B
1038	秩父市	大滝	古礼山のミヤコザサ群落	B
1039	秩父市	大滝	雁峠のミヤコザサ群落	B
1040	秩父市	大滝	笠取山のミヤコザサ群落	B
1041	秩父市	大滝	雲取山のミヤコザサ群落	B

【選定群落の概要】 雁坂峠の群落では、草本層の高さ0.2m、植被率100%でミヤコザサが優占する。

【特記事項】 シカの影響により草丈が極めて低くカーペット状になっている。シモツケなどの広葉草本は、ミヤコザサの下などで辛うじて生存している場合がある。

岩角地・風衝低木林（16）



アカヤシオ群落（一）

【県内の分布】冷温帯に分布する。自然林の岩場などに成立する。

【選定基準】D・E・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】4件（秩父市1、小鹿野町1、神川町1、横瀬町1）

【選定群落の評価】B：1件、C：3件

1042	秩父市	中津川	中津峡・秩父槍ヶ岳のアカヤシオ群落	B
1043	小鹿野町	両神小森	両神山滝前ツツジ群落	C
1044	神川町	渡瀬	御嶽山のアカヤシオ群落	C
1045	横瀬町	芦ヶ久保	古峯神社のアカヤシオ群落	C

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

イワシモツケ群落（16015）

【県内の分布】冷温帯、亜寒帯（亜高山帯）下部に分布する。尾根や岩峰の風衝地に小集団を形成する。

【選定基準】B・C・D・G・H

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】イワシモツケ群集 *Spiraeetum nipponicae* Nagano in. Miyawaki 1986

【選定群落の件数】10件（秩父市8、小鹿野町3、横瀬町1）

【選定群落の評価】A：1件、B：5件、C：4件

1046	小鹿野町	河原沢	二子山石灰岩地の森林	A
1047	秩父市	大滝	四季萩石灰岩地のイワシモツケ群落	B
1048	秩父市中津川・小鹿野町両神小森		市町境尾根石灰岩地の植物群落	B
1049	秩父市	中津川	梓白岩石灰岩地のイワシモツケ群落	B
1050	小鹿野町	三山	白石山石灰岩地の森林	B
1051	秩父市	浦山	冠岩石灰岩地のイワシモツケ群落	B
1052	秩父市	大滝	前白岩山石灰岩地の植物群落	C
1053	秩父市	大滝	豆焼沢石灰岩地のイワシモツケ群落	C
1054	秩父市	大滝・中津川	赤沢岳石灰岩地のイワシモツケ群落	C
1055	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山石灰岩地の森林	C

【選定群落の概要】小鹿野町の群落では第2低木層は植被率70%でイワシモツケが優占し、マルバハギ・ケアオダモ・アカシデなどをともなう。草本層は植被率80%でウラハグサが優占し、

ヒメカンスゲ・ホソバヒカゲスゲ・ニッコウキスゲ・ホタルサイコ・イワギボウシ・イブキボウフウ・ウスユキソウなどがみられる。秩父市の群落では第2低木層は、植被率95%でイワシモツケが優占し、クサボタン・ヒロハヘビノボラスなどをともなう。草本層は植被率3%でイワオウギ・イブキボウフウ・ノガリヤス・イワウサギシダ・ゲンナイフウロなどがみられる。

【文献】永野・大垣・他(1976)、永野・栗原・他(1977)、永野・加藤・他(1978)、永野(1986)

ウラジロヒカゲツツジ群落(一)

【県内の分布】冷温帯に分布する。尾根の岩場に成立する。

【選定基準】B・C・D・G・H

【群落重要度】I

【選定群落の件数】2件(小鹿野町1、秩父市1)

【選定群落の評価】S:1件、A:1件

【特記事項】分布が埼玉県と栃木県に限られる。

【選定群落の概要】(詳しい報告なし)

シロヤシオ群落(16031)

【県内の分布】中間温帯から冷温帯に分布する。自然林の岩場などに成立する。

【選定基準】D・E・G

【群落重要度】II

【関連群集】ヤマツツジ-アカマツ群集 *Rhododendro-Pinetum densiflorae* Suz.-Tok. et Usui 1952

【選定群落の件数】4件(秩父市1、小鹿野町1、飯能市1、寄居町1)

【選定群落の評価】B:4件

1058	秩父市	浦山	七跳山のシロヤシオ群落	B
1059	小鹿野町	両神薄	両神山天武将尾根のシロヤシオ群落	B
1060	飯能市	上名栗	蕨山のシロヤシオ群落	B
1061	寄居町	風布	釜伏山のシロヤシオ群落	B

【選定群落の概要】(詳しい報告なし)

ハコネコメツツジ群落(16044)

【県内の分布】亜寒帯(亜高山帯)に分布する。三国峠から甲武信岳、雁坂嶺へつづく尾根や白泰山・両神山などの乾燥した風衝岩角地に小集団を形成する。

【選定基準】B・C・D・G・H

【群落重要度】II

【関連群集】オノエラン-ハコネコメツツジ群集 *Orchido-Rhododendretum tsusiophylli* Miyawaki, Ohba et Murase 1969

【選定群落の件数】7件(秩父市7、小鹿野町1)

【選定群落の評価】A:2件、B:5件

1062	秩父市	大滝	武信白岩のハコネコメツツジ群落	A
1063	秩父市中津川・小鹿野町河原沢		両神山の岩壁着生植物群落	A
1064	秩父市	中津川	赤岩尾根のハコネコメツツジ群落	B
1065	秩父市	大滝	西御殿岩のハコネコメツツジ群落	B
1066	秩父市	大滝	黒岩尾根のハコネコメツツジ群落	B
1067	秩父市	大滝	破風山のハコネコメツツジ群落	B
1068	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のハコネコメツツジ群落	B

【選定群落の概要】秩父市の群落では第2低木層はハコネコメツツジが優占し、ダケカンバ・コケモモ・ウスノキ・ネコシデなどをともなう。草本層はタカネニガナ・ヒメノガリヤス・ヒメイ

ワカガミ・タカネママコナ・ウシノケグサ・ヒメスゲなどがみられる。

【文献】永野（1986）

ヒカゲツツジ群落（一）

【県内の分布】 中間温帯から亜寒帯（亜高山帯）に分布する。尾根の岩場や沢筋などに成立する。

【選定基準】 C・D・G

【群落重要度】 II

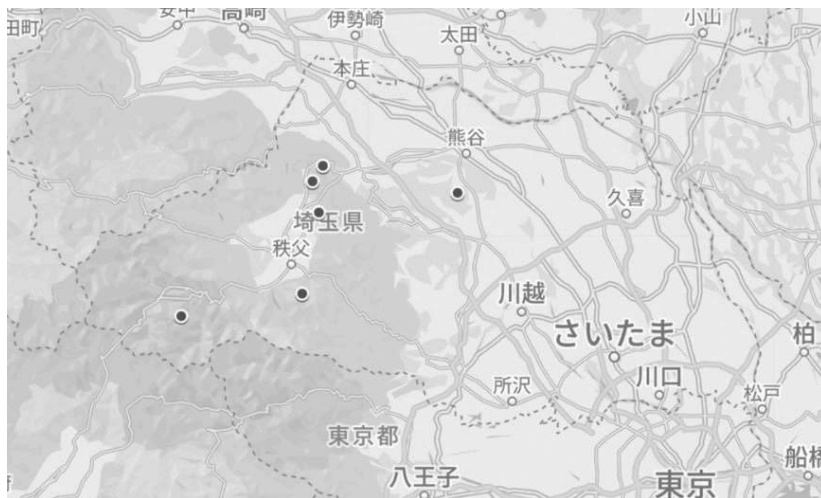
【選定群落の件数】 7件（秩父市4、小鹿野町2、東秩父村1）

【選定群落の評価】 B：6件、C：1件

1069	小鹿野町	河原沢	両神山のヒカゲツツジ群落	B
1070	秩父市	吉田阿熊	金岳のヒカゲツツジ群落	B
1071	秩父市	中津川	帳付山のヒカゲツツジ群落	B
1072	秩父市	中津川	天丸山南のヒカゲツツジ群落	B
1073	小鹿野町	般若	釜ノ沢五峰のヒカゲツツジ群落	B
1074	秩父市	荒川上田野	赤岩ノ頭のヒカゲツツジ群落	B
1075	東秩父村	皆谷	観音山のヒカゲツツジ群落	C

【選定群落の概要】 東秩父村の群落では高木層は高さ16m、植被率80%でアカマツ・ヤマザクラ・コナラ・シラカシからなり、低木層は高さ7m、植被率で50%でヒカゲツツジ・アセビ・シラカシ・アラカシ・コウヤボウキなどが生育する。

林縁性低木・つる植物群落（19）



カザグルマ群落（19008）

【県内の分布】 暖温帯から中間温帯にかけて分布する。日当たりのよい林縁に成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（長瀨町2、皆野町1、滑川町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：3件

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

トリガタハンショウヅル群落 (一)

【県内の分布】冷温帯に分布する。林縁に成立する。

【選定基準】B・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】2件（横瀬町1、秩父市1）

【選定群落の評価】B：2件

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

ミヤマハンショウヅル群落 (一)

【県内の分布】亜寒帯（亜高山帯）に分布する。林縁などに成立する。

【選定基準】B・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】0件（前版で秩父市から報告されている。群落としての現状は確認できなかった。）

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

高山・亜高山低木林 (20)・高山風衝矮性低木群落 (21)



ウダイカンバ群落 (一)

【県内の分布】亜寒帯（亜高山帯）に分布する。

【選定基準】B・D

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】3件（秩父市3、小鹿野町1）

【選定群落の評価】A：2件、B：1件

1082	小鹿野町両神薄・秩父市大滝	両神山の亜高山性植物群落	A	
1083	秩父市	大滝	バケモノ沢のウダイカンバ林	A
1084	秩父市	中津川	松尾尾根のウダイカンバ林	B

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

クロウスゴ群落 (20007)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。尾根の岩場や林縁に成立する。

【選定基準】 C・D・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 コケモモ-ハイマツ群集 *Vaccinio-Pinetum pumilae* Maeda et Shimazaki 1951

【選定群落の件数】 1件（秩父市1）

【選定群落の評価】 A：1件

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

ジゾウカンバ群落 (一)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。

【選定基準】 B・D

【群落重要度】 II

【関連群集】 シロヤシオ-ジゾウカンバ群集 *Rhododendro quinquefolium-Betuletum globispicae* S.Suzuki 1998

【選定群落の件数】 2件（秩父市2、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

1086	小鹿野町両神薄・秩父市大滝	両神山の亜高山性植物群落	A
1087	秩父市 中津川	三国山のジゾウカンバ群落	B

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

タカネバラ群落 (20009)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。石灰岩地の崖上などに成立する。

【選定基準】 B・C・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 2件（秩父市2）

【選定群落の評価】 A：2件

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

ダケカンバ群落 (20010)

【県内の分布】 冷温帯から亜寒帯（亜高山帯）に分布する。とくに亜高山針葉樹林帯の極相林崩壊地や伐採跡地などに広く発達している。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 III

【関連群集】 ダケカンバー-ミヤマキンポウゲクラス *Betulo ermanii-Ranunculetea acris japonica* Ohba 1968

【選定群落の件数】 7件（秩父市7、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 C：7件



1090	秩父市	大滝	和名倉山の森林植生	C
1091	秩父市	大滝	東仙波のダケカンバ林	C
1092	小鹿野町両神薄・秩父市大滝		両神山の亜高山性植物群落	C
1093	秩父市	大滝	将監峠のダケカンバ林	C
1094	秩父市	大滝	雁坂峠周辺のダケカンバ林	C
1095	秩父市	大滝	芋ノ木ドッケ・白岩山のダケカンバ林	C
1096	秩父市	大滝	木賊山・甲武信岳・三宝山の原生林	C

【選定群落の概要】 秩父市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 93% でダケカンバが優占している。亜高木層は高さ 7.5m、植被率 15% でサビバナナカマド・ミネザクラ・オガラバナなどをともなう。第 1 低木層は高さ 5.5m、植被率 40% でリョウブが優占し、サビバナナカマド・コメツガ・ヒロハツリバナなどをともない、第 2 低木層は植被率 100% でスズタケが優占し、コヨウラクツツジ・オオカメノキ・リョウブ・コメツガなどをともなう。草本層は植被率が+でヘビノネゴザがみられる。

【文献】 埼玉県編 (1980)、神沢 (1984)、永野 (1986)

ハイマツ群落 (20012)

【県内の分布】 県内に高山はないが、亜寒帯（亜高山帯）にわずかに分布する。尾根などの風衝地に成立する。

【選定基準】 A・B・C・D・G・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 コケモモ－ハイマツ群集 *Vaccinio-Pinetum pumilae* Maeda et Shimazaki 1951

【選定群落の件数】 1 件（秩父市 1）

【選定群落の評価】 S：1 件

【選定群落の概要】 秩父市西破風山の群落では、群落高 1.5～2.5m、植被率 80% でハイマツが優占し、コメツガ・クロベ・アズマシャクナゲなどを伴う。草本層には数種のコケがみられる。



ミヤマビャクシン群落 (20019)

【県内の分布】 本来は海岸や高山の岩場に多いが、県内では冷温帯域の石灰岩地の岩場に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1 件（秩父市 1）

【選定群落の評価】 A：1 件

1099	秩父市	大滝	豆焼沢石灰岩地のミヤマビャクシン群落	A
------	-----	----	--------------------	---

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

ガンコウラン群落 (21004)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。岩塊地に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 コケモモ－ハイマツ群集 *Vaccinio-Pinetum pumilae* Maeda et Shimazaki 1951

【選定群落の件数】 2 件（秩父市 2）

【選定群落の評価】 A：2 件

【選定群落の概要】（詳しい報告なし）

コケモモ群落 (21006)

【県内の分布】 亜寒帯（亜高山帯）に分布する。尾根の岩場や林縁に成立する。

【選定基準】 C・D・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 コケモモ－ハイマツ群集 *Vaccinio-Pinetum pumilae* Maeda et Shimazaki 1951

【選定群落の件数】 3件（秩父市3）

【選定群落の評価】 A：3件

【選定群落の概要】 甲武信ヶ岳の群落では高さ0.15m、植被率30%でハコネコメツツジ・コケモモ・ヒメシヤジン・ヒメノガリヤス・キンプヒゴタイ・タカネニガナなどが生育する。

② 草本群落

埼玉県において保護上重要な草本群落として、重要度Ⅰが39群落、重要度Ⅱが72群落、重要度Ⅲが27群落、消滅が15群落、合計153群落が記録された。

今回のレッドデータブックによるカテゴリで絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類となった種が含まれる群落については、保全の観点から、詳細は非掲載とした。

亜高山高茎草原 (25)



アヤメ群落 (25001)

【県内の分布】 低山から亜高山に分布。やや乾燥した明るい草地に成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 Ⅱ

【選定群落の件数】 5件（秩父市3、寄居町1、長瀬町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：4件

【特記事項】 秩父山地の群落では、シカの食害を受けている可能性がある。遷移により減少や、採取の被害も心配される。秩父市の群落2件は国立公園特別地域、長瀬町の群落は国名勝・天然記念物「長瀬」指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。

モミジカラマツ群落 (25024)

【県内の分布】 亜高山に分布。やや湿った草地に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 Ⅱ

【選定群落の件数】 2件（秩父市）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 シカの食害を受けている可能性がある。秩父市の群落1件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域に位置する。

山地高茎草原 (26)



カワラナデシコ群落 (26010)

【県内の分布】丘陵から亜高山に分布。明るい草地に成立する。

【選定基準】D・E・I

【群落重要度】I

【選定群落の件数】4件（秩父市3、ときがわ町1）

【選定群落の評価】A：4件

【特記事項】シカの食害を受けている可能性がある。採取の被害も心配される。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、2件は国立公園特別地域に位置する。カワラナデシコの分布域は低地から亜高山まで広いが、丘陵～低山の二次草地にかつて成立した本群落はほとんど見られなくなった。河川敷などのカワラナデシコ群落は、「河川礫原草本群落 (45)」の中に取り上げた。

サンリンソウ群落 (一)

【県内の分布】亜高山に分布。林縁や明るい林内などに成立する。

【選定基準】B・D・G

【群落重要度】II

【選定群落の件数】2件（秩父市）

【選定群落の評価】A：1件、B：1件

【特記事項】シカの食害を受けている可能性がある。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、1件は国立公園特別地域に位置する。

マツムシソウ群落 (26021)

【県内の分布】山地に分布。やや乾燥した明るい草地に成立する。

【選定基準】D・E・G・I

【群落重要度】II

【選定群落の件数】3件（横瀬町2、秩父市1）

【選定群落の評価】S：1件、A：1件、B：1件

【特記事項】シカの食害を受けている可能性がある。遷移により減少や、採取の被害も心配される。秩父市の群落は国立公園特別地域に位置する。

ムラサキセンブリ群落 (26024)

【県内の分布】消滅。低地から丘陵に分布し、日当たりのよい草地に成立した。

【選定群落の件数】0件

【特記事項】草地管理の変化や遷移などにより減少し、消滅したと考えられる。

ヤナギラン群落 (26025)

【県内の分布】 ウスゲヤナギランが亜高山に分布。やや湿った草地に成立する。

【選定基準】 B・D・E・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 ヨツバヒヨドリ－ヤナギラン群集 *Eupatorio-Epilobietum angustifolii* Murakami 1985

【選定群落の件数】 2件（秩父市）

【選定群落の評価】 S：2件

【特記事項】 過去には三国尾根、雲取山、和名倉山など広く分布した記録がある。シカによる食害などにより減少したと考えられる。わずかに山小屋周辺で保護されている。秩父市の群落2件は国立公園特別保護地区に位置する。

レンゲショウマ群落 (26030)

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。やや湿った明るい林床などに成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 8件（横瀬町3、神川町1、秩父市3、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 A：4件、B：4件

【特記事項】 シカの食害を受けている可能性がある。遷移により減少や、採取の被害も心配される。秩父市の群落3件は国立公園特別地域、小鹿野町の群落は自然環境保全地域特別地区に位置する。

高層湿原 (27)

ヤチスギラン群落 (27015)

【県内の分布】 消滅。亜高山の湿地にかつて成立した可能性がある。

【関連群集】 キダチミズゴケ－ヤチカワズスゲ群集 *Carici omiana-Sphagnetum compacti* Miyawaki, Itow et Okuda 1967

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 県立自然の博物館に雲取山産のヤチスギラン標本が残されている。

中間湿原 (30)



クリンソウ群落 (一)

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。湿った沢沿いや湿地に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件 (秩父市)

【選定群落の評価】 A：3件

【特記事項】 採取される恐れがある。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、2件は国立公園普通地域に位置する。

トキソウ群落 (30004)

【県内の分布】 低地に分布。県内では、地下谷の上に泥炭層が重なる「浮野」と呼ばれる特殊立地に成立する。

【選定基準】 B・D・G・H・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件 (加須市)

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移により減少や、採取の被害も心配される。加須市の群落は、県天然記念物「加須の浮野とその植物」として保護されている。

ミズギク群落 (30009)

【県内の分布】 消滅。低山から山地の湿地にかつて成立した可能性がある。

【関連群集】 ミズギク－ヌマガヤ群集 *Inulo-Moliniopsietum japonicae* Miyawaki et K. Fujiwara 1970

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 県立自然の博物館に寄居町産のミズギク標本が残されている。

ヤチカワズスゲ群落 (30010)

【県内の分布】 消滅。丘陵の谷津や湿地にかつて成立した可能性がある。

【関連群集】 ヤチカワズスゲ－キダチミズゴケ群集 *Carici omiana-Sphagnetum compacti* Miyawaki, Itow et Okuda 1967

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 県立自然の博物館に寄居町・嵐山町産のヤチカワズスゲ標本が残されている。

ヤマドリゼンマイ群落 (30011)

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。やや湿った林床や開放地に成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件 (小鹿野町1、ときがわ町1、神川町1、秩父市1)

【選定群落の評価】 S：1件、A：2件、B：1件

【特記事項】 シカの食害を受けている可能性がある。採取される恐れがある。秩父市の群落は国立公園特別地域に位置する。

モウセンゴケ群落 (31026)

【県内の分布】 丘陵に分布。谷津にある湧水を伴う湿地や休耕田に成立する。

【選定基準】 B・D・G・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（寄居町）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 谷津田の耕作放棄、草地管理の変化、遷移・乾燥化により減少したと考えられる。寄居町の群落は、県天然記念物「ミミカキグサとモウセンゴケ自生地」として町による移植・栽培が続けられているが、厳しい状況が続いている。過去には鳩山町にも分布の記録がある。

低層湿原・挺水植物群落 (32)



イヌセンブリ群落 (32006)

【県内の分布】 消滅。低地から台地・丘陵の湿地にかつて成立した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 和光市、朝霞市、桶川市、北本市などに分布の記録がある。環境変化や開発などにより減少し、消滅したと考えられる。

オニナルコスゲ群落 (32020)

【県内の分布】 低地から台地に分布。川ぞいの湿地や休耕田に成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 大型スゲオーダー *Magnocaricetalia* Pign. 1953

【選定群落の件数】 1件（上尾市）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移により減少が心配される。県南部や東部にもオニナルコスゲの記録があり、本群落が分布している可能性がある。上尾市の群落は保全地内に位置する。

カキツバタ群落 (32021)

【県内の分布】 低地に分布。明るい湿地に成立する。

【選定基準】 B・D・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 1件（加須市）

【選定群落の評価】 B：1件

【特記事項】 草地管理の変化や乾燥化・遷移による減少が心配される。加須市の群落は、県天然記念物「加須の浮野とその植物」として保護されている。他に蓮田市、滑川町、東松山市、入間市からも報告があるが、自生か不明。

カキラン群落 (32022)

【県内の分布】 消滅。丘陵の谷津や低山の湿地にかつて成立した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 寄居町、日高市、入間市、熊谷市などに分布の記録がある。谷津田の耕作放棄、草地管理の変化、遷移・乾燥化により減少し、消滅したと考えられる。

コキツネノボタン群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。広い河川敷の湿った環境に成立する。

【選定基準】 B・D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（加須市1、三郷市1、幸手市1）

【選定群落の評価】 A：1件、C：1件

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・遷移による減少が心配される。

コツブヌマハリイ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。湿地や休耕田に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（さいたま市1、桶川市1）

【選定群落の評価】 S：1件、B：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。桶川市の群落は自然再生地内に位置する。

サクラソウ群落 (32034)

【県内の分布】 低地に分布。荒川沿いの湿地にかつて点々と自生地があったことで知られる。

【選定基準】 B・D・E・G・H・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 ハナムグラ－オギ群集 *Galio dahurici-Miscanthenum sacchariflori* Okuda 1978

【選定群落の件数】 2件（さいたま市1、桶川市1）

【選定群落の評価】 A：2件

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少や、採取の被害も心配される。さいたま市の群落は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護され、桶川市の群落は保全地となっている。戸田ヶ原でも再生事業が行われている。過去には朝霞市にも分布の記録がある。

サワギキョウ群落 (32036)

【県内の分布】 丘陵から低山に分布。沢沿いや谷津の湿地に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（坂戸市）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 坂戸市の群落では、被陰などにより個体数が減り消滅寸前となっている。過去には皆野町、滑川町、鳩山町、ときがわ町にも分布の記録がある。

ザゼンソウ群落 (32039)

【県内の分布】 低山域に分布。やや流れのある湿地などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 5件（横瀬町2、秩父市1、飯能市1、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：4件

【特記事項】 乾燥化・攪乱による減少が心配される。横瀬町の群落2件と秩父市の群落は、それぞれ町・市の天然記念物として保護されている。小鹿野町の群落はセツブンソウの保全地内に位置する。

タコノアシ群落 (32044)

【県内の分布】 低地から低山域に分布。明るい湿地や休耕田、河川敷などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 8件（さいたま市1、伊奈町1、坂戸市1、吉見町1、北本市1、飯能市1、日高市1、行田市1）

【選定群落の評価】 B：4件、C：4件

59	さいたま市	大宮区堀の内町	大宮第三公園のタコノアシ群落	B
60	伊奈町	小室	原市沼付近のタコノアシ群落	B
61	坂戸市	四日市場	高麗川のタコノアシ群落	B
62	吉見町	長谷	長谷のタコノアシ群落	B
63	北本市	荒井	自然観察公園のタコノアシ群落	C
64	飯能市	苧生	苧生のタコノアシ群落	C
65	日高市	女影	竹之内休耕田のタコノアシ群落	C
66	行田市	持田	持田休耕田のタコノアシ群落	C

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。さいたま市の群落は県営公園内、伊奈町の群落は原市沼調節池内、北本市の群落は県自然観察公園内に位置する。

チョウジソウ群落 (32051)

【県内の分布】 低地に分布。湿地や湿った明るい林内などに成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 ハナムグラ－オギ群集 *Galio dahurici-Miscanthetum sacchariflori* Okuda 1978；ゴマギ－ハンノキ群集 *Viburno sieboldii-Alnetum japonicae* Okuba 1978

【選定群落の件数】 8件（さいたま市4、桶川市1、上尾市1、伊奈町1、宮代町1、加須市1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：5件、B：2件

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少や、採取の被害も心配される。さいたま市の群落1件は県営秋ヶ瀬公園内に位置し、1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。桶川市・上尾市の群落は保全地内、伊奈町の群落は原市沼調節池内、宮代町の群落は堀上田保全活動実施地区に位置する。

トネハナヤスリ群落（一）

【県内の分布】 低地に分布。広い河川敷の湿った環境などに春季に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G

【群落重要度】 II

【関連群集】 ハナムグラーオギ群集 *Galio dahurici-Miscanthesetum sacchariflori* Okuda 1978

【選定群落の件数】 3件（吉川市1、加須市2）

【選定群落の評価】 S：1件、A：2件

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・遷移による減少が心配される。加須市の群落1件は渡良瀬遊水地内に位置する。

ヌマトラノオ群落（32060）

【県内の分布】 低地から丘陵に分布。池沼周辺の湿地や休耕田などに成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 III

【関連群集】 ハナムグラーオギ群集 *Galio dahurici-Miscanthesetum sacchariflori* Okuda 1978；チゴザサーアゼスゲ群集 *Isachno-Caricetum thunbergii* Miyawaki et Okuda 1972

【選定群落の件数】 13件（さいたま市4、春日部市1、加須市2、飯能市1、蓮田市1、滑川町1、宮代町1、杉戸町1、川島町1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：8件、C：3件

78	さいたま市	桜区白鍬	羽根倉橋北のヌマトラノオ群落	A
79	春日部市	飯沼	飯沼中学校横湿地のヌマトラノオ群落	A
80	加須市	柏戸	渡良瀬遊水地のヌマトラノオ群落	B
81	飯能市	宮沢	宮沢湖下のヌマトラノオ群落	B
82	さいたま市	桜区道場	道場休耕田のヌマトラノオ群落	B
83	さいたま市	緑区見沼	新見沼大橋下流のヌマトラノオ群落	B
84	蓮田市	黒浜	黒浜沼付近のヌマトラノオ群落	B
85	滑川町	福田	福田のヌマトラノオ群落	B
86	宮代町	和戸	東武線脇水田のヌマトラノオ群落	B
87	杉戸町	木野川	古墳裏湿地のヌマトラノオ群落	B
88	川島町	出丸下郷	中池付近のヌマトラノオ群落	C
89	さいたま市	桜区西堀	田島ヶ原のヌマトラノオ群落	C
90	加須市	北篠崎	浮野のヌマトラノオ群落	C

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。丘陵域ではまとまった群落は減少している。さいたま市の群落1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」、加須市の群落1件は県天然記念物「加須の浮野とその植物」として保護されている。蓮田市の群落はトラスト地内、川島町の群落は自然再生地内に位置する。

ノカラムツ群落（一）

【県内の分布】 低地に分布。河川敷の湿った環境や休耕田などに成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 III

【関連群集】 ハナムグラーオギ群集 *Galio dahurici-Miscanthesetum sacchariflori* Okuda 1978

【選定群落の件数】 12件（吉川市1、加須市2、八潮市1、越谷市1、さいたま市5、桶川市1、宮代町1）

【選定群落の評価】 B：7件、C：5件

91	吉川市	三輪野江	江戸川河川敷のノカラマツ群落	B
92	加須市	向古河	渡良瀬川河川敷のノカラマツ群落	B
93	八潮市	八條	中川河川敷のノカラマツ群落	B
94	越谷市	増林	古利根川右岸のノカラマツ群落	B
95	さいたま市	桜区道場	道場休耕田のノカラマツ群落	B
96	さいたま市	岩槻区村国	元荒川河川敷のノカラマツ群落	B
97	さいたま市	桜区白楯	羽根倉橋北のノカラマツ群落	B
98	さいたま市	桜区西堀	田島ヶ原のノカラマツ群落	C
99	さいたま市	岩槻区南平野	元荒川左岸河川敷のノカラマツ群落	C
100	桶川市	川田谷	江川下流湿地のノカラマツ群落	C
101	宮代町	山崎	堀上田水路脇のノカラマツ群落	C
102	加須市	柏戸	渡良瀬遊水地のノカラマツ群落	C

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・乾燥化・遷移による減少が心配される。さいたま市の群落1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。桶川市の群落は保全地内、宮代町の群落は堀上田保全活動実施地区、加須市の群落1件は渡良瀬遊水地内に位置する。

ハナムグラ群落 (32065)

【県内の分布】 低地に分布。河川敷の湿った環境や休耕田などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【関連群集】 ハナムグラ-オギ群集 *Galio dahurici-Miscanthetum sacchariflori* Okuda 1978

【選定群落の件数】 6件（さいたま市3、上尾市1、川島町1、加須市2）

【選定群落の評価】 S：1件、A：3件、B：1件、C：1件

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・乾燥化・遷移による減少が心配される。さいたま市の群落1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。上尾市・川島町の群落は保全地内、加須市の群落1件は渡良瀬遊水地内に位置する。

ヒメゴウソ群落 (32069)

【県内の分布】 低地から山地に分布。水田の畦や休耕田に成立する。

【選定基準】 D・E・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（鳩山町）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。低地から低山まで標本があり分布は広いと考えられるが、まとまった生育地の情報は少ない。

ヒメシオン群落 (一)

【県内の分布】 低地から低山に分布。湿った草地や河川敷内の湿地に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（加須市）

【選定群落の評価】 B：1件

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・遷移による減少が心配される。

ヘラオモダカ群落（一）

【県内の分布】 低地から低山域に分布。水田脇の水路や休耕田に成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 Ⅲ

【関連群集】 ヘラオモダカ群集 *Alismatetum canaliculate* Miyawaki 1960

【選定群落の件数】 7件（日高市1、所沢市2、飯能市1、上尾市1、北本市1、長瀨町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：6件

111	日高市	女影	女影休耕田のヘラオモダカ群落	B
112	所沢市	上山口	上山口のヘラオモダカ群落	C
113	飯能市	芦荻場	鯉ヶ久保池下水路のヘラオモダカ群落	C
114	所沢市	三ヶ島	早稲田大学南のヘラオモダカ群落	C
115	上尾市	領家	江川下流湿地のヘラオモダカ群落	C
116	北本市	荒井	自然観察公園のヘラオモダカ群落	C
117	長瀨町	長瀨	岩畳のヘラオモダカ群落	C

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。所沢市の群落1件はトラスト地内、桶川市の群落は保全地内、北本市の群落は県自然観察公園内、長瀨町の群落は国名勝・天然記念物「長瀨」指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。

ミクリ群落 (32083)

【県内の分布】 低地に分布。用水路や流れの緩やかな河川に成立する。

【選定基準】 D・E

【群落重要度】 Ⅱ

【選定群落の件数】 6件（鶴ヶ島市1、伊奈町1、上尾市1、熊谷市2、坂戸市1、北本市1）

【選定群落の評価】 B：3件、C：3件

118	鶴ヶ島市	高倉・脚折	飯盛川上流のミクリ群落	B
119	伊奈町小室・上尾市平塚		原市沼川のミクリ群落	B
120	熊谷市	上之	星川のミクリ群落	B
121	熊谷市	久下～太井	元荒川のミクリ群落	C
122	坂戸市	石井	飯盛川下流のミクリ群落	C
123	北本市	荒井	自然観察公園のミクリ群落	C

【特記事項】 攪乱・環境変化による減少が心配される。伊奈町・上尾市の群落は原市沼調節池内、熊谷市の群落1件は一部が県天然記念物「元荒川ムサシトミヨ生息地」指定地内、北本市の群落は県自然観察公園内に位置する。

ミズオトギリ群落 (32084)

【県内の分布】 低地から丘陵に分布。池沼周辺の湿地、休耕田、谷津などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 Ⅱ

【関連群集】 カサスゲ群集 *Caricetum dispalatae* Miyawaki et Okuda 1972

【選定群落の件数】 2件（日高市1、加須市1）

【選定群落の評価】 A：1件、C：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。加須市の群落は県天然記念物「加須の浮野とその植物」として保護されている。

ヤマアゼスゲ群落 (32092)

【県内の分布】丘陵から亜高山に分布。溪谷や河川敷の砂地に成立する。

【選定基準】D・G

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】ヨシーヤマアゼスゲ群集 *Phragmito-Caricetum heterolepis* Arakane 1970

【選定群落の件数】1件（小川町）

【選定群落の評価】C：1件

126	小川町	腰越	槻川のヤマアゼスゲ群落	C
-----	-----	----	-------------	---

【特記事項】乾燥化・遷移による減少が心配される。

ヨシ群落 (32094)

【県内の分布】低地から低山域に分布。河川・池沼周辺の湿地、遊水地、休耕田などに成立する。

【選定基準】D・E・H・I

【群落重要度】Ⅲ

【関連群集】ヨシクラス *Phragmitetea Tx. et Prsg.* 1942

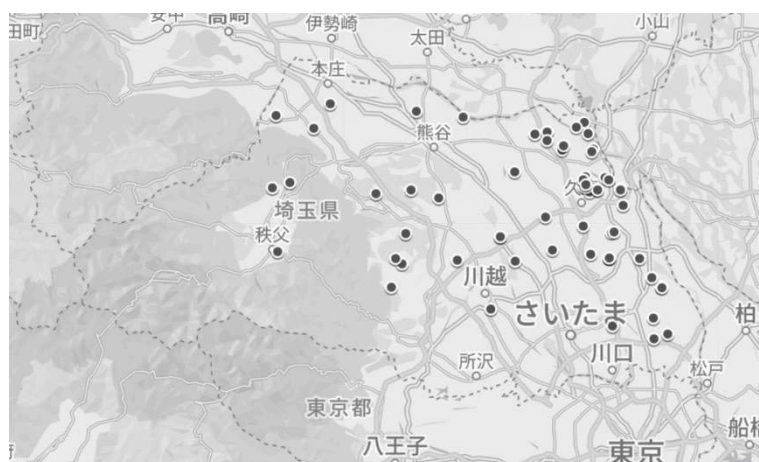
【選定群落の件数】8件（さいたま市3、川口市1、加須市2、戸田市1、羽生市1、蓮田市1）

【選定群落の評価】A：1件、B：3件、C：4件

127	さいたま市下山口新田・川口市行衛ほか		芝川第一調節池のヨシ群落	A
128	さいたま市	桜区西堀	田島ヶ原のヨシ群落	B
129	加須市	柏戸	渡良瀬遊水地のヨシ群落	B
130	さいたま市	西区三橋	鴨川第一調節池のヨシ群落	B
131	戸田市	重瀬	戸田ヶ原のヨシ群落	C
132	羽生市	三田ヶ谷	宝蔵寺沼のヨシ群落	C
133	加須市	北篠崎	浮野・浮野の里のヨシ群落	C
134	蓮田市	黒浜	黒浜沼（上沼・下沼）のヨシ群落	C

【特記事項】茅場として維持・利用されてきた場所もある。多くの希少種の生育・生息環境となっており、重要な群落。このほかにも各地に分布するが、天然記念物等の指定により保全されている場所など、代表的なものを挙げた。

浮葉植物群落 (33)



アサザ群落 (33001)

【県内の分布】低地から低山域に分布。池沼や流れの緩やかな河川・水路などに成立する。

【選定基準】D・E・G・I

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】8件（越谷市2、春日部市1、久喜市2、さいたま市1、松伏町1、北本市1、長瀨町1）

【選定群落の評価】A：1件、B：5件、C：2件

135	越谷市大吉～春日部市緑町		古利根川のアサザ群落	A
136	久喜市	狐塚	内池のアサザ群落	B
137	越谷市	相模町	瓦曾根溜井のアサザ群落	B
138	さいたま市	岩槻区小溝	慈恩寺親水公園のアサザ群落	B
139	久喜市	菖蒲町柴山枝郷	栢間堀のアサザ群落	B
140	松伏町	松石	高須賀池のアサザ群落	B
141	北本市	荒井	自然観察公園のアサザ群落	C
142	長瀨町	長瀨	岩畳のアサザ群落	C

【特記事項】攪乱・環境変化による減少が心配される。久喜市の群落1件は市自然環境保全地区として保護されている。さいたま市・松伏町の群落はそれぞれ市・町の親水公園内、北本市の群落は県自然観察公園内、長瀨町の群落は国名勝・天然記念物「長瀨」指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。

オニバス群落 (33003)

【県内の分布】低地に分布。温暖な地域の池沼に成立する。

【選定基準】B・D・G・I

【群落重要度】Ⅰ

【選定群落の件数】1件（加須市）

【選定群落の評価】A：1件

【特記事項】環境変化による減少が心配される。加須市の群落は、市の天然記念物「オニバス自生地」として保護されている。

ガガブタ群落 (33005)

【県内の分布】低地から丘陵に分布。池沼や溜め池などに成立する。

【選定基準】B・D・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】ガガブターヒシ群集 *Nymphoides indicae*-*Trapetum japonicae* Miyawaki et al. 1977

【選定群落の件数】3件（東松山市1、滑川町1、さいたま市1）

【選定群落の評価】A：2件、B：1件

【特記事項】環境変化による減少が心配される。さいたま市の群落は市の親水公園内に位置する。

コウホネ群落 (33006)

【県内の分布】低地に分布。流れの緩やかな河川・水路や池沼などに成立する。

【選定基準】D・E・G

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】14件（羽生市1、加須市3、久喜市1、草加市1、川越市1、坂戸市1、伊奈町1、上尾市2、宮代町2、北本市1、白岡市1、桶川市1）

【選定群落の評価】A：2件、B：8件、C：4件

147	羽生市中手子林～加須市町屋新田		中川のコウホネ群落	A
148	久喜市	上内	青毛堀川のコウホネ群落	A
149	草加市	柿木町	そうか公園北ハス田のコウホネ群落	B
150	川越市	大仙波	新河岸川のコウホネ群落	B

151	坂戸市	石井・塚越	飯盛川下流のコウホネ群落	B
152	伊奈町小室・上尾市平塚		原市沼川のコウホネ群落	B
153	加須市	町屋新田	手子堀川のコウホネ群落	B
154	加須市	下樋鑑川	新梶堀川のコウホネ群落	B
155	宮代町	山崎	笠原沼落川のコウホネ群落	B
156	宮代町	道佛	姫宮落川のコウホネ群落	B
157	北本市	荒井	自然観察公園のコウホネ群落	C
158	上尾市	瓦葺	綾瀬川のコウホネ群落	C
159	白岡市	篠津	庄兵衛堀川のコウホネ群落	C
160	桶川市	川田谷	江川下流湿地のコウホネ群落	C

【特記事項】攪乱・環境変化による減少や、採取の被害も心配される。伊奈町・上尾市の群落は原市沼調節池内、北本市の群落は県自然観察公園内、桶川市の群落は保全地内に位置する。

ジュンサイ群落 (33008)

【県内の分布】消滅。台地・丘陵の溜め池などにかつて成立した可能性がある。

【関連群集】ジュンサイーヒツジグサ群集 *Brasenia schreberi-Nymphaeetum tetragonae* Okuda in Miyawaki 1983

【選定群落の件数】0件

【特記事項】日高市、桶川市に分布の記録がある。水質や環境の変化などにより減少し、消滅したと考えられる。

デンジソウ群落 (33009)

【県内の分布】低地から丘陵に分布。水田周辺の湿地や休耕田などに成立する。

【選定基準】B・D・G・I

【群落重要度】I

【関連群集】ウリカワ－コナギ群集 *Sagittario-Monochorietum* Miyawaki 1960

【選定群落の件数】3件（嵐山町1、久喜市1、川口市1）

【選定群落の評価】S：1件、A：1件、B：1件

【特記事項】乾燥化・環境変化による減少が心配される。川口市の群落は水田保全活動実施地区に位置する。

ヒシ群落 (33010)

【県内の分布】低地から低山域に分布。池沼や溜め池、流れの緩やかな河川などに成立する。

【選定基準】D・E・I

【群落重要度】Ⅲ

【関連群集】ガガバターヒシ群集 *Nymphoides indicae-Trapaetum japonicae* Miyawaki et al. 1977

【選定群落の件数】17件（熊谷市1、加須市1、久喜市1、横瀬町1、美里町1、鳩山町2、春日部市1、越谷市2、毛呂山町1、さいたま市1、蓮田市1、小川町1、皆野町1、神川町1、行田市1、羽生市1）

【選定群落の評価】B：6件、C：11件

164	熊谷市	原井	江袋沼のヒシ群落	B
165	加須市	栄	利根川堤防脇水路のヒシ群落	B
166	久喜市	西大輪	西大輪のヒシ群落	B
167	横瀬町	横瀬	姿の池のヒシ群落	B
168	美里町	広木	摩訶池のヒシ群落	B
169	鳩山町	小用	小用大沼のヒシ群落	B

170	春日部市赤沼・越谷市北川崎		古利根川のヒシ群落	C
171	越谷市	蒲生愛宕町	出羽堀のヒシ群落	C
172	毛呂山町	小田谷	長栄寺のヒシ群落	C
173	さいたま市	岩槻区慈恩寺	慈恩寺親水公園のヒシ群落	C
174	蓮田市	黒浜	黒浜排水路のヒシ群落	C
175	小川町	高谷	濁沼のヒシ群落	C
176	皆野町	国神	一ト星池のヒシ群落	C
177	神川町	新里	羽根倉池のヒシ群落	C
178	行田市	北河原	福川水門のヒシ群落	C
179	羽生市	三田ヶ谷	宝蔵寺沼のヒシ群落	C
180	鳩山町	熊井	石場沼のヒシ群落	C

【特記事項】攪乱・環境変化による減少が心配される。羽生市の群落は国天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」として保護されている。さいたま市の群落は親水公園内に位置する。

ヒツジグサ群落 (33011)

【県内の分布】消滅。低地から丘陵の池沼にかつて成立した。

【関連群集】ジュンサイーヒツジグサ群集 *Brasenia schreberi-Nymphaeetum tetragonae* Okuda in Miyawaki 1983

【選定群落の件数】0件

【特記事項】日高市、戸田市、行田市、久喜市、熊谷市、加須市などに分布の記録がある。水質や環境の変化、開発などにより減少し、消滅したと考えられる。

ヒメシロアサザ群落 (33013)

【県内の分布】低地に分布。水田や水路、池沼などに成立する。

【選定基準】B・D・G・I

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】11件（久喜市2、幸手市5、加須市3、羽生市1）

【選定群落の評価】A：3件、B：5件、C：3件

181	久喜市	鷺宮	鷺宮のヒメシロアサザ群落	A
182	幸手市	中川崎	香日向調整池南水田のヒメシロアサザ群落	A
183	加須市	旗井	野菊公園南東水田のヒメシロアサザ群落	A
184	幸手市	神扇	神扇のヒメシロアサザ群落	B
185	加須市	上崎	上崎休耕田のヒメシロアサザ群落	B
186	久喜市	鷺宮	天王新堀脇水田のヒメシロアサザ群落	B
187	幸手市	上吉羽	1号緑道南水田のヒメシロアサザ群落	B
188	加須市	旗井	稲荷木排水路西水田のヒメシロアサザ群落	B
189	幸手市	上吉羽	幸手署北水田のヒメシロアサザ群落	C
190	幸手市	中川崎	宝昌寺北水路のヒメシロアサザ群落	C
191	羽生市	三田ヶ谷	宝蔵寺沼のヒメシロアサザ群落	C

【特記事項】耕作放棄・環境変化による減少が心配される。羽生市の群落は国天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」として保護されている。

ヒルムシロ群落 (33014)

【県内の分布】低地から丘陵に分布。池沼や水路、水田などに成立する。

【選定基準】D・E・G・I

【群落重要度】Ⅰ

【関連群集】 ヒルムシロクラス Potametea Tx. et Prsg. 1942

【選定群落の件数】 1件（加須市）

【選定群落の評価】 C：1件

192	加須市	麦倉	利根川堤防脇水路のヒルムシロ群落	C
-----	-----	----	------------------	---

【特記事項】 環境変化による減少が心配される。まとまった群落の報告が少なくなっている。

マルバオモダカ群落 (33017)

【県内の分布】 消滅。低地の水田や丘陵の谷津田周辺の湿地・水辺にかつて分布した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 日高市などに分布の記録がある。農地管理の変化や開発などにより減少し、消滅したと考えられる。

沈水植物群落 (34)



エビモ群落 (34002)

【県内の分布】 低地に分布。水路や流れの緩やかな河川などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 Ⅲ

【選定群落の件数】 8件（坂戸市1、鴻巣市1、吉川市1、上尾市1、本庄市1、行田市1、小川町1、加須市1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：5件、C：1件

193	坂戸市	小沼	圏央道北用水路のエビモ群落	A
194	鴻巣市	屈巢	鴻巣 CC 西用水路のエビモ群落	A
195	吉川市	吉屋	新田用水路のエビモ群落	B
196	上尾市	南	上平公園北用水路のエビモ群落	B
197	本庄市	栗崎	小山川のエビモ群落	B
198	行田市	斎条・下中条	劔神社東用水路のエビモ群落	B
199	小川町	青山	円光寺北用水路のエビモ群落	B
200	加須市	松永新田	手小堀川のエビモ群落	C

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。

ササバモ群落 (34006)

【県内の分布】 低地に分布。水路や流れの緩やかな河川などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】 15件（白岡市4、行田市2、熊谷市1、吉川市1、羽生市2、草加市1、久喜市2、加須市1、宮代町1）

【選定群落の評価】 A：3件、B：5件、C：7件

201	白岡市	上野田	隼人堀川のササバモ群落	A
202	行田市	斎条・下中条	劔神社東用水路のササバモ群落	A
203	熊谷市	下奈良	奈良用水・奈良川排水路のササバモ群落	A
204	吉川市	吉屋	新田用水路のササバモ群落	B
205	白岡市	爪田ヶ谷	高台橋下流用水路のササバモ群落	B
206	白岡市	篠津	庄兵衛堀赤池橋下流のササバモ群落	B
207	行田市	埼玉	小崎沼南用水路のササバモ群落	B
208	羽生市	上岩瀬	新郷駅東のササバモ群落	B
209	草加市	柿木町	八条用水のササバモ群落	C
210	白岡市	高岩	備前堀川のササバモ群落	C
211	久喜市	青毛	青毛のササバモ群落	C
212	久喜市	上内	青毛堀川のササバモ群落	C
213	加須市	砂原	羽生外野栗橋線脇用水路のササバモ群落	C
214	羽生市	三田ヶ谷	蓮台寺東用水路のササバモ群落	C
215	宮代町	和戸	和戸のササバモ群落	C

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。

コウガイモ群落（一）

【県内の分布】 低地に分布。水路や流れの緩やかな河川などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 Ⅱ

【選定群落の件数】 6件（行田市1、熊谷市1、羽生市1、加須市2、川島町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：5件

216	行田市	斎条・下中条	劔神社東用水路のコウガイモ群落	B
217	熊谷市	下奈良	奈良川排水路のコウガイモ群落	C
218	羽生市	上岩瀬	上岩瀬のコウガイモ群落	C
219	加須市	戸室	戸室のコウガイモ群落	C
220	加須市	栄	利根川堤防脇水路のコウガイモ群落	C
221	川島町	戸守	安藤川のコウガイモ群落	C

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。

スギナモ群落（34008）

【県内の分布】 消滅。低地から低山域の池沼にかつて成立した。

【関連群集】 セキショウモースギナモ群集 *Vallisneria denseserrulatae-Hippuridetum vulgaris* Miyawaki et K. Fujiwara 1970

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 水質や環境の変化や開発などにより減少し、消滅したと考えられる。羽生市宝蔵寺沼にも分布の記録がある。

セキショウモ群落（34009）

【県内の分布】 低地から低山域に分布。水路や池沼などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】Ⅱ

【関連群集】セキショウモースギナモ群集 Vallisneria denseserrulatae-Hippuridetum vulgaris Miyawaki et K. Fujiwara 1970

【選定群落の件数】4件（熊谷市2、鴻巣市1、飯能市1、行田市1）

【選定群落の評価】B：1件、C：3件

【特記事項】水質変化・環境変化による減少が心配される。

バイカモ群落 (34011)

【県内の分布】低地に分布。湧水のある水路・小河川などの流水中に成立する。

【選定基準】B・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】1件（熊谷市）

【選定群落の評価】S：1件

【特記事項】水質変化・環境変化による減少が心配される。熊谷市の群落は、一帯が県の魚ムサシトミヨの生息地となっており、保全活動が行われている。

ミズオオバコ群落 (34017)

【県内の分布】低地から丘陵に分布。水田や周辺の水路などに成立する。

【選定基準】D・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】8件（行田市1、さいたま市2、草加市1、飯能市1、幸手市1、羽生市1、加須市1）

【選定群落の評価】B：5件、C：3件

【特記事項】水質変化・環境変化による減少が心配される。

ミズニラ群落 (34018)

【県内の分布】丘陵を中心に分布。谷津田や溜め池周辺、休耕田などに成立する。

【選定基準】B・D

【群落重要度】Ⅲ

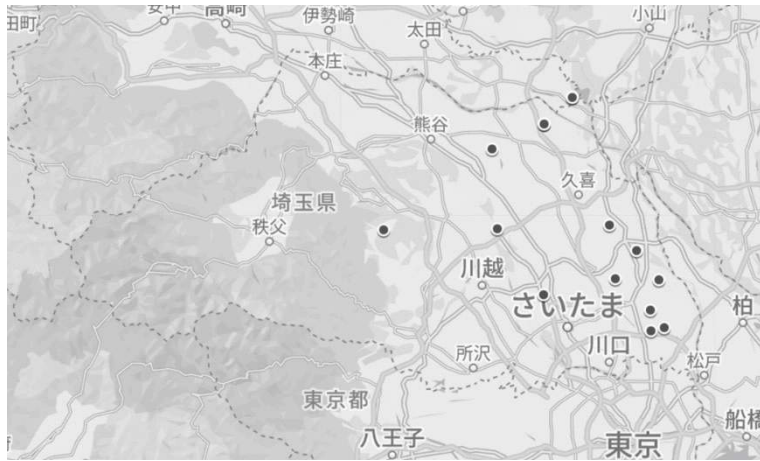
【選定群落の件数】11件（飯能市3、越生町1、日高市2、鳩山町1、熊谷市2、所沢市1、入間市1）

【選定群落の評価】B：3件、C：8件

235	飯能市	苧生	赤根峠下谷津田跡のミズニラ群落	B
236	飯能市	小久保	小久保谷津のミズニラ群落	B
237	越生町	大谷	大亀沼のミズニラ群落	B
238	日高市	女影	女影休耕田のミズニラ群落	C
239	日高市	高麗本郷	瀧泉寺北谷津田跡のミズニラ群落	C
240	鳩山町	奥田	水川神社東谷津田のミズニラ群落	C
241	熊谷市	小江川	桧谷沼下休耕田のミズニラ群落	C
242	熊谷市	楊井	楊井休耕田のミズニラ群落	C
243	所沢市	北野南	北野の谷戸のミズニラ群落	C
244	飯能市	苧生	赤根峠下湿地のミズニラ群落	C
245	入間市	野田	谷田の泉のミズニラ群落	C

【特記事項】水質変化・環境変化による減少が心配される。所沢市の群落は里山保全活動実施地区内、入間市の群落は市の保全地内に位置する。

浮水植物群落 (35)



イヌタヌキモ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。池沼や溜め池などに成立する。

【選定基準】 G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件 (加須市)

【選定群落の評価】 S: 1件

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。

サンショウモ群落 (35001)

【県内の分布】 低地から丘陵に分布。水田や水路、流れの緩やかな河川などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 アオウキクサーサンショウモ群集 *Lemno paucicostatae-Salvinietum natantis* Miyawaki et J. Tüxen 1960

【選定群落の件数】 9件 (春日部市1、越谷市3、さいたま市2、ときがわ町1、行田市1、草加市1、宮代町1)

【選定群落の評価】 B: 6件、C: 3件

247	春日部市緑町・赤沼、越谷市北川崎	古利根川のサンショウモ群落	B
248	さいたま市 西区三橋	鴨川第一調節池のサンショウモ群落	B
249	越谷市 蒲生愛宕町	出羽堀のサンショウモ群落	B
250	越谷市 越ヶ谷・相模町	瓦曽根溜井のサンショウモ群落	B
251	ときがわ町 玉川	玉川のサンショウモ群落	B
252	さいたま市 岩槻区大野島	元荒川左岸水田のサンショウモ群落	B
253	行田市 小針	古代蓮の里のサンショウモ群落	C
254	草加市 柿木町	八条用水のサンショウモ群落	C
255	宮代町 山崎	堀上田のサンショウモ群落	C

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。さいたま市の群落1件は鴨川第一調節池内、行田市の群落は市の公園内、宮代町の群落は堀上田保全活動実施地区に位置する。

タヌキモ群落 (35002)

【県内の分布】 低地から低山に分布。池沼や溜め池などに成立する。

【選定基準】 G

【群落重要度】 I

【関連群集】 アオウキクサ-タヌキモ群集 *Lemno paucicostatae-Utricularietum japonicae* Miyawaki et J. Tüxen 1960

【選定群落の件数】 2件（羽生市1、北本市1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。羽生市の群落は国天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」として保護されている。北本市の群落は県自然観察公園内に位置する。

ノタヌキモ群落 (35003)

【県内の分布】 消滅。低地から丘陵の池沼にかつて成立した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 羽生市、行田市などに分布の記録がある。水質や環境の変化などにより減少し、消滅したと考えられる。

ヒンジモ群落 (35004)

【県内の分布】 消滅。台地・丘陵域の湧水周辺などにかつて分布した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 大里・比企郡市に分布の記録がある。

ムジナモ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。堀上田や周辺の水路、貧栄養の池沼などに成立する。

【選定基準】 B・E・G・H・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（羽生市）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 水質変化・環境変化による減少が心配される。羽生市の群落は国天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」として保護されている。過去には春日部市にも自生地があった。

岩上・岩隙草本群落 (石灰岩地) (42)



イチョウシダ群落 (42007)

【県内の分布】 山地から亜高山の石灰岩地に分布。明るい岩峰の岩隙に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 11件（秩父市7、小鹿野町3、飯能市1）

【選定群落の評価】 B：3件、C：8件

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。秩父市の群落3件は国立公園特別

地域、4件は国立公園普通地域に位置する。

イワウラジロ群落 (42008)

【県内の分布】 山地の石灰岩地に分布。おもに石灰岩の岩峰の岩隙に成立し、まれに林道法面にもみられる。

【選定基準】 B・D・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 4件（小鹿野町3、秩父市1）

【選定群落の評価】 S：2件、A：2件

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。イワウラジロは分布が秩父山地周辺に限られ、全国的にも希少な群落。秩父市の群落は国立公園普通地域に位置する。

ウスユキソウ群落 (一)

【県内の分布】 低山から亜高山に分布。石灰岩地・蛇紋岩地の岩場や、亜高山の草地に成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 12件（小鹿野町3、秩父市8、寄居町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：11件

274	小鹿野町	河原沢	二子山東岳のウスユキソウ群落	B
275	秩父市	大滝	甲武信小屋のウスユキソウ群落	C
276	秩父市	大滝	雁峠のウスユキソウ群落	C
277	小鹿野町	三山	白石山西尾根石灰岩地のウスユキソウ群落	C
278	小鹿野町	三山	白石山のウスユキソウ群落	C
279	秩父市	大滝	破風山下のウスユキソウ群落	C
280	秩父市	大滝	白岩山のウスユキソウ群落	C
281	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のウスユキソウ群落	C
282	寄居町	風布	釜伏山のウスユキソウ群落	C
283	秩父市	大滝	豆焼沢石灰岩地のウスユキソウ群落	C
284	秩父市	中津川	梓白岩のウスユキソウ群落	C
285	秩父市	中津川	出合石灰岩地のウスユキソウ群落	C

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。採取の被害も心配される。秩父市の群落3件は国立公園特別保護地区、3件は国立公園特別地域、2件は国立公園普通地域に位置する。

オオピランジ群落 (42025)

【県内の分布】 山地に分布。石灰岩地などの日当りのよい岩場に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 6件（秩父市5、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：3件、C：3件

【特記事項】 秩父市からは、変種のピランジの群落も報告されている。秩父市の群落1件は国立公園特別地域、4件は国立公園普通地域に位置する。

キバナコウリンカ群落 (42033)

【県内の分布】 埼玉県から群馬県の限られた地域の石灰岩地に分布。わずかに土壤の発達した岩隙や明るい平場などに成立する。

【選定基準】 B・C・D・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 2件（小鹿野町）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。国内で他に分布するのは群馬県神流町の叶山だけであり、重要な群落である。

キンモウワラビ群落（一）

【県内の分布】 丘陵から亜高山に分布。溪谷沿いなどの明るい岩場や、まれに法面などにも成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 キンモウワラビ群集 *Hypodematietum fauriei* Nakamura in Miyawaki 1983

【選定群落の件数】 11件（秩父市7、長瀨町1、飯能市2、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：10件

294	秩父市	黒谷	瑞巖寺のキンモウワラビ群落	B
295	長瀨町	井戸	岩畳対岸遊歩道のキンモウワラビ群落	C
296	飯能市	阿須	阿須のキンモウワラビ群落	C
297	飯能市	上名栗	白石灰岩地のキンモウワラビ群落	C
298	秩父市	上影森	橋立石灰岩地のキンモウワラビ群落	C
299	秩父市	吉田阿熊	金岳のキンモウワラビ群落	C
300	小鹿野町	三山	白石山のキンモウワラビ群落	C
301	秩父市	大滝	甲武信ヶ岳のキンモウワラビ群落	C
302	秩父市	三峰	神庭石灰岩地のキンモウワラビ群落	C
303	秩父市	大滝	大血川入口石灰岩地のキンモウワラビ群落	C
304	秩父市	中津川	中双里ミヨシ岩のキンモウワラビ群落	C

【特記事項】 秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、3件は国立公園普通地域、長瀨町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

クモノスシダ群落（42036）

【県内の分布】 低山から亜高山に分布。石灰岩地・蛇紋岩地などの明るい岩場の岩隙や、法面などにも成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【関連群集】 クモノスシダ群集 *Camptosoretum sibirici* Nakamura in Miyawaki 1983

【選定群落の件数】 12件（小鹿野町2、寄居町1、秩父市7、飯能市1、横瀨町1）

【選定群落の評価】 C：12件

305	小鹿野町	河原沢	二子山のクモノスシダ群落	C
306	小鹿野町	藤倉	白石山西尾根石灰岩地のクモノスシダ群落	C
307	寄居町	風布	釜伏山のクモノスシダ群落	C
308	秩父市	荒川上田野	安谷川沿い林道のクモノスシダ群落	C
309	秩父市	浦山	冠岩石灰岩地のクモノスシダ群落	C
310	飯能市	上名栗	正丸峠下のクモノスシダ群落	C
311	横瀨町	横瀨	武甲山のクモノスシダ群落	C
312	秩父市	大滝	豆焼沢石灰岩地のクモノスシダ群落	C
313	秩父市	大滝	大血川西谷石灰岩地のクモノスシダ群落	C
314	秩父市	大滝	赤沢山石灰岩地のクモノスシダ群落	C

315	秩父市	中津川	仏石山石灰岩地のクモノスダ群落	C
316	秩父市	中津川	出合石灰岩地のクモノスダ群落	C

【特記事項】 秩父市の群落2件は国立公園特別地域、3件は国立公園普通地域に位置する。

シラヒゲソウ群落（一）

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。石灰岩地などのやや湿った草地に成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（小鹿野町1、秩父市3）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件、B：2件

【特記事項】 シカの食害を受けている可能性がある。秩父市の群落3件は国立公園特別地域に位置する。

タカネコウリンカ群落（一）

【県内の分布】 山地上部の限られた石灰岩地に分布。石灰岩の岩隙や林道脇の岩礫地に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（秩父市）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 秩父市の群落は国立公園普通地域に位置する。

チチブイワザクラ群落（一）

【県内の分布】 分布は武甲山のみ。北向きの石灰岩壁の、水が通るようなやや湿った岩隙に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 チチブイワザクラ群集 *Primuletum tosaensis rhodotrichae* Nagano in Miyawaki 1986

【選定群落の件数】 1件（横瀬町）

【選定群落の評価】 S：1件

【特記事項】 過去には「幕岩」などに群生した記録があるが、採取や採掘により大部分が失われた。現在は鉾区内にわずかに群落が残されている。

チチブ lindow 群落（一）

【県内の分布】 山地の石灰岩地に分布。石灰岩の岩礫地や林道脇などに成立する。

【選定基準】 B・C・D・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 4件（秩父市）

【選定群落の評価】 S：1件、A：3件

【特記事項】 ヒマラヤや遼東半島、国内では秩父周辺と伊吹山などに隔離分布する。秩父市の群落3件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域に位置する。

トガクシデンダ群落（一）

【県内の分布】 山地から亜高山の石灰岩地に分布。石灰岩の岩峰の岩隙などに分布する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 6件（秩父市）

【選定群落の評価】 C：6件

327	秩父市	大滝	芋ノ木ドッケのトガクシデンダ群落	C
328	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のトガクシデンダ群落	C
329	秩父市	中津川	梓白岩のトガクシデンダ群落	C
330	秩父市	大滝	赤沢山石灰岩地のトガクシデンダ群落	C
331	秩父市	中津川	豆焼沢石灰岩地のトガクシデンダ群落	C
332	秩父市	大滝	前白岩山のトガクシデンダ群落	C

【特記事項】 秩父市の群落5件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域に位置する。

ヒメシャガ群落 (42074)

【県内の分布】 山地に分布。石灰岩地などの岩場や明るい林内などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件（秩父市2、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：3件

【特記事項】 採取の被害が心配される。過去には武甲山にも分布の記録がある。秩父市の群落2件は国立公園普通地域に位置する。

ホソバトリカブト群落 (一)

【県内の分布】 山地から亜高山の石灰岩地などに分布。明るい林内や林縁などに成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（秩父市4）

【選定群落の評価】 B：1件、C：3件

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。秩父市の群落3件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域に位置する。

ホソバナツルリンドウ群落 (一)

【県内の分布】 山地の石灰岩地に分布。石灰岩の岩礫地や林道脇などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 5件（秩父市）

【選定群落の評価】 B：5件

【特記事項】 秩父市の群落2件は国立公園特別地域、3件は国立公園普通地域に位置する。

ホタルサイコ群落 (一)

【県内の分布】 山地から亜高山の石灰岩地に分布。岩場や周辺の草地、明るい林内などに成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 5件（秩父市2、小鹿野町3）

【選定群落の評価】 A：1件、B：3件、C：1件

346	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のホタルサイコ群落	A
347	小鹿野町	三山	白石山西尾根石灰岩地のホタルサイコ群落	B
348	小鹿野町	河原沢	二子山東岳のホタルサイコ群落	B
349	秩父市	大滝	大達原石灰岩地のホタルサイコ群落	B

350	小鹿野町	三山	白石山のホタルサイコ群落	C
-----	------	----	--------------	---

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。秩父市の群落2件は国立公園普通地域に位置する。

ミヤマウラジロ群落 (42091)

【県内の分布】 山地の石灰岩地に分布。おもに石灰岩の岩峰の岩隙に成立する。

【選定基準】 G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 7件（秩父市3、横瀬町1、小鹿野町2、飯能市1）

【選定群落の評価】 B：3件、C：4件

351	秩父市	吉田石間	吉田石間石灰岩地のミヤマウラジロ群落	B
352	横瀬町	横瀬	武甲山のミヤマウラジロ群落	B
353	小鹿野町	三山	白石山のミヤマウラジロ群落	B
354	秩父市	三峰	神庭石灰岩地のミヤマウラジロ群落	C
355	飯能市	上名栗	白岩石灰岩地のミヤマウラジロ群落	C
356	小鹿野町	河原沢	二子山西岳のミヤマウラジロ群落	C
357	秩父市	中津川	石舟沢石灰岩地のミヤマウラジロ群落	C

【特記事項】 オーバーユースの影響が懸念される群落がある。ミヤマウラジロの分布は関東甲信地域に限られ、希少な群落。秩父市の群落2件は国立公園普通地域に位置する。

ミヤマスカシユリ群落 (一)

【県内の分布】 県内の分布は武甲山のみ。切り立った石灰岩壁の岩隙に成立する。

【選定基準】

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 2件（横瀬町1、秩父市1）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件

【特記事項】 採掘を免れた岩壁に、辛うじて残っている。鱗茎がニホンザルの食害を受けることがある。ミヤマスカシユリは武甲山以外では茨城県・岩手県など分布が限られ、全国的にも希少な群落。

ミョウギシャジン群落 (一)

【県内の分布】 山地から亜高山の石灰岩地に分布。岩場や周辺の岩礫地などに成立する。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 5件（秩父市4、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：2件、C：3件

【特記事項】 秩父市の群落4件は国立公園特別地域に位置する。

ヤツガタケナズナ群落 (一)

【県内の分布】 亜高山の岩峰に分布。明るい岩場に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 2件（秩父市）

【選定群落の評価】 S：2件

【特記事項】 ヤツガタケナズナは亜高山から高山にかけて分布し、県内では極めてまれ。秩父市の群落2件は国立公園特別地域に位置する。

岩上・岩隙草本群落（非石灰岩地）（42）



アオガネシダ群落（42002）

【県内の分布】 消滅。県内では最も温暖・湿潤な西部地域の低山の岩場にかつて成立した。

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 越生町、毛呂山町に分布の記録がある。本県はアオガネシダの分布北限域にあたる。

アオネカズラ群落（一）

【県内の分布】 県内では最も温暖・湿潤な西部地域の低山に分布。溪谷沿いの岩壁に成立する。

【選定基準】 B・C・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（越生町）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 越生町の群落は、県天然記念物「黒山の特殊植物群落」として保護されている。

イワヒバ群落（42015）

【県内の分布】 低山から山地に分布。やや湿った岩場に成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 Ⅲ

【選定群落の件数】 13件（飯能市3、小鹿野町1、秩父市7、長瀬町1、寄居町1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：6件、C：5件

368	飯能市	坂石	浅見茶屋のイワヒバ群落	A
369	小鹿野町	般若	御船観音のイワヒバ群落	A
370	秩父市	大滝	槇ノ沢のイワヒバ群落	B
371	長瀬町	井戸	岩畳対岸遊歩道のイワヒバ群落	B
372	飯能市	下名栗	有間溪谷のイワヒバ群落	B
373	飯能市	虎秀	中居のイワヒバ群落	B
374	秩父市	吉田阿熊	金岳のイワヒバ群落	B
375	寄居町	風布	釜伏山のイワヒバ群落	B
376	秩父市	吉田阿熊	てんぐ岩のイワヒバ群落	C
377	秩父市	大滝	大洞林道のイワヒバ群落	C
378	秩父市	中津川	奥秩父林道のイワヒバ群落	C
379	秩父市	中津川	中津川林道のイワヒバ群落	C
380	秩父市	中津川	中津峡のイワヒバ群落	C

【特記事項】 採取の被害が心配される。秩父市の群落2件は国立公園特別地域、3件は国立公園

普通地域、1件は県天然記念物「てんぐ岩のムカデラン」指定地内、長瀬町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

ウチヨウラン群落 (42018)

【県内の分布】 山地に分布。明るくやや湿った岩場に成立する。

【選定基準】 A・B・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（小鹿野町）

【選定群落の評価】 S：1件、C：1件

【特記事項】 採取の被害が心配される。小鹿野町の群落1件は県自然環境保全地域特別地区に位置する。

ウラハグサ群落 (42019)

【県内の分布】 低山から山地に分布。石灰岩地の傾斜のある林床や、長瀬を中心とした溪谷の岩上などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 6件（小鹿野町3、横瀬町1、秩父市2、長瀬町1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：5件

383	小鹿野町	河原沢	二子山のウラハグサ群落	B
384	小鹿野町	三山	白石山のウラハグサ群落	C
385	横瀬町	横瀬	武甲山のウラハグサ群落	C
386	秩父市中津川・小鹿野町両神薄・河原沢		両神山のウラハグサ群落	C
387	秩父市	中津川	石灰沢のウラハグサ群落	C
388	長瀬町	長瀬	岩畳のウラハグサ群落	C

【特記事項】 秩父市の群落1件は国立公園普通地域、長瀬町の群落は国名勝・天然記念物指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。秩父市と小鹿野町にまたがる群落は国立公園特別地域に位置する。

クモイコザクラ群落 (42035)

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。湿った岩壁に成立する。

【選定基準】 A・B・C・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（秩父市）

【選定群落の評価】 B：2件、C：2件

【特記事項】 採取の被害が心配される。クモイコザクラの分布は、秩父山地のほか八ヶ岳、南アルプスなどに限られる。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、3件は国立公園特別地域に位置する。

コイワザクラ群落 (42038)

【県内の分布】 県内の分布は両神山周辺のみ。湿った岩壁に成立する。

【選定基準】 A・B・C・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（小鹿野町）

【選定群落の評価】 S：1件

【特記事項】 採取の被害が心配される。コイワザクラは関東から紀伊半島にかけて分布するが、県内の分布は限定的。小鹿野町の群落は県自然環境保全地域特別地区に位置する。

コタヌキラン群落 (42043)

【県内の分布】 県内では山地・亜高山の境界付近の限られた地域に分布。チャートの岩壁に成立する。

【選定基準】 A・B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（小鹿野町）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 コタヌキランは火山周辺の草地などに多く、本県では極めて稀。小鹿野町の群落は県自然環境保全地域特別地区に位置する。

ジンジソウ群落 (一)

【県内の分布】 低山から山地に分布。低山での分布は蛇紋岩地など限られる。湿った岩上に成立する。

【選定基準】 G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 12件（秩父市8、横瀬町1、小鹿野町2、寄居町1）

【選定群落の評価】 B：5件、C：7件

395	秩父市	三峰	竜門滝下石灰岩地のジンジソウ群落	B
396	秩父市	浦山	広河原谷のジンジソウ群落	B
397	秩父市	荒川上田野	安谷川のジンジソウ群落	B
398	秩父市	上影森	橋立川のジンジソウ群落	B
399	横瀬町	横瀬	大持沢のジンジソウ群落	B
400	秩父市	大滝	豆焼沢のジンジソウ群落	C
401	秩父市	大滝	大洞林道のジンジソウ群落	C
402	秩父市	中津川	中津川林道のジンジソウ群落	C
403	秩父市	荒川白久	谷津川上流のジンジソウ群落	C
404	小鹿野町	藤倉	長合沢のジンジソウ群落	C
405	寄居町	風布	釜伏山のジンジソウ群落	C
406	小鹿野町	両神薄	七滝沢のジンジソウ群落	C

【特記事項】 採取の被害が心配される。秩父市の群落2件は国立公園特別地域、3件は国立公園普通地域に位置する。

ダイヤモンドソウ群落 (42058)

【県内の分布】 山地から亜高山に分布。湿った岩上に成立する。山地では石灰岩地を中心に分布し、ウラボニタイプが多い。

【選定基準】 D・G

【群落重要度】

ウラボニダイヤモンドソウの多い石灰岩地の群落：II

通常のダイヤモンドソウが中心の非石灰岩地の群落：III

【関連群集】

【選定群落の件数】 19件（秩父市14、横瀬町1、小鹿野町4）

【選定群落の評価】 B：5件、C：14件

407	秩父市	大滝	お清平～芋ノ木ドッケのダイヤモンドソウ群落	B
408	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のダイヤモンドソウ群落	B
409	横瀬町	横瀬	武甲山のダイヤモンドソウ群落	B
410	小鹿野町	河原沢	二子山東岳のダイヤモンドソウ群落	B

411	小鹿野町	三山	白石山のダイヤモンドソウ群落	B
412	秩父市	大滝	武信白岩のダイヤモンドソウ群落	C
413	秩父市	中津川	梓白岩のダイヤモンドソウ群落	C
414	秩父市	浦山	冠石灰岩地のダイヤモンドソウ群落	C
415	秩父市	吉田石間	柴崎ロックのダイヤモンドソウ群落	C
416	秩父市	大滝	滝川・榎ノ沢のダイヤモンドソウ群落	C
417	秩父市	大滝	破風山のダイヤモンドソウ群落	C
418	秩父市	大滝	豆焼沢のダイヤモンドソウ群落	C
419	秩父市	中津川	中津川林道のダイヤモンドソウ群落	C
420	秩父市	荒川上田野	安谷川のダイヤモンドソウ群落	C
421	小鹿野町	両神小森	塩沢のダイヤモンドソウ群落	C
422	秩父市	中津川	三国尾根のダイヤモンドソウ群落	C
423	秩父市	中津川	信濃沢のダイヤモンドソウ群落	C
424	秩父市	中津川	大滑沢のダイヤモンドソウ群落	C
425	小鹿野町	河原沢	尾ノ内沢のダイヤモンドソウ群落	C

【特記事項】採取の被害が心配される。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、6件は国立公園特別地域、4件は国立公園普通地域、小鹿野町の群落1件は県自然環境保全地域特別地区に位置する。

ツメレンゲ群落 (42063)

【県内の分布】低山から山地に分布。乾燥した岩場や、時には法面などにも成立する。

【選定基準】D・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】5件（長瀬町1、秩父市3、皆野町1）

【選定群落の評価】B：4件、C：1件

426	長瀬町	井戸	岩畳対岸遊歩道のツメレンゲ群落	B
427	秩父市	大滝	大達原のツメレンゲ群落	B
428	秩父市	荒川贅川	町分のツメレンゲ群落	B
429	皆野町	野巻	桜ヶ谷のツメレンゲ群落	B
430	秩父市	吉田阿熊	金岳のツメレンゲ群落	C

【特記事項】採取の被害が心配される。長瀬町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

ノコギリシダ群落 (一)

【県内の分布】県内では最も温暖・湿潤な西部地域の低山に分布。滝の周辺や溪谷の岩壁に成立する。

【選定基準】B・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】2件（毛呂山町1、越生町1）

【選定群落の評価】B：2件

【特記事項】本県はノコギリシダの太平洋側での分布北限域に近く、重要な群落。毛呂山町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

ヒメシャジン群落 (一)

【県内の分布】山地から亜高山に分布。岩場や周辺の岩礫地などに成立する。

【選定基準】A・B・G

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】3件（秩父市）

【選定群落の評価】 C：3件

【特記事項】 秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、2件は国立公園普通地域に位置する。

ヒモカズラ群落 (42076)

【県内の分布】 亜高山に分布。乾燥したチャートの岩上に成立する。

【選定基準】 A・B・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件（秩父市2、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 C：3件

【特記事項】 採取の被害が心配される。秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、1件は国立公園特別地域、小鹿野町の群落は国立公園特別地域に位置する。

マツバラ群落 (42087)

【県内の分布】 丘陵から低山に分布。砂岩などの岩隙や、時には法面や地上にも成立することがある。

【選定基準】 B・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（秩父市1、入間市2、飯能市1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：2件

【特記事項】 採取の被害が心配される。都市部からも報告があるが、逸出の可能性はある。

ミヤマウラボシ群落 (42092)

【県内の分布】 亜高山に分布。岩場のやや湿った場所などに成立する。

【選定基準】 A

【群落重要度】 III

【関連群集】 エビゴケ-ミヤマウラボシ群集 *Bryoxyphio-Crypsinetum veitchii* Ohba 1973

【選定群落の件数】 5件（秩父市5、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 C：5件

443	秩父市中津川・小鹿野町両神薄・河原沢	両神山のミヤマウラボシ群落	C	
444	秩父市	大滝	武信白岩のミヤマウラボシ群落	C
445	秩父市	中津川	三国尾根のミヤマウラボシ群落	C
446	秩父市	大滝	赤沢山石灰岩地のミヤマウラボシ群落	C
447	秩父市	中津川	大ガマタ沢石灰岩地のミヤマウラボシ群落	C

【特記事項】 秩父市の群落1件は国立公園特別保護地区、2件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域、秩父市と小鹿野町にまたがる群落1件は国立公園特別地域に位置する。

ミョウギシダ群落 (42096)

【県内の分布】 山地に分布。石灰岩地や、溪谷沿いのチャートや石灰岩の岩場などに成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 4件（秩父市）

【選定群落の評価】 B：4件

【特記事項】 ミョウギシダは関東山地・静岡県・四国に隔離分布し、全国的にも希少な群落。秩父市の群落3件は国立公園特別地域、1件は国立公園普通地域に位置する。

ムカデラン群落 (42097)

【県内の分布】 低山に分布。日当りのよい岩上に成立する。

【選定基準】 B・G・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 ムカデラン群集 *Sarcanthes scolopendrifolii* Chichifu 1980

【選定群落の件数】 2件（皆野町1、秩父市1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 本県はムカデランの分布北限域に近く、重要な群落。秩父市の群落は県天然記念物「てんぐ岩のムカデラン」として保護されている。

ムギラン群落 (42098)

【県内の分布】 低山に分布。県内では蛇紋岩地の岩壁に成立する。

【選定基準】 B・G・H

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（寄居町）

【選定群落の評価】 S：1件

【特記事項】 ムギランは暖地に多く、他所では常緑樹林の樹木などにも成立する。

溪流辺草本群落 (43)



タヌキラン群落 (43005)

【県内の分布】 低山域に分布。川沿いの岩場の岩隙に成立する。

【選定基準】 B・C・D・G・H

【群落重要度】 I

【関連群集】 タヌキラン群集 *Caricetum podogynae* Ohba 1975

【選定群落の件数】 2件（秩父市1、長瀬町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 秩父盆地内の荒川沿いにも分布の記録がある。攪乱・遷移による減少が心配される。タヌキランは日本海側に多く、太平洋気候下の群落として貴重。長瀬町の群落は国名勝・天然記念物「長瀬」指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。

ヤシャゼンマイ群落 (43012)

【県内の分布】 低山域に分布。渓谷の岩場や周辺の林縁などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 1件（皆野町）

474	入間市	宮寺	狭山ヶ丘高校グラウンド脇水路のカワモズク類群落	C
475	朝霞市	岡	代官水のカワモズク類群落	C
476	富士見市	針ヶ谷	栗谷津公園のアオカワモズク群落	C
477	狭山市	柏原	智光山公園内水路のアオカワモズク群落	C
478	所沢市	三ヶ島	貯水池北小水路のチャイロカワモズク群落	C
479	毛呂山町	箕和田	箕和田湖下のチャイロカワモズク群落	C
480	三芳町	竹間沢	こぶしの里のカワモズク類群落	C

【特記事項】 単一種のみ確認されている群落は「(種名) 群落」と表記し、複数種が確認されている群落は総称として「カワモズク類群落」と表記した。水質変化・環境変化による減少が心配される。新座市の群落は特別緑地保全地区内、和光市の群落2件と富士見市の群落は市の公園内、入間市の群落1件はさいたま緑の森博物館エリア、朝霞市の群落は市天然記念物「湧水代官水」指定地内、狭山市の群落は市の公園内に位置する。リストは、絶滅危惧種となっていないアオカワモズク・チャイロカワモズクからなる群落だけを掲載した。

河川礫原草本群落 (45)



イヌハギ群落 (一)

【県内の分布】 低地から低山域の河川中流域に分布。砂質の河川敷や林縁などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件 (熊谷市1、坂戸市1、上里町1、本庄市1)

【選定群落の評価】 C：4件

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・遷移による減少が心配される。熊谷市の群落は県営荒川大麻生公園内に位置し、毎年火入れが行われ礫河原の環境が維持されている。

カワラアカザ群落 (一)

【県内の分布】 低地の河川中流域に分布。礫質の河川敷などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 県立自然の博物館には長瀬町・熊谷市・羽生市産などのカワラアカザ標本が残されており、今回報告はないが荒川や利根川の中流域に本群落が分布する可能性がある。

カワラケツメイ群落 (一)

【県内の分布】 低地から低山に分布。低地の河川敷や丘陵の草地、路傍などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 II

【関連群集】 カラメドハギーカワラケツメイ群集 *Lespedeza juncea*-*Cassietum* Okuda 1978

【選定群落の件数】 2件（上尾市1、宮代町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

485	上尾市	壺丁目北	上尾道路脇草地のカワラケツメイ群落	A
486	宮代町	和戸	愛宕神社東線路脇のカワラケツメイ群落	B

【特記事項】 草地管理の変化や遷移による減少、採取の被害も心配される。

カワラサイコ群落（一）

【県内の分布】 低地の河川中流域に分布。日当りのよい河川敷などの砂礫地に成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【関連群集】 カワラヨモギーカワラサイコ群集 *Artemisio-Potentilletum chinensis* Miyawaki et Okuda 1972

【選定群落の件数】 6件（熊谷市2、上里町2、本庄市1、坂戸市1、加須市1）

【選定群落の評価】 B：4件、C：2件

487	熊谷市	広瀬・押切	広瀬河原のカワラサイコ群落	B
488	上里町忍保～本庄市山王堂		神流川・利根川河川敷のカワラサイコ群落	B
489	熊谷市	河原町	荒川右岸河川敷のカワラサイコ群落	B
490	上里町	長浜・五明	神流川河川敷のカワラサイコ群落	B
491	坂戸市	浅羽	浅羽ビオトープ観察園路のカワラサイコ群落	C
492	加須市	麦倉	埼玉大橋付近河川敷のカワラサイコ群落	C

【特記事項】 草地管理の変化や、堤防工事・遷移による減少が心配される。熊谷市の群落は県営荒川大麻生公園内に位置し、毎年火入れが行われ礫河原の環境が維持されている。坂戸市の群落は市の自然公園内に位置する。

カワラナデシコ群落（一）

【県内の分布】 低地の荒川中流域に分布。日当りのよい砂礫質の河川敷に成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（熊谷市）

【選定群落の評価】 S：1件

【特記事項】 草地管理の変化や堤防工事・遷移による減少、採取の被害も心配される。熊谷市の群落は県営荒川大麻生公園内に位置し、毎年火入れが行われ礫河原の環境が維持されている。低地から亜高山の草地に成立するカワラナデシコ群落は、「山地高茎草原（26）」のカワラナデシコ群落（26010）参照。

カワラニガナ群落（一）

【県内の分布】 低地の荒川中流域に分布。日当りのよい砂礫質の河川敷に成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 2件（秩父市1、熊谷市1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 堤防工事・遷移による減少が心配される。過去には越辺川沿いからも報告がある。

カワラヨモギ群落 (45003)

【県内の分布】 低地から亜高山に分布。日当りのよい砂礫地や岩場などに成立する。

【選定基準】 B・D・G

【群落重要度】 I

【関連群集】 カワラヨモギ-カワラサイコ群集 *Artemisio-Potentilletum chinensis* Miyawaki et Okuda 1972

【選定群落の件数】 2件（熊谷市1、秩父市1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 草地管理の変化や、遷移による減少が心配される。熊谷市の群落は県営荒川大麻生公園内に位置し、毎年火入れが行われ礫河原の環境が維持されている。秩父市の群落1件は国立公園特別地域に位置する。

路傍・林縁草本群落 (46)



アズマイチゲ群落 (一)

【県内の分布】 丘陵から低山に分布。北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】 D・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 15件（横瀬町3、ときがわ町1、皆野町1、神川町1、寄居町1、飯能市3、入間市2、小鹿野町2、秩父市1）

【選定群落の評価】 A：7件、B：7件、C：1件

498	横瀬町	横瀬	妻坂峠下のアズマイチゲ群落	A
499	横瀬町	芦ヶ久保	旧正丸峠下のアズマイチゲ群落	A
500	ときがわ町	大野	刈場坂峠下のアズマイチゲ群落	A
501	横瀬町	芦ヶ久保	県民の森のアズマイチゲ群落	A
502	皆野町	三沢	三沢川左岸のアズマイチゲ群落	A
503	神川町	矢納	奈良尾峠下のアズマイチゲ群落	A
504	寄居町	風布	釜伏峠東のアズマイチゲ群落	A
505	飯能市	上直竹上分	黒指のアズマイチゲ群落	B
506	飯能市	唐竹	白髭神社南のアズマイチゲ群落	B
507	飯能市	原市場	天神峠下のアズマイチゲ群落	B
508	入間市	新久	金子坂東のアズマイチゲ群落	B
509	入間市	仏子	大沢口のアズマイチゲ群落	B
510	小鹿野町	藤倉	白石山のアズマイチゲ群落	B

511	小鹿野町	藤倉	長合沢のアズマイチゲ群落	B
512	秩父市	吉田久長	白砂公園のアズマイチゲ群落	C

【特記事項】 林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。横瀬町の群落1件は埼玉県県民の森内、秩父市の群落は県自然環境保全地域特別地区内に位置する。

アマナ群落 (46001)

【県内の分布】 低地から低山に分布。河川沿いの湿った草地や、北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 11件（小川町1、毛呂山町1、入間市2、さいたま市3、上尾市1、東松山市1、皆野町1、川越市1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：6件、C：3件

513	小川町	腰越	槻川南のアマナ群落	A
514	毛呂山町	平山	毛呂川右岸のアマナ群落	A
515	入間市	野田	谷田の泉のアマナ群落	B
516	さいたま市	桜区西堀	田島ヶ原のアマナ群落	B
517	上尾市	平方	丸山公園のアマナ群落	B
518	さいたま市	岩槻区南平野	元荒川左岸のアマナ群落	B
519	東松山市	松山	中原のアマナ群落	B
520	皆野町	三沢	小平のアマナ群落	B
521	さいたま市	桜区下大久保	秋ヶ瀬公園のアマナ群落	C
522	入間市	牛沢町	牛沢のアマナ群落	C
523	川越市	池辺	池辺公園のアマナ群落	C

【特記事項】 林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。さいたま市の群落1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。入間市の群落2件は保全地内、さいたま市の群落1件は県営秋ヶ瀬公園内、上尾市・川越市の群落はそれぞれ市の公園内に位置する。

イカリソウ群落 (一)

【県内の分布】 台地・丘陵から低山に分布。日当りのよい落葉広葉樹林の林床などに成立する。

【選定基準】 G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 10件（秩父市2、小鹿野町1、寄居町2、飯能市1、さいたま市1、長瀬町2、神川町1）

【選定群落の評価】 B：4件、C：6件

524	秩父市	荒川日野	武州日野駅南のイカリソウ群落	B
525	秩父市	久那	久昌寺のイカリソウ群落	B
526	小鹿野町	藤倉	白石山のイカリソウ群落	B
527	寄居町	折原	運動公園北斜面のイカリソウ群落	B
528	飯能市	岩渕	岩渕のイカリソウ群落	C
529	さいたま市	見沼区御蔵	御蔵のイカリソウ群落	C
530	長瀬町	井戸	法善寺北のイカリソウ群落	C
531	神川町	矢納	神山のイカリソウ群落	C
532	寄居町	風布	釜伏峠東のイカリソウ群落	C
533	長瀬町	野上下郷	間瀬峠のイカリソウ群落	C

【特記事項】 林床植生管理の変化、遷移による減少や、採取の被害も心配される。飯能市・さいたま市の群落は、市の天然記念物として保護されている。寄居町の群落は町の運動公園内、長瀨町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

イチリンソウ群落 (46002)

【県内の分布】 台地・丘陵から低山に分布。北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】 D・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 13件（飯能市3、毛呂山町1、川口市1、所沢市1、新座市2、小川町1、入間市2、越生町1、長瀨町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件、C：11件

534	飯能市	唐竹	白鬚神社北のイチリンソウ群落	A
535	毛呂山町	平山	毛呂川右岸のイチリンソウ群落	B
536	川口市	安行原	赤堀用水斜面林のイチリンソウ群落	C
537	所沢市	上安松	測の森のイチリンソウ群落	C
538	新座市	栄	妙音沢のイチリンソウ群落	C
539	新座市	新塚	市場坂のイチリンソウ群落	C
540	小川町	下里	八宮神社北のイチリンソウ群落	C
541	入間市	扇町屋	霞川沿い斜面林のイチリンソウ群落	C
542	入間市	黒須	入間市駅北のイチリンソウ群落	C
543	飯能市	落合	薬師堂のイチリンソウ群落	C
544	飯能市	阿須	富岡入間線南のイチリンソウ群落	C
545	越生町	龍ヶ谷	梅本のイチリンソウ群落	C
546	長瀨町	井戸	法善寺北のイチリンソウ群落	C

【特記事項】 林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。川口市の群落は市天然記念物「安行原イチリンソウ自生地」として保護されている。新座市の群落1件は特別緑地保全地区内に位置し、新座市の別の1件と小川町の群落では保全活動が行われている。長瀨町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

カタクリ群落 (一)

【県内の分布】 台地・丘陵から低山に分布。北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】 D・E・G・I

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 47件（横瀬町7、入間市3、秩父市5、小川町3、神川町2、飯能市6、小鹿野町3、寄居町6、北本市1、新座市3、長瀨町2、皆野町2、さいたま市1、所沢市2、東秩父村1、東松山市1、狭山市1）

【選定群落の評価】 A：3件、B：18件、C：26件

547	横瀬町	横瀬	妻坂峠～武川岳のカタクリ群落	A
548	横瀬町	横瀬	鳶岩山のカタクリ群落	A
549	横瀬町	芦ヶ久保	旧正丸峠下のカタクリ群落	A
550	入間市	牛沢町	牛沢のカタクリ群落	B
551	秩父市	吉田久長	白砂公園のカタクリ群落	B
552	秩父市	荒川日野	弟富士のカタクリ群落	B
553	横瀬町	芦ヶ久保	日向山登山口のカタクリ群落	B
554	横瀬町	芦ヶ久保	県民の森のカタクリ群落	B

555	小川町	下里	西光寺北のカタクリ群落	B
556	小川町	下里	八宮神社北のカタクリ群落	B
557	神川町	上阿久原	八王子神社下のカタクリ群落	B
558	秩父市上影森・横瀬町横瀬		武甲山のカタクリ群落	B
559	秩父市	久那	久昌寺のカタクリ群落	B
560	飯能市	阿須	富岡入間線南のカタクリ群落	B
561	飯能市	下名栗	白谷沢のカタクリ群落	B
562	飯能市	上名栗	ウノタワ下のカタクリ群落	B
563	横瀬町	横瀬	二子山西のカタクリ群落	B
564	小鹿野町	藤倉	白石山のカタクリ群落	B
565	小鹿野町	藤倉	長合沢のカタクリ群落	B
566	小川町	腰越	腰越のカタクリ群落	B
567	寄居町	風布	釜伏峠東のカタクリ群落	B
568	北本市	高尾	高尾のカタクリ群落	C
569	新座市	栄	妙音沢のカタクリ群落	C
570	長瀨町	岩田	下郷のカタクリ群落	C
571	寄居町	風布	日本の里のカタクリ群落	C
572	寄居町	立原	鉢形城下のカタクリ群落	C
573	皆野町	金沢	金沢浦山のカタクリ群落	C
574	さいたま市	岩槻区平林寺	平林寺跡西のカタクリ群落	C
575	所沢市	城	滝の城跡のカタクリ群落	C
576	入間市	新久	金子坂東のカタクリ群落	C
577	飯能市	落合	薬師堂のカタクリ群落	C
578	飯能市	上直竹上分	黒指のカタクリ群落	C
579	飯能市	下赤工	中自治会館横のカタクリ群落	C
580	神川町	矢納	奈良尾峠下のカタクリ群落	C
581	寄居町	金尾	金尾のカタクリ群落	C
582	寄居町	折原	運動公園北斜面のカタクリ群落	C
583	皆野町	三沢	三沢川左岸のカタクリ群落	C
584	小鹿野町	河原沢	二子山又峠のカタクリ群落	C
585	東秩父村	皆谷	観音山麓のカタクリ群落	C
586	東松山市	西新宿	西新宿のカタクリ群落	C
587	入間市宮寺・所沢市堀之内		狭山丘陵北麓のカタクリ群落	C
588	狭山市	入間川	稲荷山公園北斜面のカタクリ群落	C
589	新座市	野寺	野寺のカタクリ群落	C
590	新座市	新塚	市場坂のカタクリ群落	C
591	秩父市	三峰	三峰神社北のカタクリ群落	C
592	長瀨町	井戸	法善寺北のカタクリ群落	C
593	寄居町	鉢形	鉢形城跡のカタクリ群落	C

【特記事項】 秩父山地の群落では、シカの食害を受けている可能性がある。林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。自治体の保全地となっている群落や、保全活動が行われている群落が数多くある。他の絶滅危惧種が出現することも多く、重要な群落。

キツネノカミソリ群落（一）

【県内の分布】 台地・丘陵から山地に分布。やや湿った落葉広葉樹林の林床などに成立する。

【選定基準】 D・E・G

【群落重要度】 Ⅲ

【選定群落の件数】 15 件（行田市 1、毛呂山町 1、横瀬町 2、小鹿野町 2、長瀨町 2、越生町 1、

小川町1、寄居町2、新座市1、川島町1、上尾市1、滑川町1)

【選定群落の評価】 B：6件、C：9件

594	行田市	埼玉	愛宕山古墳のキツネノカミソリ群落	B
595	毛呂山町	平山	毛呂川右岸のキツネノカミソリ群落	B
596	横瀬町	横瀬	妻坂峠のキツネノカミソリ群落	B
597	横瀬町	横瀬	武甲山麓のキツネノカミソリ群落	B
598	小鹿野町	三山	白石山のキツネノカミソリ群落	B
599	小鹿野町	藤倉	長合沢のキツネノカミソリ群落	B
600	長瀨町	風布	長瀨風布のキツネノカミソリ群落	C
601	越生町	黒山	黒山のキツネノカミソリ群落	C
602	小川町	下里	八宮神社北のキツネノカミソリ群落	C
603	寄居町	風布	釜伏峠東のキツネノカミソリ群落	C
604	寄居町	岩田	風布川沿いのキツネノカミソリ群落	C
605	新座市	新塚	市場坂のキツネノカミソリ群落	C
606	川島町出丸中郷・上尾市平方		三又沼ビオトープのキツネノカミソリ群落	C
607	長瀨町	井戸	法善寺北のキツネノカミソリ群落	C
608	滑川町	羽尾	市野川のキツネノカミソリ群落	C

【特記事項】 林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。行田市の群落は国特別史跡「埼玉古墳群」内、長瀨町の群落2件は県立自然公園特別地域、川島町・上尾市の群落は保全地内に位置する。小川町・新座市の群落では保全活動が行われている。

キバナノアマナ群落（一）

【県内の分布】 丘陵から山地に分布。川沿いの湿った草地や、北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 7件（横瀬町2、秩父市1、小川町1、ときがわ町1、毛呂山町1、飯能市1）

【選定群落の評価】 A：2件、B：4件、C：1件

609	横瀬町	芦ヶ久保	県民の森のキバナノアマナ群落	A
610	秩父市	上影森	橋立川上流のキバナノアマナ群落	A
611	小川町	下里	八宮神社北のキバナノアマナ群落	B
612	ときがわ町	大野	刈場坂峠下のキバナノアマナ群落	B
613	毛呂山町	平山	毛呂川右岸のキバナノアマナ群落	B
614	横瀬町	芦ヶ久保	芦ヶ久保駅斜面のキバナノアマナ群落	B
615	飯能市	唐竹	白髭神社南のキバナノアマナ群落	C

【特記事項】 秩父山地の群落では、シカの食害を受けている可能性がある。林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。横瀬町の群落1件は埼玉県県民の森内に位置し、小川町の群落では保全活動が行われている。

クマガイソウ群落（一）

【県内の分布】 台地周辺に分布。やや湿った林床などに成立する。

【選定基準】 B・E・G・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 1件（さいたま市）

【選定群落の評価】 A：1件

【特記事項】 県立自然の博物館には、大宮台地以外に武蔵野台地周辺産のクマガイソウ標本も残

されている。さいたま市の群落は、市天然記念物「御蔵のクマガイソウ」として保護されている。

サイハイラン群落（一）

【県内の分布】 台地・丘陵から低山に分布。あまり乾燥しない林床などに成立する。

【選定基準】 G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 7件（入間市1、寄居町1、所沢市2、鳩山町2、滑川町1）

【選定群落の評価】 B：2件、C：5件

617	入間市	宮寺	西久保湿地奥のサイハイラン群落	B
618	寄居町	風布	浦高100年の森のサイハイラン群落	B
619	所沢市	久米	鳩峰八幡神社のサイハイラン群落	C
620	所沢市	三ヶ島	早稲田大学東のサイハイラン群落	C
621	鳩山町	石坂	石坂の森のサイハイラン群落	C
622	鳩山町	竹本	旧玉川工業高校南のサイハイラン群落	C
623	滑川町	土塩	森林公園のサイハイラン群落	C

【特記事項】 入間市の群落はさいたま緑の森博物館エリア、所沢市の群落1件はトラスト地内に位置する。鳩山町の群落1件と滑川町の群落は、それぞれ町および国営の森林公園内に位置する。

シラン群落（46009）

【県内の分布】 低山域に分布。河川中流の岩場にできた水辺に成立する。

【選定基準】 B・D・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（長瀬町）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件

【特記事項】 遷移・乾燥化・攪乱による減少や、採取の被害も心配される。長瀬町の群落1件は国名勝・天然記念物「長瀬」指定地内および県立自然公園特別地域、1件は県立自然公園特別地域に位置する。

ステゴビル群落（一）

【県内の分布】 台地・丘陵域から低山に分布。川沿いなどの湿った林内や草地、路傍に成立する。

【選定基準】 B・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 7件（毛呂山町1、秩父市3、越生町1、飯能市1、坂戸市1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：4件、C：2件

626	毛呂山町	平山	毛呂川右岸のステゴビル群落	A
627	秩父市	久那	久那のステゴビル	B
628	越生町	堂山	越生梅林のステゴビル群落	B
629	飯能市	上名栗	キャンプ場対岸のステゴビル群落	B
630	秩父市	荒川上田野	十二天水対岸のステゴビル群落	B
631	坂戸市	新堀	金山神社のステゴビル群落	C
632	秩父市	上町	滝坂のステゴビル群落	C

【特記事項】 林床・草地管理の変化、遷移・乾燥化による減少が心配される。秩父市の群落の1つと坂戸市の群落は県の天然記念物「久那のステゴビル」および「ステゴビル」、秩父市の群落のもう1つは市の天然記念物「滝坂のステゴビル」として保護されている。越生町の群落は県名勝「越生の梅林」内に位置する。

セツブンソウ群落（一）

【県内の分布】丘陵から山地に分布。溪谷や北向き斜面下部などの湿った落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】D・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】14件（小鹿野町2、秩父市7、横瀬町3、東秩父村1、小川町1）

【選定群落の評価】B：1件、C：13件

【特記事項】遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。小鹿野町の群落1件は町で保護・整備・公開されている。横瀬町の群落1件と小川町の群落では保全活動が行われている。秩父市の群落1件は国立公園普通地域、1件は県自然環境保全地域特別地区に位置する。

ヒロハノアマナ群落（一）

【県内の分布】低地から丘陵に分布。河川沿いの湿った草地や、北向き斜面下部などの落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】B・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】5件（さいたま市1、入間市3、飯能市1）

【選定群落の評価】B：2件、C：3件

【特記事項】林床植生管理の変化、遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。さいたま市の群落は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。入間市の群落は市の保全地内に位置する。

ヒガンバナ群落（一）

【県内の分布】低地から低山域に分布。川沿いの土手や林床などに成立する。

【選定基準】E・I

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】8件（日高市1、幸手市1、川越市1、入間市1、飯能市1、本庄市1、上里町1、東秩父村1、小川町1）

【選定群落の評価】C：8件

652	日高市	高麗本郷	巾着田のヒガンバナ群落	C
653	幸手市	内国府間	権現堂堤のヒガンバナ群落	C
654	川越市	平塚新田	入間川左岸のヒガンバナ群落	C
655	入間市	仏子・春日町	入間川河川敷のヒガンバナ群落	C
656	飯能市	阿須	加治中学校下のヒガンバナ群落	C
657	本庄市	児玉町秋山	水押川のヒガンバナ群落	C
658	上里町	黛	烏川河川敷のヒガンバナ群落	C
659	東秩父村安戸・小川町腰越		槻川のヒガンバナ群落	C

【特記事項】日高市・幸手市の群落では、周辺整備・公開が行われている。

ヒメザゼンソウ群落（46015）

【県内の分布】丘陵に分布。湿った林縁に成立する。

【選定基準】C・G

【群落重要度】Ⅰ

【選定群落の件数】1件（入間市）

【選定群落の評価】B：1件

【特記事項】遷移・乾燥化による減少が心配される。入間市の群落は、さいたま緑の森博物館エリアに位置する。

フクジュソウ群落 (46016)

【県内の分布】山地に分布。溪谷や北向き斜面下部などの湿った落葉広葉樹林の林床に、春季に成立する。

【選定基準】B・G・I

【群落重要度】Ⅱ

【選定群落の件数】7件（秩父市3、小鹿野町4）

【選定群落の評価】A：1件、B：4件、C：2件

【特記事項】遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。小鹿野町の群落3件は県天然記念物「両神のフクジュソウ群落」、秩父市の群落1件は市天然記念物「浦山のフクジュソウ群落」として保護されている。

ヤマブキシソウ群落 (46021)

【県内の分布】丘陵域から低山に分布。川沿いや北斜面などのやや湿った林内、林縁などに成立する。

【選定基準】G

【群落重要度】Ⅲ

【選定群落の件数】10件（秩父市2、神川町2、長瀨町1、入間市1、飯能市2、皆野町2）

【選定群落の評価】B：2件、C：8件

668	秩父市	荒川上田野	若御子神社のヤマブキシソウ群落	B
669	神川町	矢納	城峰山北斜面のヤマブキシソウ群落	B
670	長瀨町	風布	長瀨風布のヤマブキシソウ群落	C
671	入間市	仏子	入間川段丘斜面のヤマブキシソウ群落	C
672	飯能市	唐竹	白髭神社北のヤマブキシソウ群落	C
673	飯能市	下名栗	諏訪神社のヤマブキシソウ群落	C
674	秩父市	上影森	橋立川上流のヤマブキシソウ群落	C
675	神川町	矢納	奈良尾峠下のヤマブキシソウ群落	C
676	皆野町	大瀨	前原のヤマブキシソウ群落	C
677	皆野町	三沢	三沢川左岸のヤマブキシソウ群落	C

【特記事項】遷移・乾燥化による減少や、採取の被害も心配される。長瀨町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

ススキ・シバ草原 (47)



クチナシグサ群落（一）

【県内の分布】 台地・丘陵に分布。やや乾燥した明るい落葉広葉樹林の林床、林縁などに成立する。

【選定基準】 G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 9件（飯能市1、伊奈町1、狭山市2、鶴ヶ島市1、所沢市2、川越市1、入間市1）

【選定群落の評価】 B：2件、C：7件

【特記事項】 草地管理の変化や、遷移による減少が心配される。狭山市の群落1件は市の智光山公園内、別の1件はトラスト地内、鶴ヶ島市の群落は市の緑地公園内、所沢市の群落1件は県ふるさと緑の景観地内、川越市の群落は市の森林公園計画地内、入間市の群落はさいたま緑の森博物館エリアに位置する。

スズサイコ群落（一）

【県内の分布】

【選定基準】 G・I

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 3件（皆野町1、秩父市1、長瀨町1、小鹿野町1）

【選定群落の評価】 B：2件、C：1件

【特記事項】 草地管理の変化や、遷移による減少が心配される。皆野町・秩父市の群落は県立自然公園特別地域および美の山公園内、長瀨町の群落は国名勝・天然記念物「長瀨」指定地内および県立自然公園特別地域に位置する。

ススキ群落（47007）

【県内の分布】 低地から山地まで分布。林縁や明るい林内、攪乱後の開放地などに成立する。茅場として維持・利用されてきた二次草地は、現在は大きく減少している。

【選定基準】 F・I

【群落重要度】 II

【関連群集】 トダシバーススキ群団 *Arundinello-Miscanthion sinensis* Suz.-Tok. et Abe 1959 ex Sukanuma 1970

【選定群落の件数】 7件（秩父市1、東秩父村2、皆野町1、ときがわ町1、飯能市2、嵐山町1、長瀨町1）

【選定群落の評価】 A：4件、B：2件、C：1件

690	皆野町皆野・秩父市黒谷	養山のススキ群落	A	
691	東秩父村坂本・皆野町三沢	秩父高原牧場のススキ群落	A	
692	ときがわ町大野・東秩父村白石	堂平山のススキ群落	A	
693	飯能市	長沢	八徳のススキ群落	A
694	飯能市	飯能	天覧入のススキ群落	B
695	嵐山町	鎌形	嵐山溪谷与謝野晶子の歌碑付近のススキ群落	B
696	長瀨町	長瀨	宝登山のススキ群落	C

【特記事項】 草地管理の変化や、遷移による減少が心配される。多くの希少種の生育・生息環境となっており、重要な群落。秩父市の群落は県立自然公園特別地域および美の山公園内、東秩父村・皆野町の群落は秩父高原牧場内に位置する。飯能市の群落1件は、周辺一帯で保全活動が行われている。長瀨町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

セイタカヨシ群落 (一)

【県内の分布】 低地から台地域に分布。やや乾燥した河川敷や路傍などに成立する。

【選定基準】 B・I

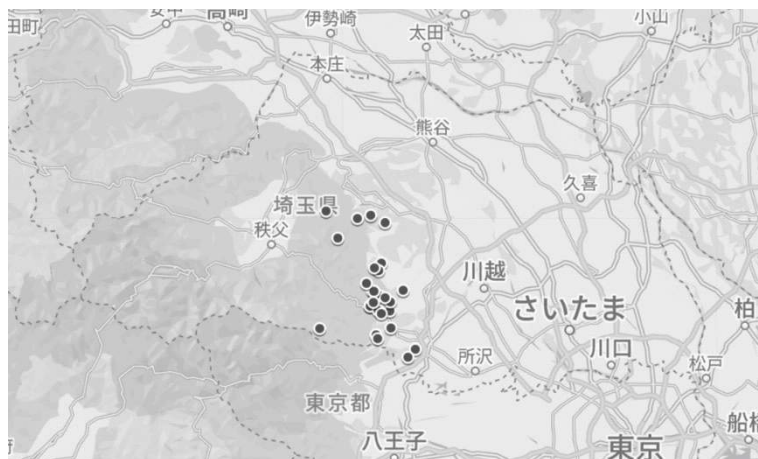
【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件（さいたま市2、幸手市1）

【選定群落の評価】 B：1件、C：2件

【特記事項】 草地管理の変化や、遷移による減少が心配される。さいたま市の群落1件は市天然記念物「セイコノヨシ自生地」として保護されている。

シダ草原 (48)



ウラジロ群落 (48001)

【県内の分布】 温暖な西部地域の低山に分布。やや乾燥した林床や路傍に成立する。

【選定基準】 C・G・I

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 17件（飯能市3、越生町2、小川町1、ときがわ町1、入間市2、日高市3、東秩父村1、毛呂山町4）

【選定群落の評価】 B：3件、C：14件

700	飯能市	虎秀	深沢のウラジロ群落	B
701	越生町	上野	虚空蔵尊周辺のウラジロ群落	B
702	小川町	上古寺	滝ノ入奥のウラジロ群落	B
703	ときがわ町	田黒	道元平のウラジロ群落	C
704	入間市	仏子	大沢口南のウラジロ群落	C
705	入間市	上谷ヶ貫	要害沢源流稜線下のウラジロ群落	C
706	飯能市	菊生	柏木山下のウラジロ群落	C
707	飯能市	下名栗	河又・岩茸山間登山道のウラジロ群落	C
708	日高市	高麗本郷	日和田山のウラジロ群落	C
709	日高市	北平沢	山口のウラジロ群落	C
710	日高市	横手	関ノ入のウラジロ群落	C
711	越生町	越生	大高取山のウラジロ群落	C
712	東秩父村	御堂	観音山のウラジロ群落	C
713	毛呂山町	権現堂	鎌北湖南のウラジロ群落	C
714	毛呂山町	宿谷	宿谷の滝上のウラジロ群落	C
715	毛呂山町	大谷木	大谷木北のウラジロ群落	C
716	毛呂山町	滝ノ入	中在家南のウラジロ群落	C

【特記事項】 ウラジロの分布は東北南部以南であり、分布北限域に近い。ときがわ町の群落は県天然記念物「道元平ウラジロ群落」および県自然環境保全地域として保護されている。毛呂山町の群落4件は県立自然公園特別地域に位置する。

オオバノハチジョウシダ群落（一）

【県内の分布】 温暖な西部地域の低山に分布。沢沿いなどの林内に成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（毛呂山町）

【選定群落の評価】 B：1件、C：1件

【特記事項】 毛呂山町の群落2件は県立自然公園特別地域に位置する。

コシダ群落（一）

【県内の分布】 温暖な西部地域の低山に分布。やや乾燥した林床や路傍、伐採跡地などに成立する。

【選定基準】 B

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 5件（越生町1、飯能市1、日高市1、小川町1、毛呂山町1）

【選定群落の評価】 C：5件

【特記事項】 コシダの分布は東北南部以南であり、分布北限域に近い。越生町の群落は県天然記念物「大高取山のコシダ群落」として保護されている。小川町の群落は町史跡「青山城跡」指定地内、毛呂山町の群落は県立自然公園特別地域に位置する。

コモチシダ群落（一）

【県内の分布】 丘陵から低山に分布。川に近い湿った林内や林縁に成立する。

【選定基準】 B

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（坂戸市1、ときがわ町1）

【選定群落の評価】 B：2件

【特記事項】 コモチシダの分布は東北南部以南であり、内陸では分布北限域に近い。坂戸市の群落は、周辺一帯で保全活動が行われている。

ナチクジャク群落（一）

【県内の分布】 低山に分布。沢に近い湿った林内などに成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（毛呂山町1、飯能市1）

【選定群落の評価】 B：2件

【特記事項】 毛呂山町に新たに規模の大きな群落が見つかった。本県はナチクジャクの分布北限域にあたり、重要な群落。毛呂山町の群落は県立自然公園特別地域に位置し、飯能市の群落は周辺一帯で保全活動が行われている。

水辺短命草本群落 (49)



コギシギシ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。河川敷内の湿地や水路の脇などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 8件（幸手市1、行田市1、深谷市1、加須市1、羽生市1、さいたま市1、越谷市1、鴻巣市1）

【選定群落の評価】 B：4件、C：4件

728	幸手市	権現堂	水神社東のコギシギシ群落	B
729	行田市	和田	和田神社北のコギシギシ群落	B
730	深谷市	中瀬	豊里グラウンド北のコギシギシ群落	B
731	加須市	北篠崎	浮野の里北方のコギシギシ群落	B
732	羽生市	三田ヶ谷	宝蔵寺沼のコギシギシ群落	C
733	さいたま市	岩槻区末田	須賀堰上流のコギシギシ群落	C
734	越谷市	相模町	瓦曾根溜井のコギシギシ群落	C
735	鴻巣市	安養寺	安養寺堰のコギシギシ群落	C

【特記事項】 乾燥化・遷移による減少が心配される。羽生市の群落は国天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」として保護されている。

シロガヤツリ群落 (一)

【県内の分布】 低地から台地・丘陵に分布。河川敷内の湿地や休耕田などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 4件（さいたま市1、松伏町1、越谷市1、滑川町1）

【選定群落の評価】 B：2件、C：2件

【特記事項】 草地管理の変化、乾燥化・遷移・堤防工事による減少が心配される。

又カボタデ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布する。河川敷内の湿地などに成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（三郷市1、越谷市1）

【選定群落の評価】 A：1件、C：1件

【特記事項】 草地管理の変化、堤防工事・遷移・乾燥化による減少が心配される。越谷市の群落

は大吉調節池内に位置する。

ノウルシ群落 (49003)

【県内の分布】 低地に分布する。河川敷内の湿地や休耕田などに成立する。

【選定基準】 D・E・I

【群落重要度】 Ⅲ

【関連群集】 ハナムグラ－オギ群集 *Galio dahurici-Miscanthetum sacchariflori* Okuda 1978

【選定群落の件数】 12件（越谷市1、加須市2、吉見町1、さいたま市4、春日部市1、桶川市1、八潮市1、吉川市1）

【選定群落の評価】 B：3件、C：9件

742	越谷市	増林	古利根川右岸のノウルシ群落	B
743	加須市	向古河	渡良瀬川河川敷のノウルシ群落	B
744	吉見町	古名新田	荒川河川敷のノウルシ群落	B
745	さいたま市	桜区西堀	田島ヶ原のノウルシ群落	C
746	加須市	北篠崎	浮野の里のノウルシ群落	C
747	さいたま市	桜区道場	道場休耕田のノウルシ群落	C
748	さいたま市	桜区塚本	塚本休耕田のノウルシ群落	C
749	さいたま市	岩槻区村国	元荒川河川敷のノウルシ群落	C
750	春日部市	飯沼	飯沼中学校横湿地のノウルシ群落	C
751	桶川市	川田谷	江川下流湿地のノウルシ群落	C
752	八潮市	八條	中川河川敷のノウルシ群落	C
753	吉川市	三輪野江・深井新田	江戸川河川敷のノウルシ群落	C

【特記事項】 草地管理の変化、堤防工事・遷移・乾燥化による減少が心配される。さいたま市の群落1件は国特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」として保護されている。加須市の群落はトラスト地内、桶川市の群落は保全地内に位置する。

ホソバイヌタデ群落 (一)

【県内の分布】 低地から低山に分布する。河川敷内の湿地や水田脇などに成立する。

【選定基準】 D

【群落重要度】 Ⅱ

【選定群落の件数】 4件（三郷市2、吉川市1、横瀬町1）

【選定群落の評価】 A：1件、B：1件、C：2件

【特記事項】 草地管理の変化、堤防工事・遷移・乾燥化による減少が心配される。吉川市の群落は市の公園内に位置する。

水田雑草群落 (51)



アギナシ群落 (一)

【県内の分布】 台地・丘陵に分布。水田脇や休耕田などに成立する。

【選定基準】 B・D・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 3件 (日高市1、入間市1、毛呂山町1)

【選定群落の評価】 S: 1件、B: 2件

【特記事項】 耕作放棄・乾燥化・遷移による減少が心配される。入間市の群落はさいたま緑の博物館エリアに位置する。

コイヌガラシ群落 (一)

【県内の分布】 低地に分布。池沼や水田、河川敷内の湿地などに成立する。

【選定基準】 D・I

【群落重要度】 III

【選定群落の件数】 10件 (羽生市1、川越市1、さいたま市2、幸手市2、行田市2、鴻巣市1、越谷市1、松伏町1)

【選定群落の評価】 B: 6件、C: 4件

761	羽生市	上新郷・上岩瀬	新郷周辺水田のコイヌガラシ群落	B
762	川越市	伊佐沼	伊佐沼のコイヌガラシ群落	B
763	さいたま市	岩槻区末田	須賀堰上流のコイヌガラシ群落	B
764	幸手市	上字和田	中川土手脇水田のコイヌガラシ群落	B
765	行田市	谷郷	総合公園東水田のコイヌガラシ群落	B
766	鴻巣市	北根	ふれあい公園南水田のコイヌガラシ群落	B
767	さいたま市	岩槻区村国	元荒川河川敷のコイヌガラシ群落	C
768	越谷市大吉～松伏町大川戸		古利根川のコイヌガラシ群落	C
769	幸手市	権現堂	水神社東のコイヌガラシ群落	C
770	行田市	斎条・和田	星川河川敷のコイヌガラシ群落	C

【特記事項】 耕作放棄・乾燥化・遷移・堤防工事による減少が心配される。

サウトウガラシ群落 (一)

【県内の分布】 低地から丘陵に分布。水田や休耕田などの湿地に成立する。

【選定基準】 B・G

【群落重要度】 I

【選定群落の件数】 0件

【特記事項】 過去には平野部の広い範囲に分布したが、近年はまとまった群落の報告がない。

ハタケテンツキ群落（一）

【県内の分布】 大宮台地周辺に分布。水田畦や休耕田などに成立する。

【選定基準】 B・G・I

【群落重要度】 II

【選定群落の件数】 2件（鴻巣市）

【選定群落の評価】 S：1件、A：1件

【特記事項】 乾燥化・遷移・耕作放棄による減少が心配される。

(6) 群落複合

「群落複合」は、隣接して存在する複数の群落をセットとして保護する必要がある、あるいはセットとしてしか保護することができない場所などを対象として、『植物群落レッドデータ・ブック』（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会，1996）から用いられたカテゴリーである。当初、埼玉県内からは22件が取り上げられた。その後、順次追加が行われ、前版には62件が掲載されていた。

前版に掲載された群落複合一覧

群落タイプ	群 落 名	選定基準
01 暖温帯森林植生	大高取山の暖地性シダ植物群落（越生町）	C・H
02 冷・暖温帯移行部森林植生	井戸山の森林（長瀨町・皆野町）	D・E・F・H・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	龍泉寺の社寺林（飯能市）	C・E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	中双里の森林（秩父市）	A・D・G
02 冷・暖温帯移行部森林植生	長尾根の中間温帯林（秩父市・小鹿野町）	D・E・H
02 冷・暖温帯移行部森林植生	狭山丘陵の雑木林（所沢市・入間市）	E・F・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	雑木林（三芳町）	E・F・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	多福寺の平地林（三芳町）	E・F・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	「三ヶ尻観音山」のユリ科多年草群落（熊谷市）	E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	石間の早春植物群落（秩父市）	E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	加治丘陵北縁の早春植物群落（飯能市）	E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	カタクリ・イカリソウの群落（飯能市）	E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	両神山山足部の早春植物群落（小鹿野町）	B・D・E
02 冷・暖温帯移行部森林植生	漆台の林床植物群落（和光市）	E・I
02 冷・暖温帯移行部森林植生	妙音沢斜面の早春植物群落（新座市）	E・I
03 冷温帯森林植生	ブナ峠の森林（ときがわ町）	D・E
03 冷温帯森林植生	和名倉山の森林植生（秩父市）	A
03 冷温帯森林植生	両神山の亜高山性植物群落（小鹿野町）	A
03 冷温帯森林植生	木賊山・甲武信岳・三宝山のシラビソ-オオシラビソ林（秩父市）	A・H
03 冷温帯森林植生	荒川源流域のブナ-イヌブナ林（秩父市）	A・H
06 河辺植生	長瀨の溪畔岩上植物群落（長瀨町・皆野町）	B・D・E・G・H
06 河辺植生	荒川源流域の溪畔林（秩父市）	A・B・D・E・H
06 河辺植生	荒川河川敷の河原植物群落（熊谷市）	E・G・I
06 河辺植生	原井の江袋沼及びその上流の季節草原（熊谷市）	E
06 河辺植生	星川斎条堰の河辺季節植物群落（行田市）	E・I
06 河辺植生	田島ヶ原サクラソウ自生地（さいたま市）	E・H・I
06 河辺植生	末田須賀堰冬期湿性植物群落（さいたま市）	E・H・I
06 河辺植生	渡良瀬川河川敷湿性植物群落（加須市）	B・F・H

群落タイプ	群落名	選定基準
06 河辺植生	葛西用水冬期湿性植物群落 (越谷市)	D・E・I
06 河辺植生	古利根堰冬季湿性植物群落 (越谷市・松伏町)	D・E・I
06 河辺植生	荒川河川敷上内間木地域の植物群落 (朝霞市)	E・I
06 河辺植生	江川下流域湿性植物群落 (桶川市・上尾市)	E・I
06 河辺植生	狐塚付近の中川河川敷植物群落 (久喜市)	D・E・G
06 河辺植生	江戸川河川敷植物群落 (吉川市・三郷市)	G・H
06 河辺植生	三ツ又沼及びその周辺湿地の植物群落 (川島町・上尾市・川越市)	E・I
11 中間・低層湿原植生	加須の浮野とその植物群落 (加須市)	B・D・E・G・H・I
11 中間・低層湿原植生	村国湿性草本植物群落 (さいたま市)	D・E・I
11 中間・低層湿原植生	赤坂沼湿性植物群落 (さいたま市)	D・E・I
11 中間・低層湿原植生	天覧入りの湿性植物群落 (飯能市)	E・F・I
11 中間・低層湿原植生	飯沼湿性植物群落 (春日部市)	D・E・I
11 中間・低層湿原植生	宝蔵寺沼ムジナモ自生地の植物群落 (羽生市)	B・D・E・G・H・I
11 中間・低層湿原植生	大谷戸湿地の植物群落 (入間市)	E・F・I
11 中間・低層湿原植生	西久保湿地の植物群落 (入間市)	E・F・I
11 中間・低層湿原植生	宝泉池周辺の湿性植物群落 (久喜市)	E・F・G・I
11 中間・低層湿原植生	高尾宮岡の景観地 (北本市)	E
12 水生植生	黒浜沼湿性植物群落 (蓮田市)	E・G
12 水生植生	元荒川水源域の水生植物群落 (熊谷市)	D・E・I
12 水生植生	荒川旧流路の水生植物群落 (鴻巣市・北本市・吉見町・桶川市)	E・I
15 石灰岩植生	武甲山石灰岩地の森林 (秩父市)	A・B・D・G・H
15 石灰岩植生	蟬指石灰岩地の森林 (飯能市)	B・D・G・H
15 石灰岩植生	二子山石灰岩地の森林 (小鹿野町)	A・B・D・G・H
15 石灰岩植生	妙法岳石灰岩地の森林 (秩父市)	A・B・D
15 石灰岩植生	豆焼沢石灰岩地の植物群落 (秩父市)	A・B・D・H
15 石灰岩植生	三国尾根梓白岩石灰岩地の植物群落 (秩父市)	B・D・G
15 石灰岩植生	十文字峠石灰岩地の植物群落 (秩父市)	B・D・G
15 石灰岩植生	中津川金山沢出合石灰岩壁の岩壁植生 (秩父市)	B・D・G
16 超塩基性岩植生	釜伏山の早春植物群落 (寄居町)	B・D
17 岩隙植生	両神山滝前のツツジ群落 (小鹿野町)	D
17 岩隙植生	両神山山稜岩場の岩壁着生植物群落 (小鹿野町・秩父市)	B・D
17 岩隙植生	城山下の高麗川崖の岩壁植生 (坂戸市)	D
17 岩隙植生	獅子ヶ滝の暖地性シダ植物群落 (毛呂山町)	C・H
17 岩隙植生	黒山の特殊植物群落 (越生町)	B・C・H

今回は、保護上重要な群落として抽出された計 1869 件のデータをもとに、5 件以上の群落が集まっている場所を抽出したところ、60 か所が該当した。重要な植物群落がまとまって存在している場所であるため、「埼玉県植物群落ホットスポット」として掲載する。

埼玉県植物群落ホットスポット

	名称	市町村	掲載された群落タイプ	前版掲載	
1	亜高山	甲武信ヶ岳	秩父市	亜寒帯森林植生	あり
2	亜高山	木賊山	秩父市	亜寒帯森林植生	あり
3	亜高山	十文字峠	秩父市	亜寒帯森林植生	新規
4	亜高山	三国尾根	秩父市	亜寒帯森林植生	新規
5	亜高山	槇ノ沢	秩父市	岩隙植生	新規
6	亜高山	破風山	秩父市	風衝植生、亜寒帯森林植生	新規
7	亜高山	雁峠	秩父市	草原植生、亜寒帯森林植生	新規
8	亜高山	芋ノ木ドッケ	秩父市	石灰岩地植生、亜寒帯森林植生	新規
9	亜高山	大ガマタ沢石灰岩地	秩父市	石灰岩地植生	あり
10	亜高山	梓白岩石灰岩地	秩父市	石灰岩地植生	あり
11	山地～亜高山	黒岩尾根	秩父市	冷温帯～亜寒帯森林植生	新規
12	山地～亜高山	和名倉山	秩父市	冷温帯～亜寒帯森林植生	あり
13	山地～亜高山	東京大学秩父演習林	秩父市	冷温帯～亜寒帯森林植生	新規
14	山地～亜高山	両神山	小鹿野町・秩父市	岩隙植生、冷温帯～亜寒帯森林植生	あり
15	山地～亜高山	赤沢岳	秩父市	石灰岩地植生、冷温帯～亜寒帯森林植生	新規
16	山地～亜高山	豆焼沢	秩父市	石灰岩地植生、岩隙植生	新規
17	山地～亜高山	前白岩石灰岩地	秩父市	石灰岩地植生	新規
18	山地	中双里	秩父市	冷・暖温帯移行部森林植生	あり
19	山地	城峰山	神川町・秩父市	冷・暖温帯移行部森林植生	新規
20	山地	釜伏山	寄居町	冷・暖温帯移行部森林植生	あり
21	山地	県民の森	横瀬町・秩父市	冷・暖温帯移行部森林植生	新規
22	山地	金岳	秩父市	岩隙植生、冷温帯～亜寒帯森林植生	新規
23	山地	長瀬岩畳	長瀬町・皆野町	岩隙植生	あり
24	山地	蓑山	皆野町・秩父市	草原植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
25	山地	白石山	小鹿野町	石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
26	山地	二子山	小鹿野町	石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	あり
27	山地	武甲山	横瀬町・秩父市	石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	あり
28	山地	仏石山	秩父市	石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
29	山地	四季萩石灰岩地	秩父市	石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
30	山地	龍ヶ谷石灰岩地	飯能市	石灰岩地植生、暖温帯森林植生	新規
31	丘陵	加治丘陵	入間市・飯能市	冷・暖温帯移行部森林植生	あり
32	丘陵	狭山丘陵	所沢市・入間市	冷・暖温帯移行部森林植生	あり
33	台地	武蔵野台地	新座市・三芳町・所沢市・狭山市・川越市・ふじみ野市	冷・暖温帯移行部森林植生	あり
34	台地	妙音沢	新座市	水生植物群落、冷・暖温帯移行部森林植生	あり
35	台地	北本自然観察公園	北本市	湿原植生、冷・暖温帯移行部森林植生	あり
36	低地	江川下流湿地	桶川市・上尾市	湿原植生、河辺植生	あり
37	低地	秋ヶ瀬公園	さいたま市	湿原植生、河辺植生	新規
38	低地	渡良瀬遊水地	加須市	湿原植生	あり
39	低地	浮野	加須市	湿原植生	あり
40	低地	宝蔵寺沼	羽生市	湿原植生	あり
41	低地	道場休耕田	さいたま市	湿原植生	新規
42	低地	田島ヶ原	さいたま市	湿原植生	あり
43	溪谷とその周辺	尾ノ内沢	小鹿野町	河辺植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規

	名 称	市 町 村	掲載された群落タイプ	前版掲載	
44	溪谷とその周辺	大久保谷	秩父市	河辺植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
45	溪谷とその周辺	惣小屋沢	秩父市	河辺植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
46	溪谷とその周辺	橋立川	秩父市	河辺植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
47	溪谷とその周辺	大血川	秩父市	河辺植生、石灰岩地植生、冷・暖温帯移行部森林植生	新規
48	溪谷とその周辺	嵐山溪谷	嵐山町・ときがわ町	河辺植生	新規
49	河川とその周辺	入間川	飯能市・狭山市・入間市・川越市・川島町	河辺植生	新規
50	河川とその周辺	高麗川	飯能市・日高市・坂戸市・毛呂山町	河辺植生	新規
51	河川とその周辺	元荒川	熊谷市・行田市・鴻巣市ほか	河辺植生	あり
52	河川とその周辺	江戸川	三郷市・吉川市ほか	河辺植生	あり
53	河川とその周辺	利根川	本庄市・熊谷市・羽生市ほか	河辺植生	新規
54	河川とその周辺	古利根川	春日部市・越谷市ほか	河辺植生	新規
55	河川とその周辺	新河岸川	川越市・ふじみ野市ほか	河辺植生	新規
56	河川とその周辺	荒川・大麻生公園	熊谷市	河辺植生	あり
57	河川とその周辺	市野川	東松山市・滑川町	河辺植生	新規
58	河川とその周辺	都幾川	ときがわ町・東松山市	河辺植生	新規
59	用水とその周辺	見沼代用水	さいたま市・川口市	河辺植生	新規
60	用水とその周辺	赤堀用水	川口市	河辺植生	新規

(7) 参考文献

- 愛川敬武・牧野彰吾・尾形一法・山下 裕 (2003) 大滝村山吹沢支流のシオジ林の植生. 埼玉生物 43 : 15. 埼玉県高等学校生物研究会
- 卜澤美久・木口博史・三上忠仁 (2000) 埼玉県川口市興禅院の森林植生. 埼玉生物 40 : 30-37. 埼玉県高等学校生物研究会
- 小川滋之 (2019) 奥武蔵, 蕨山の山頂平坦面にみられるヤエガワカンバ小林分の樹種組成と成因. 埼玉県立自然の博物館研究報告 13 : 33-38
- 小川滋之 (2022) 上武山地の急峻な尾根にみられるオノオレカンバ林の立地条件と更新様式. 植生学会誌 39 : 77-84
- 小川滋之・沖津 進 (2010) 外秩父山地におけるカバノキ林の立地環境と維持機構. 植生学会誌 27 : 73-81
- 太田和夫 (1990) 秩父地方におけるフクジュソウとセツブンソウの生育環境. 埼玉県立自然史博物館研究報告 8 : 17-32
- 環境庁編 (1988) 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査 (埼玉県). 第3回自然環境保全基礎調査. 72pp
- 環境庁自然保護局編 (1978) 特定植物群落調査報告書. 第2回自然環境保全基礎調査. 248pp
- 神沢利一 (1984) 植物群落の生態学的研究. 昭和 59 年度埼玉県研修報告書集録. 85-88
- 川西基博・崎尾 均・大野啓一 (2004) 奥秩父大山沢のシオジーサワグルミ林における林床植物の成立と地表攪乱. 植生学会誌 21 : 15-26

- ・—————・白石貴子・米林 伸・後藤真太郎(2006) 荒川中流域の河畔林における草本植生の種組成と生活型. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成17年度事業報告書. 107-112
- 木口博史・田中 実・三上忠仁・林 久顕・対馬良一(2000) 顔振峠のアカガシ林. 埼玉生物40:27-29. 埼玉県高等学校生物研究会
- 木村和喜夫・三上忠仁・山下 裕・矢島民夫・平 誠(2000) 秩父山地破風山における森林の分布と構造. 埼玉生物40:38-39. 埼玉県高等学校生物研究会
- 木左貫博光・梶幹夫・鈴木和夫(1992) 秩父山地におけるシオジ林の林分構造と更新過程. 東京大学農学部演習林報告88:15-32
- 埼玉県編(1980) 植生調査報告書. 第2回自然環境保全基礎調査. 296pp
- (1987) 荒川自然. 荒川総合調査報告書 1.722pp
- 埼玉県文化財保護協会編(1991) 記念物(天然記念物)桂木のタブノキ林. 埼玉の文化財32:55 埼玉県文化財保護協会編(1996) 記念物(天然記念物)下里のスダジイ林. 埼玉の文化財37:41
- 埼玉県環境防災部みどり自然課編(2005) 改訂・埼玉県レッドデータブック2005 植物編. 358pp
- 崎尾 均・白石貴子・後藤真太郎・米林 伸・川西基博・小林 誠・渡邊定元(2006) 荒川中流域の河畔林の構造と動態. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成17年度事業報告書. 101-106
- 佐々木 寧・太田和夫(1986) 長瀬の原植生について. 埼玉県立自然史博物館研究報告4:21-29
- ・—————(1987) 荒川のタヌキラン群集. 埼玉県立自然史博物館研究報告5:7-15
- 指村奈穂子・須田大樹・岩田豊太郎(2011) 埼玉県におけるカバノキ属9種の分布と地形・地質との関係. 埼玉県立自然史博物館研究報告5
- 四分一平内・永野 巖・黒沢代喜知・田地野武司(1967) 秩父能林蛇紋岩地域の植生. 秩父自然科学博物館研究報告14:37-40
- 島井誠司・永戸 健(1996) 埼玉県の常緑広葉樹林(Ⅱ)山地のタブノキ林について. 大東文化大学紀要(自然科学)34:147-157
- ・—————(1997) 埼玉県の常緑広葉樹林(Ⅲ)平野部のシラカシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学)35:157-167
- ・—————(1999) 埼玉県の常緑広葉樹林(Ⅳ)山地のシラカシ林. 大東文化大学紀要(自然科学)37:121-133
- ・—————(2004) 埼玉県の常緑広葉樹林(Ⅴ)ツクバネガシ優占林. 大東文化大学紀要(自然科学)42:1-15
- ・—————(2010) 奥秩父山地大持山のブナ林について. 大東文化大学紀要(自然科学)48:9-17
- ・—————(2011) 埼玉県のモミ林—暖温帯上部のモミ林について—. 大東文化大学紀要(自然科学)49:1-16
- 須田大樹(2017) 埼玉県の暖温帯域の石灰岩地で見出されたビワーアラカシ群落について. 埼玉県立自然史博物館研究報告11:35-46
- 高橋星馬・川西基博・米林 伸(2008) 荒川中流域の河畔林におけるクヌギ(*Quercus acutissima*)の更新と分布拡大機構. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成19年度事業報告書. 95-99
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編(2006) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006 植物篇. 37-222. 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 田村説三(1976) 埼玉県の森林植生. 埼玉生物16:3-6. 埼玉県高等学校生物研究会
- (1978) 埼玉県の植生. 埼玉県動物誌. 11-18. 埼玉県教育委員会
- ・ト沢美久(1972) 埼玉県西部山地低山帯の森林植生について. 昭和46年度埼玉県動

- 物誌基礎調査報告. 96-107. 埼玉県教育委員会
- (1994) まぐさ場 (稗場) の植生とまぐさ場起源の二次林. 埼玉県立自然史博物館研究報告 12 : 73-82
- 田中 実・平 誠・三上忠仁 (2003) 大滝村南天山コメツガ林の植生. 埼玉生物 43 : 16. 埼玉県高等学校生物研究会
- 永野 巖 (1973) 越生町梅園神社のスダジイ林. 秩父自然科学博物館研究報告 17 : 87-94
- (1973) 埼玉県の植生. 埼玉の文化財 13 : 4-31. 埼玉県文化財保護協会
- (1980) 埼玉県の森林植生 (予報). 埼玉県市町村誌 20 : 64-126. 埼玉県教育委員会
- (1985) 見沼斜面林試論. 見沼田圃論集 2 : 7-21. 埼玉県
- (1986) 埼玉の風土と森林. 「新編埼玉県史別編 3 自然」. 253-455. 埼玉県
- (1990) 埼玉四季の植物. 310pp. 埼玉新聞社
- ・加藤静江 (1982) 遺跡及び周辺の植生. 寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 (自然遺物編). 19-58. 埼玉県教育委員会
- ・—— (1985a) 埼玉東部平野におけるシラカシ林の遷移をめぐって. 群落研究 2 : 15-25
- ・—— (1985b) 天然記念物「武甲山石灰岩地特殊植物群落」追加指定地域の植生. 天然記念物「武甲山石灰岩地特殊植物群落」追加指定地域の地質と植生. 21-130. 横瀬町教育委員会
- ・—— (1986) 埼玉県の植生. 日本植生誌 7 関東. 479-484. 至文堂
- ・——・木口博史・太田和夫 (1986) 関東地方石灰岩植生覚えがき (4) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 22 : 259-285
- ・——・斎藤弥吉・森屋弘一 (1978) 二子山石灰岩地の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 14 : 65-121
- ・——・鈴木悦子・丸山道子 (1982) 関東地方石灰岩植生覚えがき (3) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 18 : 167-203
- ・栗原栄子・柿沼珠枝 (1977) 秩父山地亜高山帯石灰岩地の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 13 : 1-22
- ・永戸 健 (1971) 両神山のコメツガ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 7 : 21-30
- ・——・岸田喜代美・大槻礼子 (1975) 中津川流域の植生. 滝沢ダム環境調査報告書 351-107. 国土開発技術研究センター
- ・大垣晃一 (1975) 武甲山石灰岩地域の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 10 : 35-76
- ・——・永戸 健 (1974) 大山祇神社のウラジロガシ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学) 9 : 57-65
- ・——・——・田村説三・清水 誠 (1976) 武甲山石灰岩及びその周縁地域に発達する森林植生. 石灰石鉱山緑化対策に関する研究 (第2報). 東京通商産業局・石灰石鉱山緑化対策研究委員会. 82-100
- ・佐々木寧・加藤静江 (1984) 埼玉県見沼田圃周辺斜面林の分布と生態. 見沼田圃周辺斜面林等保全基礎調査報告書. 1-59. 埼玉県
- ・四分一平内・田地野武司 (1966) 秩父釜伏山蛇紋岩地域の植生. 秩父自然科学博物館研究報告 13 : 7-17
- ・——・——・黒沢代喜知 (1967) 秩父山地のアカマツミツバツジ群集について (仮称). 秩父自然科学博物館研究報告 14 : 41-54
- ・田嶋勝己 (1973) 埼玉県における二次林植生としてのアカマツ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 8 : 53-72
- ・田地野武司 (1973) 埼玉県のモミ林について (予報). 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 8 : 73-82

- ・立石幸敏・大塚 明 (1980) 関東地方石灰岩植生覚えがき (1) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 16: 1-26
- 永戸 健 (1978) 顔振峠のアカガシ林について. 大東文化大学紀要 (社会・自然科学) 16: 99-110
- (1988) 岩殿丘陵に発達するアカマツ林について. 大東文化大学教養課程創立 20 周年記念論文集. 403-414
- ・永野 巖 (1971) 秩父鉦山地域に発達するヒノキ林. 秩父自然科学博物館研究報告 16: 49-56
- ・—————・四分一平内 (1978) 井戸山の森林植生. 秩父自然科学博物館研究報告 18: 43-55
- ・島井誠司 (1995) 埼玉県の常緑広葉樹林 (I) 山地のスタジイ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 33: 139-150
- ・————— (1998) 奥武蔵、子の山のブナ林. 大東文化大学紀要 (自然科学) 36: 153-172
- ・————— (1999) 奥武蔵、顔振峠のブナを含むアカガシ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 37: 135-143
- ・————— (2000) 比企郡小川町、愛宕山に残存するスタジイ巨樹林. 大東文化大学紀要 (自然科学) 38: 111-119
- ・————— (2001) 飯能市吾野の高麗川左岸急傾斜地に発達するケヤキーアラカシ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 39: 45-54
- ・————— (2002) 岩殿丘陵に発達するコナラ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 40: 11-25
- ・—————・永野 巖 (1988) 関東地方西北部山地のカシ林 (I) アカガシ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 26: 157-171
- ・—————・————— (1988) 関東地方西北部山地のカシ林 (II) 秩父山地のアラカシ林とシラカシ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 27: 179-208
- 内藤ふみ (1979) 荒川流域のヤナギ群落について. 立教大学修士論文. 1-40
- 仲谷貴志・米林 伸・川西基博 (2009) 荒川中流域の河畔草地における火入れが希少種 (イヌハギ、カワラナデシコ) に及ぼす影響. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター (ORC) 整備事業 平成 20 年度事業報告書. 136-143
- 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編 (1996) 植物群落レッドデータ・ブック. 1344pp. アボック社出版局
- 長谷川 寛・厚澤正治・清水保典・高橋勝緒・高橋絹世・長澤義則・古橋光弘・若山正隆・太田和夫 (2003) 埼玉県下流域ハンノキ林の遷移. 埼玉県立自然史博物館研究報告 20・21: 35-48
- 日高町史編集委員会・日高町教育委員会編 (1991) 日高町史 自然史編. 530pp. 埼玉県日高町日高市教育委員会編 (1992) 日高町史自然史編 調査記録集. 192pp. 埼玉県日高市
- 前田禎三・島崎芳雄 (1951) 秩父山岳林植生の研究 (第 1 報). 東京大学農学部演習林報告 39: 171-184
- ・吉岡二郎 (1952) 秩父山岳林植生の研究 (第 2 報). 東京大学農学部演習林報告 40: 129-150
- 牧野彰吾・木村和喜夫・三上忠仁・矢島民夫・山下 裕・田中 実・市川嘉一・石川好夫・斉藤弥吉 (2002) 秩父山地・和名倉山の植生. 埼玉生物 42: 21-24. 埼玉県高等学校生物研究会
- ・矢島民夫・山下 裕・田中 実・市川嘉一・斉藤弥吉・石川好夫・三上忠仁 (2002) 奥秩父・入川東大演習林の植生. 埼玉生物 42: 27. 埼玉県高等学校生物研究会
- ・金子修史・植田春美・細川佳代・三上忠仁 (2003) 笠山の植生. 埼玉生物 43: 13-14. 埼玉県高等学校生物研究会
- 宮脇 昭・奥田重俊・井上香世子 (1975) 埼玉県南東部の植生. 86pp. 埼玉県

- ・佐々木寧・飯野和子（1976）比企丘陵の植生. 横浜植生学会報告 5.47pp
- 村上雄秀・宮脇 昭（1988）秩父地方のイヌブナ、ブナ林について. 横浜国大環境研紀要 15 : 103-117
- ・————（1989）秩父地方の常緑広葉樹林について. 横浜国大環境研紀要 16 : 95-105
- ・————（1990）秩父山地のヒノキ林について. 日生態会誌 40 : 85-94
- 諸町太陽・川西基博・米林 伸（2007）火入れが荒川中流域のオギ群落に及ぼす影響. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター（ORC）整備事業 平成 18 年度事業報告書. 117-120
- 山下 裕・木村和喜夫・金子修史・三上忠仁・平 誠・石川好夫・木口博史（2001）釜伏山蛇紋岩地域の森林植生. 埼玉生物 41 : 6-10. 埼玉県高等学校生物研究会